

2	国際経済会議準備委員会（第一次）	530
3	オタワ英連邦経済会議	548

日本外交文書
昭和期Ⅱ第二部第一卷
 （昭和七年対欧米・国際関係）
 日付索引

一 国際連盟一般軍縮會議*

1 昭和7年1月30日 在ジュネーヴ軍縮全權より
 芳沢（謙吉）外務大臣宛（電報）

一般軍縮會議の開催について

付記一 「一般軍縮會議帝國全權委員ニ對スル訓令」

二 「一般軍縮會議帝國全權委員ニ對スル訓令案
 一般方針第五號第二項ニ關スル覺」

ジュネーヴ 1月30日後発
 本省 1月31日後着

軍第一號

⁽¹⁾ 三十日午后佐藤「ドラモンド」ト會見ノ際「ド」ハ左ノ通
 内話セリ

軍縮會議ニ關シ「ヘンダーソン」ト意見ヲ交換セルカ開會
 後議長ノ演說ニ次キ直ニ着手スルコトハ全權狀審査委員會
 議事規則ニ關シ小委員會及各方面ヨリ提出セラレタル請願
 ノ審査ヲ爲ス委員會ヲ設クルコトニシテ請願委員會ハ請願
 ヲ受理スヘキヤ否ヤノ豫備的審査ヲ爲ス機關トシタキ考ナ

リ依テ一般討議ハ八日ノ月曜ヨリ開始スルコトナルヘク
 現在ニテハ最初ノ兩三日中ニ發言ヲ望ム向可成リ多キ模様
 ニテ大國ハ總テ第一週ニ演說スヘキニ付日本モ其ノ積リニ
 テ準備セラルルコト可ナルヘシ

⁽²⁾ 自分ハ四五週間前ニハ會議ノ前途ニ對シ非常ノ悲觀ヲ感シ
 タルモ現在ニテハ凡テノ方面ニ於テ何等カノ結果ニ達セン
 トスル希望高マリツツアリトノ印象ヲ得佛國ノ如キサヘ如
 何ニ纏ルヘキヤノ見極メハ付カサルモ何等カノ結果ヲ納メ
 度シトノ希望ヲ持合セ居ルモノノ如ク獨逸ノ態度モ豫期程
 ニハ強硬ニハ非サルカ如シ一般討議ハ相當ニ長引ク見込ナ
 リ尙幹部會ハ不取敢議長及副議長（七大國及七小國即チ目
 下ノ處波蘭西班牙亞爾然丁瑞典又ハ丁抹奧太利「ブルガリ
 ア」「ハンガリ」ノ内一國白耳義希臘又ハ「チエッコスロ
 ヴァキア」ヲ以テ組織シ之ニ委員會カ設置セラルルニ從
 ヒ議長ヲ總會ニ於テ選舉シ之ヲ幹部會ニ加フル事トス而シ
 テ委員會議長ト總會副議長トハ必スシモ別人タルヲ要セス

(付記一)

一般軍縮會議帝國全權委員ニ對スル訓令

一 般 方 針

- 一、今次ノ會議ニ於テ帝國政府ノ目的トスル所ハ我國防ノ安固ヲ確保スル範圍内ニ於テ參加各國間ニ一般軍備ノ制限縮少ヲ協定シ内ハ爲シ得ヘクハ國民負擔ノ輕減ヲ圖リ外ハ各國間ノ平和親交ヲ増進セントスルニ在リ
- 二、帝國陸軍軍備ハ已ニ自衛ノ必要ニ基ク最少限度ニ縮少セラレアルヲ以テ之ヲ制限シ若ハ現狀以下ニ縮少スルハ合理且公正ナル法則ノ確立、蘇支兩國ノ完全ナル加盟竝ニ其ノ誠實ナル條約ノ履行ヲ前提トス
- 三、陸軍軍備ニ關シテハ蘇支兩國ノ國情竝ニ軍備ノ特質就中其ノ條約履行ノ信ヲ置キ難キ實情ニ鑑ミ帝國ハ其ノ獨自ノ立場ヲ拘束セラレサル範圍ニ於テ兩國ニ對抗スル各國ト密接ニ協力シ蘇支兩國ノ軍備ヲ拘掣スルニ努ムヘシ而シテ制限就中縮少ニ當リ蘇支兩國ノ誠實ナル條約實行ヲ確認シ得サルニ先チ我陸軍軍備ノミ一方的

ニ制限縮少セラルルカ如キハ帝國トシテ到底忍ビ難キ所ナルニ鑑ミ之カ防止ノ爲百般ノ方策ヲ講セラルヘシ

四、帝國海軍軍備ノ要旨ハ西部太平洋方面ニ於テ或ル一國ノ使用スル海軍兵力ニ對抗シ得ルト共ニ隣接國ニ備ヘ以テ我國土ノ安全ヲ期シ且帝國ノ特殊國情ニ基キ國家存立ニ必要ナル海上交通線ヲ防護スルニ足ル兵力ヲ確保シ尙之カ維持運用ニ支障ナカラシムルニ在リ

五、華府海軍軍備制限條約中主力艦及航空母艦ニ關スル條項ノ改訂ハ帝國ノ希望スル所ナリト雖モ防備現狀維持ニ關スル條項ハ之ヲ改變セサルヲ要ス

千九百三十年「ロンドン」海軍條約ノ内容ニ就テハ補助艦保有量其ノ他ニ關シ帝國ノ要求ヲ充足セサルモノアルヲ以テ新ニ協定セラルヘキ條約ニ於テハ之カ解決ヲ要スルハ勿論ナルモ尙「ロンドン」海軍條約有效期間内ト雖モ帝國協定兵力量ノ改變ハ帝國ノ衷心希望スル處ナルヲ以テ有ラユル機會ニ善處シ極力我要求ノ貫徹ニ努メラルヘシ

六、前號第二項ニ關聯シ補助艦ニ關スル佛國ノ要望ハ帝國ノ要望ト相似タル點アルヲ以テ佛國保有兵力量ニ關ス

ル交渉ニ對シテハ特ニ注意ヲ加ヘ之カ利用ニ努メラルヘシ

- 七、佛伊兩國海軍ノ保有兵力量ノ協定ニ當リテハ主要海軍國間ニ於ケル我海軍兵力ノ相對的地位ヲ低下セサル如ク留意セラルヘシ

- 八、主要海軍國以外ノ各國海軍ノ保有兵力量協定ニ當リテハ國際間ニ於ケル各國兵力ノ相對的關係ノ現狀ニ大ナル變化ヲ及ホササル限リ大勢ニ順應セラレ差支ナシ但シ蘇支兩國ノ保有海軍兵力ハ是等兩國カ帝國ニ隣接シ且其ノ國情特異ナルニ鑑ミ國防上帝國ノ特ニ關心ヲ有スル所ナルヲ以テ兩國ノ兵力量ハ其ノ現狀ヲ標準トシテ協定スルニ努メ若シ兩國ノ協定兵力量ニシテ現狀以上ニ著シク増大セラルル場合ニハ帝國海軍ノ協定兵力ニ相當ノ増加ヲ必要トスルヲ以テ極力此ノ情勢ニ導カサル如ク努メラルヘシ

- 九、今次ノ會議ニ依リ協定セラルヘキ條約ニ於テ海軍軍備制限ニ關シ主要海軍國、蘇國又ハ支那ノ保留又ハ不調印等ハ帝國ノ利害ニ影響スル所頗ル大ナルヲ以テ帝國ニ不利ヲ及ホスコトナキ様深甚ノ考慮ヲ致サルヘシ

十、航空軍備ノ制限ニ當リテハ帝國ノ航空軍備カ陸軍及海軍共ニ今尙整備ノ途上ニアルコトニ關シ特ニ留意セラルヘシ

十一、軍備ハ單ニ正規ノ兵力ノミナラス軍隊的組織團體、民間航空及商船隊等戰時容易ニ兵力トシテ使用シ得ルモノ竝ニ資源及工業力等ノ潛在勢力亦孰レモ其ノ要素ヲナスモノナルトコロ帝國ハ是等諸要素ニ於テ他ノ列強ニ比シ劣ル所アルニ鑑ミ軍備ノ制限縮少ヲ協定スルニ當リテハ特ニ右ノ事情ヲ考量セラルヘシ

十二、軍備休止ノ協定ハ之ヲ避クルヲ要ス但シ海軍ニ關スル軍備休止ニシテ我既定計畫ノ遂行ヲ妨ケス且其ノ期間昭和八年度迄ナルニ於テハ帝國ハ之カ協定ニ應スルノ用意アリ

十三、今次ノ會議ニ於ケル帝國ノ主張及態度ハ會議ノ歸趨如何ニ拘ラス將來ノ軍縮會議ニ影響スル所重大ナルヘキニ鑑ミ將來ニ於ケル帝國ノ地歩ヲ有利ナラシムルコトニ努メラルヘシ

十四、今次ノ會議ニ於テ帝國ハ妄リニ東洋以外ノ政治的諸問題ニ關與セサルト共ニ他國ヲシテ太平洋及極東問題

ニ容喙セシメサルコトヲ旨トスヘシト雖モ東亞特ニ滿蒙ニ於ケル帝國ノ特殊ノ地位ハ各國ヲシテ愈々明確ニ之ヲ認識セシムルコトニ努メラルヘシ

十五、軍備ノ制限縮少ニ關係アル事項ニ付從來帝國政府ヨリ國際聯盟總會帝國代表、軍縮會議準備委員會帝國代表又ハ關係國駐在帝國使臣ニ與ヘタル訓令ハ本訓令ニ依リ改變セラレタルモノヲ除クノ外依然之ニ準備セラ

ルヘシ
尙本訓令ノ趣旨ニ據リ難キ諸事項ニ關シテハ豫メ請訓セラルヘシ

十六、敘上ノ趣旨ニ則リ左記方針ニ遵ヒ又陸海軍専門事項ニ關シテハ常ニ當該首席隨員ノ意見ヲ徵シ機宜折衝セラレ本會議ニ對スル帝國ノ目的ヲ達成スルコトニ努メラルヘシ

尙今次會議ノ本質竝ニ範圍ニ鑑ミ全權委員及隨員相互ノ連繫ヲ特ニ緊密ナラシムルコトニ努メラルヘシ

記

第一 人、機材及經費

陸軍ノ部

	飛行機數	總馬力
練習用機ヲ含ム場合	一、五〇〇	約一、〇五、五〇〇馬力
同右ヲ含マサル場合	一、四〇〇	約九八、〇〇〇馬力

現狀制限ノ場合ニ於テ飛行機數及總馬力數ノ受諾シ得ヘキ最低制限額左ノ如シ

練習機ヲ制限ニ含マシムヘキヤ否ヤハ會議ノ狀勢ニ應シ決定スルモノトス

五、軍費ノ制限ハ三軍一括ヲ可トスルモ情勢ニ依リ三軍別ノ方式ヲ採用スルモ差支ナシ而シテ現狀制限ノ條件ノ下ニ三軍別ニ依ル場合ニ於テ陸軍軍費、同器材費及陸軍航空軍費ノ受諾シ得ヘキ最低制限額左ノ如シ

陸軍軍費年額二億三千八百萬圓（陸軍航空軍費ヲ含マス）

陸軍器材費年額七千二百五十萬圓

陸軍航空軍費年額八千萬圓

以上超過率 約十%

海軍ノ部

六、兵力量

一、陸軍軍備ノ制限ニ對スル帝國ノ方針ハ軍備ヲ現狀ニ制限スヘキ條件ノ下ニ於テハ陸軍人員（航空ヲ除ク）ニ關シテハ概ネ現有量ヲ保有シ航空、軍費及器材費ニ關シテハ將來ニ於ケル充實改善ノ自由ヲ確保シ得ヘキ制限數量ヲ主張獲得スルニ在リ

軍費制限ハ從來ノ主張ニ拘ラス之ヲ受諾シテ差支ナシニ、陸軍人員（憲兵ヲ除ク）ニ關シテハ概ネ條約案ニ於ケル制限ノ規準ヲ受諾シテ差支ナク現狀制限ノ場合ニ於テハ日割平均人員二十五萬ヲ以テ受諾シ得ヘキ最低制限兵額トス

憲兵ヲ軍隊的組織團體ニ包含セシムヘキヤ否ヤハ會議ノ情勢ニ應シ決定シテ差支ナク其ノ主張スヘキ制限兵額ハ日割平均人員約七千トス

三、陸軍航空人員制限ノ規準ハ陸軍人員ニ準シ現狀制限ノ場合ニ於テハ日割平均人員一萬七千ヲ以テ受諾シ得ヘキ最低制限兵額トス

四、飛行機ノ制限ヲ受クヘキ範圍ハ學校及軍隊ニ支給セル飛行機トシ直接豫備ハ萬已ムヲ得サル場合ノ外之ヲ認メサルモノトス

主要海軍國ノ兵力量カ華府海軍軍備制限條約及「ロンドン」海軍條約ニ依ル協定量ト大差ナク且隣接國ノ海軍力カ現狀ト大差ナキ限り今次ノ會議ニ於テ準據スヘキ帝國海軍兵力（機材）概ネ左ノ如シ

(1) 艦 船

既存條約ニ依ル我保有量（左記）中主力艦及航空母艦ニ就テハ下記第七號(一)及第八號(一)ニ準據シ之カ相對的縮減ヲ行ヒ補助艦ニ就テハ下記第九號ヲ目途トシ之カ改變ヲ要ス

(記)

艦種	日	米	比率	記事
華府海軍主力艦	三五、〇〇〇	五五、〇〇〇	六	括弧内ハ「ロンドン」條約ニ依ル保有量ヲ示ス
軍備航空母艦	八一、〇〇〇	一五、〇〇〇	六	括弧内ハ米カ選擇權ヲ全部行使シ甲級巡洋艦ヲ十五隻ニ止メタル場
條約甲級巡洋艦	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	六、三	
「ロンドン」乙級巡洋艦	一〇〇、〇〇〇	一三、五〇〇	七、三	

海軍驅逐艦	一五、五〇〇	一五、〇〇〇	七、三	合ヲ示ス
條約潛水艦	五、三〇〇	五、〇〇〇	一〇〇	
補助艦計	三、七〇〇	五、一〇〇	六、五	
		(五、一七〇)	(七、五)	
合計	二四、〇〇〇	一、一六、二〇〇	六、三	
		(一、一〇、四〇〇)	(七、五)	

(ロ) 海軍航空兵力

既存條約ニ依ル保有艦船ニ搭載セラルヘキ飛行機及海軍沿岸航空兵力左表ノ如シ但シ前者ハ保有艦船ノ縮減又ハ搭載機數ノ制限ニ伴ヒ其ノ量ヲ減ス

(表)

航空機	基數	馬力(容積)	記 事
航空母艦及其ノ他ノ軍艦用	四一	二六、〇〇〇	既存條約ニ依ル帝國保有艦船ニ對スルモノ
海軍沿岸航空隊用	八五	一〇、〇〇〇	練習機(三〇機、一〇、〇〇馬力)及實驗機ヲ含マス
合計	一二六	一、〇一、〇〇〇	

飛行船	三	一〇、〇〇〇
	(容積四〇〇〇立方米)	

甲、海軍機材(海軍航空ヲ除ク)

七、主力艦

(一) 主力艦ノ廢止又ハ既存條約ニ定ムル隻數ノ減少ニハ同意セス

(二) 主力艦ノ艦型縮少ニ依リ各國相對的ニ保有量ヲ縮減ス

(三) 主力艦ノ艦齡ヲ延長シ代換期間ヲ伸長ス但シ代換開始期ノ延期ニハ同意シ難シ

八、航空母艦

(一) 航空母艦ハ各國相對的ニ極力之ヲ縮減ス

尙(二)ノ協定成立ヲ條件トシ各國共ニ航空母艦ヲ廢止スルハ帝國ノ希望スル所ナリ

(二) 航空母艦以外ノ艦船ニ航空機着艦用ノ臺又ハ甲板ヲ裝備スルコトハ之ヲ禁止ス

九、補助艦

(一) 甲級巡洋艦ハ少クトモ對米七割ヲ保有ス

十三、艦載航空兵力

艦載航空兵力ハ左記ニ依リ極力之ヲ縮減ス

(一) 航空母艦搭載飛行機ハ航空母艦ノ縮減ト關聯シ之ヲ縮減ス

(二) 航空母艦以外ノ軍艦搭載飛行機ヲ制限ス

十四、海軍沿岸航空兵力

海軍沿岸航空兵力ハ一般方針第四號ニ基キ其ノ所要量ヲ保有ス

丙、海軍人員

十五、人員及勤務期間

(一) 帝國ノ保有人員ハ本會議ニ依リ協定セラルヘキ各種機材及海軍諸機關ノ所要ニ適應スルヲ要ス

又制限上人員ト機材トノ間ニ一定ノ比例ヲ認メス
(二) 徴兵ノ勤務期間ニ關シテハ帝國兵役法ノ規定ニ依リ期間ヲ以テス

丁、海軍經費

十六、經費制限

(一) 經費制限ハ人員及機材制限ノ補足タラシムヘキモノニシテ經費ノミニ依ル軍備制限ニハ遽ニ同意シ難シ

(二)制限ノ方式ハ三軍一括ヲ可トスルモ情勢ニ應ジ三軍

別ニ依ルコトトシ差支ナシ

(三)制限額ハ本會議ニ依リ協定セラルヘキ各種人員機材
及海軍諸機關ノ維持建設ニ要スル經費竝ニ内容充實
及術力向上ニ要スル經費ノ額ヲ下ラサルヲ要ス

(四)災害事變等ノ場合制限額ノ修正方法ヲ協定ス

第二、報道ノ交換

十七、報道ノ交換ニ關シテハ概ネ條約案ノ採擇ニ同意シ差
支ナキモ陸軍ニアリテハ主義トシテ機材及領土別人員
ノ公表ヲ留保ス

第三、化學兵器

十八、化學兵器ニ關シテハ其ノ制限ノ範圍ヲ成ルヘク擴張
シ且條文ヲ明確ニシ之カ履行ヲ確實ナラシム
尙本件ニ關聯シ航空機ニ依ル都市ノ攻撃禁止ヲ協定ス

第四、一般規定

十九、常設軍縮委員會

(一)常設軍縮委員會ニ關シテハ條約案ノ採擇ニ同意シ差
支ナキモ其ノ組織及權限ヲ擴大スルコトニハ反對ス
(二)常設軍縮委員會ノ委員選出國ハ之ヲ締約國ノ一部ニ

制限スルヲ可トス

二十、除外例

除外例ニ關スル條約案第五十條ノ規定ヲ明確ナラシメ
且締約國以外ノ國ノ軍備擴張、他締約國ノ條約不履行
及其ノ他ノ理由ニ依リ脅威ヲ蒙ル場合ニモ同條ヲ適
用シ得ル如クス

二十一、既存條約トノ關係

(一)條約案第五十三條ハ趣旨ニ於テ之ヲ認ムルモ本會議
ニ依リ協定セラルヘキ條約中既存條約ノ規定ニ比シ
一般方針第四號ニ適合スルモノハ關係國間ニ協議ヲ
遂ケ速ニ之カ實施ニ支障ナカラシム

(二)「ロンドン」海軍條約第二十三條ノ規定ニ依ル千九
百三十五年ノ會議ノ開否ニ付テハ本會議ノ情勢ニ應
シ我態度ヲ決定ス

二十二、批准

條約案第五十五條中條約ノ實施ニ關シテハ

(一)陸軍事項ニ就テハ一般方針第三號ノ趣旨ニ基キ蘇支
兩國ノ批准書寄託ヲ條件トス
(二)海軍事項ニ就テハ少クモ主要海軍國ノ批准書寄託ヲ

條件トシ蘇支兩國ノ批准書寄託ヲ條件トスヘキヤ否
ヤニ關シテハ本會議ノ成果ニ依リ考慮ス

二十三、條約有効期間

本會議ニ依リ協定セラルヘキ條約ノ有効期間ハ帝國國
防上ニ及ホス影響ヲ慎重考慮ノ上定ムヘキモノナルモ
主義トシテ短少ナルヲ可トス特ニ海軍ニ關シテハ若シ
帝國ノ要求ヲ満足シ得ヘキ協定ニ達シ得サル場合ニ於
テハ其ノ拘束力ヲ有スル期間ハ千九百三十六年末ヲ越
エサルヲ要ス

(付記二)

+ 一般軍縮會議帝國全權委員ニ對スル訓令案一般方針
第五號第二項ニ關スル覺

(一)千九百三十年「ロンドン」海軍條約ノ内容ニ就テハ補助
艦保有量其ノ他ニ關シ帝國ノ要求ヲ充足セサルモノアル
ヲ以テ今次ノ會議ニ於テハ帝國協定兵力量其ノ他ニ付帝
國ノ要求ヲ充足シ且相當期間有效ナル協定ニ達スルコト
帝國政府ノ最モ希望スル所ナルヲ以テ右目的達成ノ爲極
力努力スルコト但シ我方ノ努力ニ拘ラス右目的達成ノ見

込立タサル場合ニ於ケル措置ニ關シテハ請訓ヲ待ツテ之
ヲ決スルモノトス

(二)會議ノ情勢我要求ノ貫徹至難ナル場合ニ於テハ新條約ノ
拘束期間ヲ千九百三十六年末ヲ越エサラシメ且千九百三
十五年ニ於テ會議ヲ開催スルコトトシ該會議ニ於テ主張
スヘキ我方要求ヲ充分徹底セシメ我方地歩ノ確立ニ努ム
ルコト

(三)今次ノ會議ニ於ケル佛、伊兩國ノ補助艦保有量ニ關スル
要求如何ニ依リテハ「ロンドン」海軍條約第二十一條ノ
規定ニ拘ラス進テ我主張貫徹ニ努ムルコト

2 昭和7年2月2日 在ジュネーヴ軍縮全權より
芳沢外務大臣宛(電報)

上海事變の拡大が一般軍縮會議における日本
の立場に及ぼす影響について

ジュネーヴ 2月2日後発
本 省 2月3日前着

軍第四號(大至急、極秘)
今二日ノ壽府新聞ニ日本軍艦南京砲撃ノ上海路透電報掲載

セラレ軍縮會議開會ノ當日ノコトトテ可成ノ「センセイシ
ヨン」ヲ惹起セリ本全權等ノ觀ル所ニ依レハ上海南京方面
ノ事態ヲ之以上擴大スルニ於テハ理事會ハ更ナリ軍縮會議
ニ於ケル日本ノ立場頗ル困難ニ陥リ收拾スヘカラサルニ至
ル無キヲ虞ル申ス迄モ無キ儀乍ラ右ノ點政府ニ於テ篤ト御
考量相成度爲念申進ス
支ヘ轉電セリ

3 昭和7年2月2日 在ジュネーヴ軍縮全權より
芳沢外務大臣宛(電報)

一般軍縮會議開会式での極東事情にも言及し
た議長演説について

ジュネーヴ 2月2日後発
本省 2月3日後着

軍第六號

軍縮會議第一回本會議ハ二日午後三時半開會ノ筈ナリシ處
急ニ往電第三八號理事會ノ開會ヲ見タル爲豫定ヨリ約一時
間遅レ開會「ヘンダーソン」議長席ニ着キ直ニ大要左ノ如
キ開會ノ辭ヲ述ヘタリ

(二)議事規程委員會(澤田公使参加)

(三)請願審査委員會

ノ構成ヲ決シ前記三委員會ハ何レモ三日開催六日午前臨時
本會議ヲ開キ請願ヲ受ク可キ事トシ六時過キ散會セリ

4 昭和7年2月3日 芳沢外務大臣より
在ジュネーヴ軍縮全權宛(電報)

今次會議で締結されるべき軍縮条約中海軍関
係条項の有効期限に関する英国覚書への我が
方態度について

付記 一月二十二日発在英国松平(恒雄)大使より芳
沢外務大臣宛電報軍第五号
右英国覚書要旨

暗軍第一號 極秘 本省 2月3日発

一 國際連盟一般軍縮會議
在英大使發本大臣宛電報軍第四號及第五號ニ關シ
英國側覺書ニ關シテハ未タ同國政府ヨリ正式ニ申出テ來タ
ラサルニ付當方ニ於テモ別ニ回答ヲ爲シオル次第ニハアラ
サルモ我方ノ態度御參考マテ電報ス

本會議開會及當任議長就任ノ次第ヲ極メテ簡單ニ敘シタル
後直ニ極東ノ事情ニ就キ

Before passing on to my main subject I fell bound to
refer to tragic fact that at moment when this confer-
ence very purpose of which is to take further steps
towards maintenance of peace begins its work we are
confronted with situation of such extreme gravity as
that which now exists in Far East.

It is imperative that all signatories of Covenant of
League of Nations and Briand Kellogg Pact should
make it their business to ensure strict observance of
these two great safeguards against acts of violence
and War.

ト述ヘ會議ノ目的ト之ニ處ス可キ參加國ノ覺悟ヲ述ヘ轉シ
テ聯盟成立當初ヨリ最近ニ至ル迄ノ軍縮、安全、仲裁ノ三
方面ヨリ見タル聯盟内外ニ於ケル努力ノ跡ヲ詳述シタル後
本會議ノ責任ノ重大ナル所以ヲ説キ一時休會ヲ宣セリ再開
後

(一)資格審査委員會

一、帝國政府ハ倫敦海軍條約ニ依ル兵力力量ヲ以テ一九三六
年末以後ニ亘リ拘束ヲ受クルコトハ絕對ニ容認シ能ハサ
ル所ナリ、倫敦條約ノ調印ニ際シ帝國全權ノ聲明セルカ
如ク同條約ハ日英米三國間ノ關係ニ於テ一九三六年末迄
ノ暫定的ノモノナルト共ニ同條約ニ依ル一九三五年ノ會
議ニ於テハ帝國ノ主張ヲ何等拘束セサルモノナルコトヲ
前提トシテ之ヲ批准シタルモノニシテ帝國政府トシテハ
遅クトモ該會議ニ於テハ本來ノ要求ヲ主張シ之カ貫徹ヲ
期セントスルモノナリ

右様ノ事情ニ基キ帝國政府ハ假令一九三六年末迄ノ期間
ト雖倫敦條約兵力量ヲ英米兩國以外ノ國ニ迄モ約束シ置
クコトハ一九三五年ノ會議ニ於ケル帝國政府本來ノ主張
貫徹ニ有利ナラサルニ顧ミ倫敦條約ニ依ル三國ノ兵力量
ヲ其ノ儘新條約ニ挿入スルコトハ其ノ形式ノ如何ヲ問ハ
ス絕對ニ之ヲ容認シ難シ

二、英國政府ノ提議ニ依レハ海軍機材ニ關スル協定ハ之ヲ
一九三六年末迄ノ暫定的ノモノトナシ倫敦條約ニ依ル一
九三五年ノ會議ノ結果必要アレハ全海軍國ヲ召集シテ會
議ヲ開催スヘシトナシ輕ク取扱ヒ居レルモ一度新條約ヲ

軍第五號⁽¹⁾
(編註)
(極秘)
覺書要旨

(付記)

帝國政府ハ寧ロ倫敦條約ヲ離レ各國ノ現狀ヲ主トシテ國情ニ照シ公正ニシテ現實ニ即シタル基礎ノ下ニ協定スヘキヲ適當ト認ムルモノナリ、英國政府ハ今次ノ會議ニ於テ海軍機材ニ關シ一九三六年末以後ノ事態ヲ律スル制限ヲ作ラントスルニ於テハ益々事態ヲ紛糾セシムルモノトナシ一切之ニ觸レサラントスルモ帝國政府ノ見解ニ依レハ倫敦條約兵力量ハ帝國トシテ將來同條約ニ代ルヘキ條約ニ於テ解決ヲ要スルモノナルヲ以テ今次會議ノ本質並ニ今次會議ノ開催ハ倫敦條約ニ依ル一九三五年ノ會議ニ代リ得ヘキコトヲ豫見セラルルニ鑑ミ此際一舉ニ解決シ置クニアラサレハ將來ノ會議ニ於テ一層事態ヲ紛糾セシメ解決ヲ益々困難ナラシムルモノト認ム

米、佛、伊ヘ轉電アリ度シ

ロンドン 1月22日前發
本省 1月23日前着

締結シタル以上實際ニ於テハ今次同様締約國全部ノ大會議ニ依ルニアラサレハ本問題ノ解決ハ期シ得ラレサルヘシ。英國政府ノ右様見解ハ一九三五年ノ會議ニ於テ倫敦條約兵力量ヲ變更セサルコトヲ暗示セルヤニモ思考セラレ帝國政府トシテモ最モ警戒ヲ要スル所ナリ

三、英國政府ハ今次協定セラルヘキ一般軍縮條約ニ於テ海軍機材ニ關スル制限問題ノミヲ別個ニ取扱フコトヲ前提トナシ居ルモ陸海空ノ三軍ニ亘リ軍備ノ一切ヲ制限セントスル今次ノ會議ニ於テハ三軍相關聯シテ協定セラルヘキ筋合ノモノナルヲ以テ海軍問題ノミヲ他ト切離シ別個ニ解決セントセハ實際上各種ノ困難ヲ生スルノミナラス將來一國カ海軍機材ニ關シテ改變ヲ要求スル場合之ニ相關聯シテ他國ノ海軍機材ハ勿論陸空軍兵力ニ關シテモ問題ヲ惹起スヘキハ當然ノ歸趨ナリ他方前述ノ通り英國政府ノ提議ニ依レハ一九三五年ノ會議開催セラレ同會議ノ結果如何ニ依リ今次成立スヘキ一般軍縮條約ニ改變ヲ要スル場合ニハ全海軍國ヲ召集シ問題ヲ解決セントスルモノナル處斯クテハ一九三五年ニ於テ倫敦條約關係國間ニ折角吾カ要望ヲ容ルル新協定成立スルモ全海軍國會議召

集ノ結果右新協定カ一般軍縮條約ノ他ノ部分ニ何等ノ影響ヲ及ホスコト無ク其ノ儘全海軍國ニヨリ承認セラルヘキヤ否ヤ確實ナラス、從テ一九三五年ノ會議ニ於ケル吾カ主張ヲ拘束セラレサルコトヲ條件トシテ倫敦條約ニ調印セル帝國政府ノ立場ハ茲ニ全然無視セラルルノ結果トナルヘシ

四、倫敦海軍條約第二十一條ハ同條約第三編ノ締約國タル日、英、米三國中ノ一國カ同條約有效期間ニ於テ右三國以外ノ國ノ新艦建造ニ依リ脅威ヲ感スル場合ニ於ケル應急的對抗處置ヲ規定シアルモノニシテ今次ノ會議ノ如ク右締約國ヲ含ム全世界ノ各國間ニ新ニ一般的軍備制限ヲ協定セントスル場合ニ適用セラルヘキモノニアラス

五、今次ノ會議ニ於テ各國ノ兵力量決定ニ關シ大ナル困難アルハ豫想ニ難カラス、然レ共英國政府所見ノ如ク日、英、米三國間ノ暫定的協定ヲ基礎トシテ他國ヲ導カントスルコトハ今次ノ會議ニ於テ協定セラルヘキ條約ノ本質ニ鑑ミ果シテ會議ノ圓滑ナル進行ヲ助クル所以ナリヤ否ヤ帝國政府ノ遽ニ同意シ能ハサル所ニシテ英國政府ノ自認セルカ如ク技術的ニ見ルモ幾多ノ難點ヲ存スルヲ以テ

先般英國大使申入レ中今次會議ノ結果締結セラルヘキ條約ノ有效期間ニ關シ日本政府ハ一般軍縮條約全体ヲ指スモノト考ヘラレタルカ如キモ英國政府ノ意圖セル處ハ單ニ右軍縮條約中海軍ノ部ノミニ關スルモノナリ而シテ一般軍縮條約ノ有效期間ヲ倫敦條約ノ有效期間ヨリ長期タラシムルコトヲ希望スル點ニ付テハ英國政府モ日本政府ト全然同感ナリ日本政府ハ其回答ニ於テ倫敦條約ノ期間ヲ延長シ一九三五年ノ會議ヲ省略スヘキコトニ贊成ナルカ如キ趣旨ヲ述ヘラレ居ルモ右ニ付テハ重大ナル異議アリ幾多ノ小國ノ相違セル主張ヲ調停スルコトノ困難モサルコト乍ラ會議開會前佛伊海軍問題ヲ解決スル見込皆無ナル情勢ノ下ニ於テハ軍縮會議ノ困難ハ多大ナルモノアルヘシ現狀ヨリスレハ倫敦條約第二一條ノ適用ヲ避クルコト能ハサルニ至ルヤモ知レサルヘク現存諸困難ヲ増加スルカ如キコトヲナササルノ肝要ナルコト云フ迄モナシ更ニ日本政府モ諒知セラレ居ルカ如ク英國政府ハ一九三〇年ノ會議ニ於テ短期間ノ協定ナルカ故ニ現存制限ニ同意シ得タルモノニシテ若シ今一九三六年以後ノ事態ヲ律スル制限ヲ作ラントスルニ於テハ益々事態ヲ紛糾セシムルコトナルヘシ

若シ倫敦條約第三編ノ締約國ニシテ一致ノ意見ノ下ニ軍縮會議ニ參加セハ他ノ諸國ヲ指導スル上ニ於テ強キ立場ヲ有スルコトナルヘキモ之ニ反シ日、英、米三國カ海軍問題ヲ再燃スルカ如キ場合ニハ右ハ極メテ困難トナルヘシ依テ英國政府ハ更ニ熟考ノ上左記ノ事項ヲ提議ス

- (イ) 華府條約及倫敦條約締結國ノ關スル限リ之等諸條約ノ條項(佛、伊ノ同意ニ依リ補足セラルルニ於テハ尙更ナリ)
- ハ一九三六年末迄ノ海軍軍備制限ヲ規律スルモノトス
- (ロ) 右期間ヨリ長期ニ亘ル條約ヲ作ルトセハ他ノ諸海軍國之ヲ商議シ一般軍縮條約ノ海軍ノ部ニ編入スヘキモノトス
- (ハ) 華府條約及倫敦條約締結國ハ倫敦條約第二十三條ニ規定セラレ居ル如ク一九三五年會議ヲ開催スヘキモノトス
- (ニ) 右會議ノ結果華府條約及倫敦條約國ノ海軍力ニ何等カノ變更考慮セラルル場合及一般軍縮條約締約國中ノ一國カ該變更ニ依リ國ノ安全ニ影響アルモノト考フルカ如キ場合ニハ右一(國)ハ全海軍國ノ會議ヲ召集スルコトヲ得尤モ一九三五年ノ條約ノ結果全海軍國ノ會議ヲ召集スルコト望マシト考ヘラルルカ如キ場合ニハ華府及倫敦條約國中ノ一國ハ之ヲ召集スル權利ヲ有スヘシ

ヘシ英國政府ハ此點ニ付改メテ日本政府ニ通報スル處アルヘキモ不取敢右ノ所見ヲ開陳ス (了)

編 注

本電報は、一月二十二日発在英國松平大使より芳沢外務大臣宛電報軍第四号の別電である。なお、同軍第四号の採録は略した。

5 昭和7年2月4日 在ジュネーヴ軍縮全權より
芳沢外務大臣宛(電報)

上海事變の事態急迫に伴う會議参加各國の対
日態度悪化について

ジュネーヴ 2月4日後発
本 省 2月5日前着

軍第八號(極秘)

⁽¹⁾ 上海南京ニ於ケル事態ノ急迫ニ伴ヒ當方面ニ於テ輿論惡化セル次第ハ往電軍第四號ノ通ナル處軍縮會議開會式ニ於ケル議長ノ挨拶ニモ劈頭日支紛爭事件ニ言及セル事並ニ同日朝英國側ノ要求ニ依リ急遽理事會開會ニ決シ其ノ爲ニハ既ニ確定セル軍縮會議ノ開會時間ヲ繰下クルヲ辭セサリシ等

⁽³⁾ 華府及倫敦條約國ヨリ一般軍縮條約ニ對スル「コンツリビユーシヨン」ノ形式ニ關シテハ英國政府ハ目下自治領ト協議中ナルモ倫敦條約第三編ノ數字ヲ右一般軍縮條約ニ挿入スルコトニ關シテハ次ノ如キ諸點ヲ充分ニ考慮セサルヘカラス

- 第一、右數字ハ一九三六年末迄ノ規定ニシテ右期日迄ニ到達セサルヘカサル噸數ヲ示スモノナリ然ルニ小海軍國ハ一般軍縮條約有效全期間中超過スヘカサル數字ヲ該條約ニ挿入センコトヲ希望ス
- 第二、若シ數字ヲ該條約ニ挿入スルコトヲ要スルモノトセハ一九三五年又ハ三六年迄ノ佛、伊海軍建造ニ關スル交渉ヲ妨害スルコトナルヘシ(「クレイギー」ハ數字ヲ明記スルトセハ伊ハ必ス佛ト同數字ヲ掲ケンコトヲ主張スルカ爲ナリト説明セリ)若シ右ニ關スル英國政府ノ見解ニシテ同意ヲ得ルニ於テハ華府及倫敦條約ノ關スル限リ單ニ一般軍縮條約中ニ右諸國ノ海軍勢力ハ之等條約ニ依リ一九三六年迄制限セラレ居ル事實及若シ佛、伊兩國間ニ一九三一年三月一日ノ基礎協定ニ基キタル補足的協定成立スル場合ニハ右ニ依リ制限セラルル事實ニ言及スルニ止ムルコトトス

ノ事情ハ聯盟及主要國カ如何ニ本件ヲ重視スルカヲ表明スルモノニシテ理事會ニ於ケル情勢險惡ナルト共ニ各國ノ對本邦態度ノ惡化想像外ニ大ナルヲ察知セシムルモノアリ現ニ近ク行ハルヘキ軍縮會議副議長選舉ニモ日本ヲ除外セントスル意嚮擡頭シツアル處米佛伊等ニ於テハ之カ緩和ニ努メ居ル趣ナリ從テ若シ停戰取極不成立ニ終リ事態擴大スルカ如キ事アラハ列國ノ對日感情極度ニ惡化シ折角滿洲事件ニ關シ聯盟乃至列國カ我方ノ立場ヲ諒解シ問題解決ノ緒ニ就キタルモノモ遂ニ水泡ニ歸スル事アルヘキ而巳ナラス帝國ノ安危ニ關スル一大事ニ逢着セストセス

⁽²⁾ 而シテ右紛爭ノ擴大カ軍縮會議ニ大ナル影響ヲ及ボスヘキハ逆睹ニ難カラス勿論當方ニ於テハ帝國ノ立場及日支事件ノ真相ヲ闡明シ今回ノ事件カ何等帝國ノ平和的政策及軍縮會議ニ對スル協力ト矛盾スルモノニアラサル事ヲ説明スルニ努力スヘキモ一般ノ諒解ヲ得ル事困難ニシテ帝國カ主要列國ト對抗スルノ事實ハ本來支那ニ同情スル小國之ニ共鳴スルハ勿論ニシテ直ニ本會議ニ反映シ會議ニ於ケル我方ノ地位困難ナルハ想察ニ難カラス尙會議ニ對シテハ各方面ヨリ請願續出シ特ニ本會議ニ於テ之等諸團體代表者ノ演說ヲ

聴取スル事トナリ居ル次第ナレハ之等ノ方面ヨリ問題ヲ提起スルノ端ヲ發シ我方ニ不利ナル決議案ノ提出セラルル事無キヲ保セス殊ニ又局面ノ紛糾シ來ル場合帝國ノ孤立ハ延テ會議ニ於ケル帝國ノ主張貫徹ヲ至難ナラシムヘキハ勿論四圍ノ空氣ハ我方ノ軍縮會議參加ヲ滑稽化シ或ハ又進ンテハ現下ノ事態ヲ以テ軍縮ニ適當ナラストシ軍縮事業不成立ノ責ヲ主トシテ我方ニ負ハムシルカ如キ事態ニ立チ至ラストモ限ラスト思考ス

時局深憂ニ堪ヘス這般ノ事情篤ト御高察アラン事ヲ切望ス

6 昭和7年2月6日 在ジュネーヴ軍縮全權より
芳沢外務大臣宛(電報)

一般軍縮會議副議長選挙での日本選出に対する
反対運動について

ジュネーヴ 2月6日前発
本省 2月6日後着

軍第一三號
往電軍第一二號ニ關シ

副議長ノ一員トシテ我方ヲ選舉スルコトニ關シテハ小國側

務大臣宛電第一五号

右軍縮案

付記一

日付不明、小槇(和輔)一般軍縮會議海軍首席
随員より左近司(政三)海軍次官および軍令部
次長宛聯本軍縮海軍機密第六番電

右仏國提案に対する意見

二 二月十日発左近司海軍次官より小槇一般軍縮
會議海軍首席随員宛聯本軍縮官房機密第一〇

番電

右意見に同意の旨訓令

ジュネーヴ 2月6日後発
本省 2月7日前着

軍第一四號

五日本會議ニ於テ副議長選舉ノ後議長ヨリ幹部會成立ヲ宣言スルヤ佛國首席全權「タルヂュ」發言ヲ求メ要領別電軍
第一五號ノ如キ提案ヲ議長ニ手交セリ本案ハ即日佛國代表
部ヨリ公表済ミ

(別電)

殊ニ南米及北歐諸國ニ於テ滿洲事件及上海事件等ヲ理由ト
スル相當強キ反對ノ氣運動キツツアリ先般我方ニ於テ支那
調査委員會ニ對スル小國ノ參加ニ反對セル事モ多少右氣運
ヲ助長セルモノノ如ク聯盟事務局側ニ於テモ右事態ヲ憂
慮シ支那ト軍縮會議トハ全然別個ノ問題ニシテ軍縮事
業ヨリ日本ノ協力ヲ除外セントスルカ如キハ兒戲ニモ類ス
トテ百方反對國ノ説得ニ努メタルカ他方「マシグリ」カ佐
藤大使ニ内話セル處ニ依レハ佛國代表部ニ於テモ本件ヲ憂
慮シ「ギブソン」ノ斡旋ヲ求メ各方面ヲ壓迫スルコトトセ
ル趣ニテ五日選舉ノ結果ハ右説得カ稍効ヲ奏シタルモノカ
ト觀測セラル御參考迄

編注 二月五日に行なわれた副議長選挙において日本を含
む十四ヶ国が副議長に選出された。

7 昭和7年2月6日 在ジュネーヴ軍縮全權より
芳沢外務大臣宛(電報)

仏國全權からの軍縮案提出について

別電 二月六日発在ジュネーヴ軍縮全權より芳沢外

ジュネーヴ 2月6日後発
本省 2月7日前着

軍第一五號

佛國政府ハ軍縮條約草案ヲ基礎トシ成ルヘク速ニ會議ヲ進
メンコトヲ期待スルモ更ニ一步ヲ進メ左記提案ヲ爲サント
ス

第一、民用航空機及爆撃用航空機ヲ聯盟ノ使用ニ供スルコ

(イ)?ト
民用運搬航空機ノ國際化

(A) 締約國ハ自國民ニ對シ軍用ニ使用シ得ヘキ航空機ノ建
造及使用ヲ禁止ス許容セラルヘキ飛行機ノ重量又ハ飛
行船ノ容積ヲXニ制限ス

(B) 右重量又ハ容積ヲ越ユル器材ノ建造及使用ハ國際聯盟
ノ監督下ニアル國際(脱)?會社ニ委託ス

(C) 一國又ハ數國ニ對シ特別利害關係アル本國植民地間ノ
航空路ハ聯盟ノ定ムル條件ノ下ニ之ヲ設クルコトヲ得

(D) 國際民用航空機ノ註文ハ公平ニ各國間ニ分配ス

(E) 聯盟ハ一切ノ國際民用航空機ニ對スル絶對的徵發權ヲ
有ス

- (F) 締約國ハ國際民用航空機ノ抑留又ハ捕獲ヲ行ハス又前項ノ徵發權ノ行使ヲ容易ナラシメンコトヲ約ス
- (G) 爆撃用航空機ノ制限
聯盟ニ戰爭防止及禁遏ノ手段ヲ與フルト共ニ不法ニ爆撃ヲ蒙リタル國ノ防衛力ヲ削カサル爲
- (A) 自重又ハ容積Yヲ越ユル軍用機ノ建造及保持ヲ禁止ス
右ヲ越ユルモノハ之ヲ聯盟ニ讓渡シ國際航空軍ヲ組織セシム
- (B) 自重又ハ容積Zヲ越ヘサル軍用機ハ各國ニ於テ常ニ自由ニ使用スルコトヲ得
- (C) 右YトZトノ間ニ位スル軍用機ハ規約第十六條ノ適用及聯盟ノ國際行動動作ノ場合之ヲ聯盟ノ使用ニ供スヘキコトヲ約スル締約國ニ限り之ヲ自國兵力ニ編入スルコトヲ得
- (D) 本案第五ノ規約ニ違反セル爆撃ヲ蒙リタル締約國ハ聯盟ニ通告シタル上右Y以下ノ自國兵力全部(Cヲ含ム)ヲ使用スルコトヲ得
- (2) 第二、或ル種陸海軍器材ヲ聯盟ノ使用ニ供スルコト
- (イ) 或ル種器材ハ規約第十六條ノ適用及聯盟ノ協同動作ノ場合ニ俟タサルヘカラス本會議ハ執行力ヲ具備セル聯盟ト各國ノ主權ニ依リ去勢セラレタル聯盟トノ何レカ一ヲ終局的ニ選擇スヘキ絶好ノ機會ナリ佛國提案ハ義務的仲裁ヲ判侵略國ノ決定兵力ヲ有スル國際機關ノ迅速ナル決定右國際機關ノ行動ヲ律スヘキ一般法ノ確立及軍備ノ國際監督ヲ前提トシ右ニ關シ追テ軍隊の提案ヲ為スコトアルヘシ尤モ上記ノ計畫ハ一般的ナルヲ要シ一切ノ締約國ノ批准アル迄ハ實施ヲ見合スヲ要ス
- (イ) 航空機及陸海軍砲ニ依ル(脱?)特ニ燃燒性ノ類ハ(脱?)毒瓦斯又ハ細菌ヲ包含セル爆彈ノ投下ハ目的ノ如何ヲ問ハス禁止ス
- (ロ) 航空機又ハ砲ニ依ル爆撃ハ陸上戰線ヨリX「キロメートル」以外ニ於テハ禁止ス但交戰國ノ飛行根據地又ハ遠距離砲ノ所在地ヲ爆撃スル場合ハ此ノ限リニアラス
- (ハ) 海岸線ヨリX「キロメートル」ヲ超ユル地帯内ニ於テハ航空機ニ依ル砲撃ヲ禁止ス但飛行根據地及砲車ノ爆撃ハ此ノ限リニアラス右X「キロメートル」ノ地帯内ニ於ケル航空機ニ依ル砲撃ハ海牙條約第九所定ノ條件ニ依ラサレハ不法トス攻撃豫告ニ付テハ同條約第二條ニ依ル
- (ニ) 海軍砲ノ使用ハ海牙條約第九ノ條項ニ依リ定メラルモノトス
- (ホ) 本章ノ規定ニ明白ニ違反スル國ハ聯盟規約第十六條ノ意味ニテ戰爭ニ訴フルモノナリトノ推定ヲ受ク
- 第五、平和組織ノ條件
實質的軍縮ヲ確保スル爲ニハ各國ノ安全保障ヲ國際共同動

- 合ニ聯盟ノ使用ニ供スルコトヲ約スル締約國ニ限り之ヲ所有スルノ權利ヲ享有シ得
- (ロ) 本案第五ノ規則ニ違反セル侵略ヲ蒙リタル場合右締約國ハ聯盟ニ通告ノ上其ノ防禦手段ノ全部ヲ自由ニ使用シ得ルモノトス
- (イ) 本項ニ所謂或ル種器材トハ強力ナル重砲口徑八吋ヲ超ユル備砲ヲ有シ又ハ一萬噸ヲ超ユル主力艦及(脱?)噸ヲ超ユル潛水艦トス
- 第三、國際軍ノ創設、右ノ外聯盟ニ對シ
- 一、戰爭防止ノ爲ノ國際警察兵力
- 二、戰爭禁遏及被侵略國即時救援ノ爲ノ第一強制兵力ヲ創設ス
- 警察力ハ一定ノ比例ヲ以テ締約國ヨリ之ヲ供シ聯盟ハ其ノ指揮官ヲ用意シ且之ヲ檢閲ス又強制兵力ハ締約國ノ約束ニ從ヒ關係地域ニヨリテ其ノ要素ヲ異ニス(以上ニ就キ佛國ノ分擔量ヲ示ス例ヘハ歐洲内ノ紛爭ニ於テハ陸軍一師團海軍一戰隊空軍混成大隊)陸軍器材中「タンク」又ハ類似ノモノ及野戰重砲ヲ有スル締約國ハ之ヲ以テ前記ノ條件ニ從ヒ聯盟ノ使用ニ供セラルル
- 作ニ俟タサルヘカラス本會議ハ執行力ヲ具備セル聯盟ト各國ノ主權ニ依リ去勢セラレタル聯盟トノ何レカ一ヲ終局的ニ選擇スヘキ絶好ノ機會ナリ佛國提案ハ義務的仲裁ヲ判侵略國ノ決定兵力ヲ有スル國際機關ノ迅速ナル決定右國際機關ノ行動ヲ律スヘキ一般法ノ確立及軍備ノ國際監督ヲ前提トシ右ニ關シ追テ軍隊の提案ヲ為スコトアルヘシ尤モ上記ノ計畫ハ一般的ナルヲ要シ一切ノ締約國ノ批准アル迄ハ實施ヲ見合スヲ要ス
- (付記一)
- 聯本軍縮海軍機密第六番電
- 佛國提案ニ關シ海軍側ノ意見左ノ通
- 一、本案ハ聯盟ヲ超國家的機關トナシ之レニ絶大優勢武力ヲ有セシムルモノニシテ各國ノ自主權ヲ侵害セシムルコトトナルヲ以テ根本ニ於テ帝國ノ同意シ能ハザル所ナリ
- 二、極東ニ於ケル帝國ノ地位隣邦ノ國情等ニ鑑ミ聯盟ヲ有力ナラシムルハ不利ナリ
- 三、國際協力ノ機會ト制度トニ考ヘ受クル所少クシテ與フ

ル所ノミ大ナルベシ

四、第四節一般人民保護ニ關シテハ提案ノ他ノ部分ト切離シ得レバ趣旨ニ於テ贊同シ差支ナシト認ム

尤モ沿海陸地ニ對スル爆撃ニ付テハ重要都市ガ海岸近クニアル國ニ採リテハ保護充分ナラズト認メラルルニ依リ一層嚴重ナル規程ヲ設クル必要アリト認ム

尙本提案ノ取扱ニ關シテハ帝國ハ關係列國ノ態度意見等ヲ靜觀シ過早ニ所見ヲ開陳セザルコトトシ成ルベク我ヨリ進ンデ問題ノ渦中ニ投ゼザル様注意ス

本件ニ關シ承知シ置ク可キコトアラバ電報アリ度

編注 本電報の發電日は、仏国首席全權の軍縮提案がなされた二月五日から本文書付記二の海軍次官より海軍

首席隨員宛電報が発せられた二月十日の間であると考えられるが、この間に軍令部次長の交代があり、

本電報の發電日が不明なため、軍令部次長の氏名を特定することはできない。

(付記二)

第九號參照)ヲ構成シ明九日午後之ヲ開會スル事トシ度シト提議シ右ニ決定シタル後直ニ一般討議ニ入り英國全權「サイモン」及佛國全權「タルジュ」ノ演說アリ

「サイモン」ハ先ツ過去十年ニ亘ル準備の努力ノ如何ニ軍縮達成ノ爲寄與セルカラ述ヘ今ヤ軍縮實現ノ爲全力ヲ注クヘキ緊急ノ時ナリ壽府ニ於テ軍縮問題討議セラレ居ル現在東洋ニ於テハ一切ノ軍備使用セラレ聯盟規約ノ精神危殆ニ頻スルモノアルカ故ニ時機不適當ナリト云フモノアルモ吾人ハ右ノ如キ事態存スルカ爲ニ一層軍縮ノ必要ヲ痛感スルモノナリト力説シ吾人ノ目的トスル所ハ各國民ノ軍備負擔ノ輕減モ然ル事乍ラ夫ヨリモ平和ノ確保及戰爭ノ危險防止ニアリ高度ノ軍備ハ一國ノ安全ヲ保障スルモノニ非ス全体ノ安全ハ軍縮ニ依リテ而已之ヲ得ル事ヲ得ヘシ英國政府ハ軍縮達成ノ實際の保障トシテ左ノ諸點ヲ支持強調ス尤モ左ノ諸點ハ吾人ノ主張ノ全部ニ非スシテ單ニ之ヲ例示セルモノニ過キス

(イ)吾人ハ軍縮條約案ノ大綱ヲ將來ノ討議ノ基礎トシテ受諾ス

(ロ)吾人ハ制限方式トシテ軍縮條約案中ニ規定セラレタル最

海軍省 2月10日 発

聯本軍縮官房機密第一〇番電(暗號)

聯本軍縮海軍機密第六番電ニ關シテハ當方ニ於テモ全く同感ニシテ御意見通り取計ハレ度

尙佛國提案ハ其ノ根本ニ於テ帝國ノ同意シ能ハザルハ明カナルヲ以テ本件ニ關シテハ貴方ニ於テ適當ニ處置セララルモノト見做シ今ノ處政府トシテ全權ニ對シ何等指令セラザル内意ナリ

(終)

8 昭和7年2月8日 在ジュネーヴ軍縮全權より
芳沢外務大臣宛(電報)

一般討議における英国全權および仏国全權の
演説について

ジュネーヴ 2月8日後発
本省 2月9日前着

軍第一八號(至急)

(1)八日午前十時第四回本會議開會先ツ議長ヨリ幹部會ノ提案ニ從ヒ各國全權部ノ代表各一名ヨリ成ル一般委員會(往電

大限度ヲ限定スルノ案ヲ一般的ニ受諾ス

(イ)吾人ハ常設軍縮委員會ノ設置ヲ受諾ス

(ニ)吾人ハ毒瓦斯及化學戰ノ廢止ヲ主張ス

(ロ)吾人ハ人道上ノ見地ヨリ潜水艦ノ全廢ヲ強調ス

(イ)吾人ハ徵兵制度ノ廢止ヲ理想トスル者ナルモ其ノ急速實現ノ困難ナルヲ識ルカ故ニ人員縮少ヲ最善ノ方法トシテ支持ス

(ロ)吾人ハ攻撃力ノ減少ヲ計ランカ爲ニ艦型、備砲、口径及陸砲ノ最大口径ノ漸進的縮少ヲ主張ス

ト述ヘ尙華府條約及倫敦海軍條約ニ關シ英國政府ハ右二條約ヲ一九三六年末迄其ノ儘有效トシ右二條約ヲ考慮ニ入レテ一般條約ノ締結ニ努力スルヲ可トストナシ又過日ノ佛國提案ニ輕ク言及シ右カ本會議考究ノ目的物タルコトハ勿論ナルモ英國政府トシテハ充分ニ且好意的ニ之ヲ考究セントスルモノナリト述ヘ最後ニ若シ本會議ニシテ失敗セハ其ノ慘禍ハ實ニ計ルヘカラサルモノアリ、吾人ハ本會議ヲ如何ニシテモ成功セシメサルヘカラストノ決意ヲ以テ之カ爲ニ全力ヲ盡スヘキモノナリト論結セリ

(3)先ツ會議ノ開催時期並前途ニ關シ大體英代表ト同様ノ見解

9 昭和7年2月9日 在ジュネーヴ軍縮全權より
芳沢外務大臣宛(電報)

一般討議における米國全權および独國全權な
どの演説について

ジュネーヴ 2月9日後発
本省 2月10日前着

軍第一九號

九日午前第五回本會議開催米國全權「ギブソン」、獨逸全權「ブリューニング」及伯刺西爾^(刺)全權ノ演説アリ

「ギブソン」ハ本會議ヲ成功セシメサルヘカラサル所以ヲ力説シタル後米國ノ華府及倫敦會議ニ於ケル軍縮事業ニ對スル貢獻ヲ述ヘ米國ハ苟クモ國際ノ安全感ヲ増進シ福祉ニ對スル保護ヲ樹立シ及軍器ヲ侵略ノ用途ニ使用セシメサラシムルカ如キ制限及縮少成ルニ於テハ如何ナル案ニテモ之ヲ考慮スルノ用意アリト述ヘ英佛兩國ノ提案ニ言及シ米國政府ハ右兩案ニ限ラス一切ノ實際の提案ニ充分ナル考慮ヲ拂ハントスルモノナリ尤モ吾人ハ會議ノ困難ヲ増加シ軍縮事業ヲ危殆ニ陥ルルカ如キ新シキ問題ノ提起ヲ欲セス又遠キ將來ニ亘リ一切ノ事態ニ處スヘキ適當ナル案ヲ考案シ得

ヲ述ヘ次テ國際約定ノ尊重ヲ説キ規約第十條ノ趣旨ニ言及シ今次會合ノ目的ハ(國際)法上ニ基ク義務履行ノ方法ヲ發見スルニ在リテ之カ爲ニハ各國ノ安全保障、國際義務ノ共同履行、地理的地位及特殊事情ヲ斟酌セル軍縮ヲ爲スヘシ佛國ハ常ニ規約ニ忠ニシテ其軍縮方針ノ如キモ規約第八條ニ則リ定メラレ居ルモ一般ノ情勢ハ規約ヲ強固ナラシメントスルヨリハ寧ロ規約ニ基ク義務ヲ減殺スルニ汲々タル感アリ今ヤ輿論ハ百ノ會議ヨリモ具體的結果ヲ齎スヘキ一ノ協定ヲ熱望シ居ルモノニテ佛提案ハ實ニ此ノ熱望ニ副ハントスルモノニシテ規約ヲ強固ナラシムルト共ニ軍縮條約案ヨリ來ル當然ノ結論ナリト其内狀ヲ簡單ニ説明シ尙本案ニ依レハ吾人ハ新タナル義務ヲ負擔スルカ如キ感ヲ與フヘキモ世界ノ某所ニ於ケル全ク豫見シ得サリシ事變ヨリ生セル負擔ニ比スレハ言フニ足ラスト暗ニ極東其他ノ事情ニ言及シ佛國ハ佛提案ヲ必スシモ固執セサルモ平和組織ノ根本の基礎ハ飽ク迄之ヲ支持セントス蓋シ組織ヲ伴ハサル平和ハ徒ニ犠牲ノミ大ナルヲ以テナリ佛國ハ今次佛提案ニ止マラス條約案ノ趣旨ニ依リ新タナル軍縮ヲ考慮スル誠意アリトセリ

ルモノトハ信セスト指摘シ米國政府ノ抱懷スル實際の軍縮案トシテ左ノ諸點ヲ列舉セリ

米國政府ハ

一、軍縮條約案ヲ支持ス、尤モ軍縮事業ヲ増進セシムヘキモノナルニ於テハ右ニ對スル如何ナル法則の提案ヲモ喜ンテ考慮スヘシ

二、華府及倫敦條約ノ期間延長及倫敦條約ノ全部ニ對スル佛、伊兩國ノ加入ヲ提議ス

三、華府條約締約國ノ凡テカ倫敦條約全部ヲ受諾スルニ至ラハ華府及倫敦條約規定ノ數字ノ比例的縮少ヲナサンコトヲ提議ス

四、從來主張シ來リタル通り潜水艦ノ全廢ヲ主張ス

五、非戦闘員ヲ空中爆撃ヨリ保護スヘキ有效ナル法案ノ作成ニ参加スヘシ

六、有毒瓦斯及「バクテリア」戰ノ全廢ヲ支持ス

七、國內治安維持ニ必要ナル程度ノ人員ニ加フルニ國家ノ防衛ニ必要ナル程度ノ人員ヲ基礎トシテ兵力數ヲ定ムヘキコトヲ主張ス蓋シ前者ハ之カ縮少不可能ナルモ後者ハ比較的ノ問題ナレハナリ

八、⁽³⁾「タンク」及移動性銃砲、換言スレハ特ニ攻撃の性質ヲ有スル武器ノ特別制限ヲ主張ス

九、制限ノ補足の方法トシテ機材經費ノ制限ヲ考慮スルノ用意ヲ有ス蓋シ右ハ量の制限ニシテ實施セラルル場合質的競争ヲ防止スルニ有效ナリト考フルカ爲ナリ

右列舉ノ後「ギブソン」ハ右ハ單ニ米國政府ノ抱懷スル意見ノ例示ニ過キスシテ包括的ノモノニ非スト斷リ最後ニ米國全權ハ米國政府及米國民ノ兩者ヨリ軍備ノ縮限ハ世界ノ經濟的回復ニ樞要ナルノミナラス平和ノ全機構ノ保持ニ樞要ナルモノナリト委任ヲ有シ居ルモノナリト述ヘタリ

⁽⁴⁾「ブリューニング」ハ獨逸ハ今日ノ會議ヲ久シク待望セリ世界ノ輿論ハ軍縮ニ付國際協調ヲ要望シ聯盟ノ創設及其後ノ「ブリアン」「ケロッグ」條約等ニ依リ平和組織ハ當然ノ結果トシテ軍縮ノ實現ヲ要求ス世界ノ復興ヲ妨クル大戰ノ財政的經濟的結果ノ清算ト相並ヒテ各國ノ自發的及契約的軍縮ハ人類ノ進歩繁榮ト世界戰爭ヲ避クル上ニ最も重要な行爲ナリ正當且ツ眞實ナル平和ノ意思ハ本會議成功ニ對スル根本的條件ナリト云フ可ク吾人ハ平等且一般的ナル軍縮ヲ條件トシ如何ナル限度迄聯盟規約ノ認メタル最低限

ノ軍縮ヲ爲シ得ルヤヲ考究セサル可カラス尙自國ノ軍備ヲ能フ限り高メ隣邦ノ夫レハ能フ限り縮少セシメントシ又ハ條約ヲ勝手ニ解釋シテ自國ノ兵力ハ用ヒ得可キモ他國ニハ之ヲ奪フカ如キ傾向ヲ止メサル可カラス斯ノ如キハ本會議ヲ失敗ニ導クモノニシテ失敗ノ結果ヤ恐ル可シ本會議ニシテ成功セサレハ世界不安ハ除カレス世界經濟危機ハ主トシテ政治的仕拂ト軍備ノ尨大及不平等ニ負ヘリ、本會議ニ臨メル政治家ノ自國ニ對スル責任トシテ自國家ノ安全ハ何ヨリ重要ナル可キモ眞ニ理解セラレタル個別的利益ト各國家共同ノ利益トハ不一致ノモノニ非サル可シ

⁽⁵⁾獨逸ハ軍縮ノ精神ニヨリ聯盟規約ノ原則ニ從ヒ其ノ力及其ノ責任ノ範圍内ニ於テ能フ限りノ協力ヲ惜マサルモノニシテ本會議ニ於テ各國民ノ平等ナル權利ト一般的安全ノ基礎ノ上ニ一般軍縮問題ノ解決セラレン事ヲ期待シ之カ實現ニ努力セントス但シ準備委員會ノ草案ハ現在ノ必要ニ應セス缺陷多ク且ツ根本ノ點ニ觸レサルヲ以テ實際的案ヲ提出ス可キヲ留保ス可キカ同案ハ眞ニ攻撃的ナル武器ノ禁止及制限ニ依リ「ケロツグ」條約等ノ戰爭放棄ヲ考慮スルモノナリ吾人ハ以上ノ根本的條件ニ合致セル提案ハ如何ナルモノ

ニテモ審議スルニ吝ナルモノニ非ス云々ト述ヘ次テ「ブラジル」代表ハ同國ノ平和的國是ヲ述ヘ本會議ノ成功ヲ期シ努力ヲ惜マサル可キヲ演説ス

昭和7年2月10日 在ジュネーヴ軍縮全權より
芳沢外務大臣宛(電報)

一般討議における松平全權の演説について

別電 二月十日発在ジュネーヴ軍縮全權より芳沢外

務大臣宛軍第二二号

右演説文

ジュネーヴ 2月10日前発
本省 2月10日後着

軍第二二號

十日午前本會議ニ松平全權ハ別電第二二號ノ通演説ヲ爲ス
答演説濟ノ上ハ其旨電報スヘシ

(別電)

ジュネーヴ 2月10日前発
本省 2月10日後着

(編注一)
Gun No. 22

⁽¹⁾It is matter for sincere gratification that long-awaited conference on general disarmament has at last been opened and is here in actual progress. It is on larger scale than ever before. Not naval forces alone as on former occasions but whole domain of armaments including military and air forces is to be considered all at once. Hereover so many Powers from all parts of world ^(編注二)are gathered together to cooperate in the great cause. Task before us is therefor quite as vast and complicated as it is important and demands our earnest and sustained attention.

⁽²⁾Unfortunately just at this moment far out in Eastern Asia there obtains disturbed condition. Facts of the case and attitude of Japan in matter are fully communicated to Council League Nations by which it is now taken up. I shall therefore refrain from further referring to matter at this conference but at same time wish to make it clear that notwithstanding unfortunate situation

in Far East, Japan is as eager as ever to further cause of disarmament and has sent her representatives to this conference with view to cooperating with all powers to arrive at arrangement through which armaments could be effectively limited and reduced. Government and people of Japan entertain abiding interest in this noble task. Their attitude toward it was fully demonstrated at past conferences at Washington in 1922 at Geneva in 1927 and at London in 1930. They are approaching present conference in same spirit.

⁽³⁾The work of disarmament has as its fundamental object establishment of permanent peace throughout world by means of eliminating suspicions and fear in international relations which are very cause of continued existence of armaments. It cannot be done in a day: that is plain from nature of the matter. We have to proceed with patience forbearance and singleness of purpose. We must have vision; we must have ideals; but we must always see facts in their true light. As has been

In conclusion Japan is prepared to do all within her power to contribute to formulation of agreement fair and equitable as well as practical and economical through which limitation and reduction of armaments could best be effected with assurances that national safety will not thereby be impaired and that all parties to agreement will strictly observe its stipulations.

⁽⁹⁾ Further I should like to emphasize point that work

of disarmament important as it is cannot progress alone it has to go hand in hand with general amelioration of international relations. So long as there are causes of frictions and controversies and so long as nations look at one another with misgivings suspicions and fear real disarmament can never be attained. When all nations sincerely desire to become good and trusted friends when all nations are prepared to discharge faithfully their domestic and international responsibilities when all nations feel that they can work out their own destinies with peace of mind then and then alone our task

will approach its end. Our efforts will always have to be applied in both directions to two wheels of cart. It is sincerely hoped that at this conference we will succeed overcoming difficulties in our way and by so doing attain result that friendship good understanding and confidence will be increased amongst nations and significant step forward will be taken on path to eventual solution of problem of peace which is man's aim.

Zenken.

編注I 本演説文には多くの定冠詞、不定冠詞および前置詞

などが省略されているが、原文のまま採録した。

編注II Moreover の書込みあり。

編注III illfeelings の書込みあり。

~~~~~

11 昭和7年2月10日 在ジュネーヴ軍縮全権より  
芳沢外務大臣宛(電報)

一般討議における伊国全権などの演説について

ジュネーヴ 2月10日後発  
本省 2月11日前着

## 軍第二四號

## 一 国際連盟一般軍縮会議

<sup>(1)</sup> 十日午前第六回本會議ニ於テ伊國全權「グランジ」ハ軍縮事業ニ於テ避クヘキハ一ハ空莫タル理想論、他ハ惡意ノ詭辯論之ナリ吾人ハ平和條約第五編聯盟規約及實際的ニ軍縮問題ヲ解決スルヲ要シ軍縮ト安全保障ノ何レヲ先ニスヘキヤト云フカ如キ理論ハ之ヲ棄テサルヘカラス「ロカルノ」條約戰爭拋棄條約一般議定書ノ如キ安全保障ニ關スル諸約定ノ締結ヲ見タル近時ニ於テ吾人ノ軍事費ハ三十億金貨法増加ヲ示セル事實ノミヲ以テスルモ安全保障ノ確立カ軍備競争ヲ緩和シ武裝の平和ノ制度ヲ絶滅セシメ得サルコト明カニシテ吾人ハ一路軍縮ニ邁進セサルヘカラス恰モ軍縮會議開會ニ際シ極東ニ砲聲ヲ聞クハ悲ムヘキ皮肉ナリト云ヘル者アルモ然ラス極東ノ事變ハ寧ロ本會議力失敗ニ歸シタルトキ吾人ノ陷ルヘキ途ヲ示ス警告ニ外ナラス軍備ノ威壓ノ下ニ聯盟規約力運用ヲ見サルヘキハ自明ノ理ニシテ各國ノ軍備カ他國ニ何等ノ猜疑及懸念ヲ與ヘサル最低限度迄縮少セラレタル時始メテ規約第八條第一項ニ所謂協同動作ハ

侵略國ニ對シ有效ニ實行セラレ得ヘシ

<sup>(2)</sup> 米國代表ハ昨日華府及倫敦條約ノ延長及倫敦條約ニ對スル佛、伊ノ参加ヲ慫慂セラレタルカ佛、伊ノ交渉ハ決シテ中絶セラレタルモノニ非スシテ伊國ハ満足ナル協定ニ達スル爲一切ノ努力ヲ爲スヘキ用意ヲ有ス伊國ノ軍縮協定ニ關スル二根本原則ハ一切ノ國ノ權利ノ平等ト最低限度ニ於ケル兵力ノ均等トニシテ苟モ現實ノ縮少ニ達スヘキ提案ナレハ總テ慎重考慮スヘク今次ノ佛國提案ニ關シテ亦然リトス平和條約ノ軍事條項ハ聯合國側力戰爭防止ノ爲實現セントスルモノニシテ吾人ノ各カ他ノ一切ノ國ニ對シ爲シタル相互的約定ニ外ナラス一切ノ國カ同條約第五編ニ倣ヒ侵略的武器ノ禁止ノ協定ニ達スルヲ得ハ其効果ハ大ナルモノアルヘシ伊國ハ準備委員會ノ條約案ニ依リ量の軍縮ニ進ムト共ニ他方

一、海軍ニ付テハ主力艦ト潜水艦ノ同時廢止及航空母艦ノ

廢止

二、陸軍ニ付テハ一切ノ重砲及「タンク」ノ廢止

三、空軍ニ付テハ爆撃機ノ廢止

四、一般ニ侵略的化學戰及「バクテリア」戰ノ廢止及非戰

關員保護ニ關スル戰爭法規ノ改訂

ノ諸項ヲ含ム質の軍縮ヲ受諾スルノ用意アリト述ヘ  
次ニ松平ヨリ往電軍第二二號ノ通り演說後波蘭代表「ザレ  
スキ」ハ波蘭カ軍備通報ト共ニ提出シタル覺書ハ重要問  
題ニ對スル波蘭ノ特殊事情ヲ説明シ居リ今尙何等之ニ變更  
ヲ加フヘキモノナシト冒頭シ軍縮條約案ハ完全ナルモノニ  
ハアササルモ同案ハ討議ノ主タル基礎ヲ爲スヘキモノナリ  
ト信ス軍縮準備委員會ノ採擇シタル「メソッド」ニ付討議  
ヲ再開スルハ軍縮ノ爲ニ之ヲ採ラス余ハ條約案ノ基礎タル  
原則ニ贊意ヲ表スルモノナルモ討議中條約案ノ或箇條ヲ補  
足スヘキ提案ヲ爲スコトアルハ勿論ナリ條約案ノ缺陷トシ  
テ特ニ著シキハ潛在的軍備ヲ考慮シ居ラサルコトニシテ農  
業國又ハ工業ノ未タ發達セサル國ハ劣勢ノ地位ニ置カルル  
コトナルヘシ此缺陷ハ侵略ニ對スル適當ナル保障ニ依リ幾  
分補充セラルヘシ他方條約所定ノ正規軍又ハ軍隊的組織團  
體ノ外ニ軍隊的團體ヲ組織スルカ如キ方法ニ依リ條文ヲ無  
效タラシムルコトヲ防カサルヘカラス

(4) 討議事項中最モ重要ナルハ豫算問題ナリ條約案ハ豫算專門  
委員會ヲシテ具體的提案ヲ作成セシメタルカ右案ニハ種々

ノ非難アリトハ言ヘ本問題ニ就テノ眞面目ナル最初ノ試ヲ  
爲スモノナリ豫算ハ各國軍備ノ程度ヲ最モ正確ニ知ラシム  
ルモノニシテ軍需品ノ總括的制限ハ軍縮ニ就テノ唯一ノ有  
效ナル制限ナリ

會議ハ殊ニ防止ト禁遏及相互援助ノ兩方面ニ於テ解決ヲ求  
メサル可カラス波蘭ハ精神的軍縮ニ關スル提案ヲ爲スコシ  
今日國際間ニ信賴ノ念甚タシク薄ラキタルモ右ハ經濟危機  
ノ必然的結果トノミ見ル可カラス混亂ニ乘シテ利己的目的  
ヲ達セントスル或ルモノヲ看過ス可カラス次ニ吾人ハ將來  
ノ軍縮條約違反行爲ノ禁遏ニ就キ周到ナル注意ヲ拂フ可キ  
ナリ云々ト述フ

12 昭和7年2月11日

在ジュネーヴ軍縮全權より  
芳沢外務大臣宛(電報)

一般討議におけるソ連全權などの演說について

ジュネーヴ 2月11日後発  
本 省 2月12日 前着

軍第二五號

(1) 十一日第七回本會議ニ於テ白國全權ノ演說ノ後「リトヴィ

## 一 國際連盟一般軍縮會議

ノフ」ハ蘇聯邦從來ノ平和政策ヲ畧述シ蘇聯邦ハ嘗テ軍備  
全廢ヲ主張シタルニ拘ハラス列國ノ贊同スル所トナラサリ  
シカ事實ハ條約等ノ國際義務ニ依ル安全ノ無力ナルヲ示シ  
軍備全廢ノミ戰爭ヲ避クルノ方法ナルコトヲ證シタリ即チ  
現ニ極東ニ於テハ聯盟規約及不戰條約ノ當事國カ數ヶ月ニ  
亘リ事實上戰爭ノ狀態ニ在リト述ヘ經濟危機及世界不安ノ  
今日極東事件ヲ初メトシテ世界新大戰ノ禍機ハ到ル所ニ存  
在セルカ之ヲ防止スルモノハ國際機關、條約若ハ輿論ニ非  
ス新聞等ニ反映セラルル輿論ナルモノハ特定國家ノ利益又  
ハ其内部ニ於ケル資本家團體又ハ個人ノ利益ニ利用セラル  
ルモノニシテ極東事件ノ如キハ新聞中ニ贊成者又ハ煽動者  
ヲ見出シタルニ非サヤ且又軍備制限又ハ僅少ノ軍備縮少カ  
戰爭防止ニ無力ナルハ明カナリト云ヒ轉シテ佛國ノ提案ヲ  
批評シ同案ハ國際軍使用ニ關スル新規則ノ制定、侵略ノ意  
義決定等幾多ノ難問題ノ解決ヲ必要トシ容易ニ纏ラサルヘ  
ク且又提案ノ如キ國際軍ハ侵略防止上有力ナラサルニ加ヘ  
國際機關ニ勢力アル或國ノ利己的目的ニ使用セラルルコト  
ナシト云フヘカラス

(2) 蘇聯邦勞農民衆ハ現狀ニ於ケル國際軍ヲ有スル國際機關ノ

創設ハ同國ニ對スル脅威ナリト思考スヘシ蘇聯邦ハ巴里條  
約ニ署名シ又各國殊ニ隣邦ニ不侵略條約ヲ提議ヲ爲シタル  
カ中ニハ何等カノ口實ノ下ニ之ヲ拒メルモノアリ不侵略條  
約ハ戰爭ニ對スル眞ノ保障トハ思考シ得サルモ侵略ヲ困難  
ナラシムルモノナルヲ以テ他ノ國民ノ平和的ナルヤ否ヤヲ  
判斷スル恰好ノ材料ナリ蘇聯代表ハ軍備全廢說ヲ主張スル  
モノナルカ必スシモ之ニ膠着スルモノニ非ス此ノ目的ニ近  
キ案ハ之ヲ考慮スヘシ從テ軍備ノ部分的縮少ニ關スル軍縮  
準備委員會ニ於ケル第二回ノ蘇聯提案ハ本會議ニ於テモ效  
力アルモノト認メラレタシトテ其ノ内容ヲ舉ケ蘇聯邦ハ今  
尙多數國家ニ承認セラレス且極東ノ事件ハ蘇聯邦ニ非常ナ  
ル不安ヲ惹起セシムルニ拘ハラス蘇聯邦ハ他國殊ニ隣邦カ  
爲サントスル程度及速度ヲ以テ軍縮スルノ用意アル事ヲ聲  
明ス云々ト述ヘ

瑞典全權ハ具體的ニ軍縮條約案ノ缺陷並ニ之ニ對スル同國  
ノ主張(從來ト同様)ヲ述ヘ右條約案ノ再審議ヲ要求セリ  
尙同全權ハ日支事件ニ言及シ聯盟ノ強硬ナル行動ト特ニ利  
害關係ヲ(有スル)諸國トニ依リ平和カ速ニ回復セラレン  
コトヲ政府ノ名ニ於テ熱望スルモノナリト述ヘタリ

13 昭和7年2月13日 在ジュネーヴ軍縮全権より  
芳沢外務大臣宛(電報)

一般討議における中国全権などの演説について

ジュネーヴ 2月13日後発  
本 省 2月14日前着  
軍第二七號

十三日第九回本會議開會、加奈陀、「ラトヴィア」(前者ハ大体ニ於テ佛國案ニ反對シ、後者ハ之ヲ支持ス)及洪牙利全權(規約第八條ノ一般的適用ヲ強調ス)ノ演説アリタル後支那代表ハ先ツ支那ハ目下重大ナル危機ニ當面シ居リ此ノ外部ヨリノ侵略ヲ排除セントスル努力ノ成果如何ニ依リ支那國民ノ軍備ニ對スル施策ハ決定セラルヘシト前置シ英佛兩國代表ノ今期會議ニ於ケル所言ヲ引用シ大規模ノ軍備及新式武器ノ廢止並ニ安全保障ノ必要ヲ力説シ支那カ右諸點ヲ強調スル現實ノ理由トシテ日支問題ヲ擧ケ支那側カ如何ニ平和的、和解的、信義的、非侵略的ナルカヲ述ヘ滿洲問題ヲ以テ明白ナル規約違反ナリト斷シ國際紛争ノ平和的處理ニ關スル條約ノ確立及遵奉ノ必要ヲ述ヘ支那ハ目下ノ危機ニ際シ他列國ノ憐愍ヲ請フモノニアラス又他列國ノ武

力ニ依ル援助ヲ求ムルモノニアラス只各國カ條約上ノ義務ヲ履行シ規約及不戰條約ノ神聖ヲ確立センコトヲ要望スルモノニシテ恒久的軍縮ハ實ニ茲ニ存スルコトヲ訴フルモノナリト述ヘ更ニ軍備休日案ニ對スル支那政府ノ聯盟宛回答文ヲ讀上ケ最後ニ軍縮會議ノ成否ハ一ニ懸ツテ聯盟規約及不戰條約ノ防護ノ如何ニ在リト結ヘリ

14 昭和7年4月19日 在ジュネーヴ沢田(節藏)連盟事務局  
長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

一般軍縮會議の討議状況や上海事変停戦問題  
などに関する松平全権とスチムソン米國國務  
長官との会談について

ジュネーヴ 4月19日前発  
本 省 4月19日後着  
軍第六八號(極秘扱)  
松平ヨリ

本使十八日壽府着「スチムソン」ヲ往訪面會シタル處「ス」ハ風邪ニ惱ミ居リタル爲時局ニ關スル懇談ハ一兩日

後ニ行フ事トシ一應ノ話ニ止メ置キタルカ「ス」ハ今回來壽ノ目的ハ過日「デービス」一人華府ニ歸リ報告セル際「タルジュウ」ハ五月總選舉迄ニ軍縮會議ニ於テ相當重要ナル結果ヲ得ル様努力スヘキ決心ナル由聞込ミタル處自分モ軍縮會議ニ於ケル米國首席全權ニ任命セラレタル關係上一回ハ會議ニ參列セサルヘカラサル立場ニアリ六月以後ハ大統領豫選會等ノ爲出張不可能トナルヘキニ付旁目下ノ時期ニ於ケル出張ヲ適當ト認メ來壽シタル處途中「タルジュウ」トモ面會セルカ右「デービス」ノ報告ハ樂觀ニ過キ矢張五月ニ於ケル佛國總選舉後ニアラサレハ到底重要ナル發展ヲ見ルヘキ事ハ困難ナル狀態ニテ此ノ點失望セサルヲ得スト述ヘ又上海問題ニ付テハ可成速ニ解決スル事日本ニトリ有利ナル事ヲ述ヘタルニ付本使ハ日本側ニ於テ相當讓歩ヲナシ可成速ニ解決セント努力シタルニ拘ラス支那側ハ却テ特ニ解決スル事ヲ不利ナリト認メ居ル如ク殊更ニ第三國ノ干涉ヲ招カントシテ遷延シ居ルモノト思ハル旨述ヘタル處「ス」ハ「ジョンソン」ヨリノ報告ニ依レハ支那ニ於テ必スシモ遷延ヲ希望シ居ルモノトハ認メラレス交渉停頓シ居ル一因ハ日本側ニ於テ蘇州河以南ノ外浦東方面ニ於テ

支那軍侵入禁止地帶ヲ作ラントスル事ニ在ルモノノ如ク之カ理由ハ充分ニ徹底セサル様思ハル旨述ヘタルニ付本使ハ從來ノ上海來電ノ要領ヲ説明シタルモ「ス」ハ英米佛守備區域ヲ越シテ先ニ在ル地方ヨリ軍ノ側面ヲ脅威セラルルモノトノ理由ニ對シテハ充分ニ諒解シ得サル様見受ケタルカ之等ノ點ニ關シテハ一兩日中更ニ會議スヘキ事ヲ約シテ別レタリ尙「ス」ハ約二週間滞在ノ豫定ナル旨語り居リタルカ模様ニ依リテハ更ニ延期スル意向アルヤニ見受ケラレタリ  
本件及今後「ス」トノ會談ニ付テハ一切外部ニ漏レサル様特ニ御注意相成度シ  
在歐米各大使(土ヲ除ク)支ヘ轉電セリ

15 昭和7年4月27日 在ジュネーヴ軍縮全権より  
芳沢外務大臣宛(電報)

攻撃的艦種の選定に関する海軍委員會の一般  
討議について

ジュネーヴ 4月27日後発  
本 省 4月28日前着

軍第八〇號

海軍委員會ハ廿六日ヨリ攻撃的艦船ノ選定ニ關スル一般討議ヲ開始セル處英米ハ潛水艦ノミヲ選定セントスルノ主張ヲ爲シ(但餘リ強クハ主張セス)伊太利ハ主力艦潛水艦(同時廢止)及潛水艦<sup>(編注)</sup>獨逸ハ條約ニ依リ同國ニ禁止セラレ居ル艦種ノ選定ヲ主張シタリ

我方ハ(廿七日)航空母艦ハ最モ攻撃力及國防破壞力ニ富ミ且非戦闘員ヲ脅威スルモノナルヲ以テ往電第七五號決議ノ三性質全部ヲ具有スルコトヲ詳細ニ亘リテ主張シ主力艦ハ右三性質ノ何レヲモ具有セス潛水艦ハ第一第二ノ性質ヲ有セス且濫用スレハ他ノ如何ナル武器モ非戦闘員ヲ脅威セサルモノナキニ鑑ミ第三ノ性質ヲモ具有セルモノニ非ストノ趣旨ノ主張ヲ爲シ置ケリ

編注

四月二十九日發在ジュネーヴ軍縮全權より芳沢外務大臣宛電報第八四号において「及潛水艦」は「及航空母艦」の誤りである旨訂正された。

~~~~~

ノ空氣モ寧ロ全般的論議ヲ爲スニ止リ量ニ關スル重要ナル決定ヲ爲スコト困難ナルヘキヤニ思考セラル

右ノ事情ニテ會議ノ前途見据付カス會期モ不確定ノ狀態ニ於テ何時迄モ大人數ノ全權團ヲ擁スルハ人物及經費ノ點ニ於テ不經濟ナルニ付隨員ニ關シテハ別電第一〇一號^(省略)ノ如キ原策ヲ建テ具申スル次第ノ處七月トモナリ會議愈休會シ十月頃再開ニ決セハ其頃ニハ會議ノ前途ニ關シテモ多少ノ推測モ出來得ヘク全權其モノモ全部滞留ヲ必要トスルヤ否ヤニ關シ再考ヲ可トスル事情發生セストモ限ラス其際改メテ意見申進ムヘキモ右事情不取敢貴聞ニ達ス

~~~~~

17 昭和7年6月22日

在ジュネーヴ軍縮全權より  
齋藤外務大臣宛(電報)

フーヴァー大統領からの訓令により一般委員會において軍縮案を提議するとの米国側内報について

軍第一二九號

ジュネーヴ 6月22日後發  
本 省 6月23日前着

16 昭和7年5月26日

在ジュネーヴ軍縮全權より  
齋藤(実)外務大臣宛(電報)

會議の審議状況と今後の見通しについて

ジュネーヴ 5月26日後發  
本 省 5月26日後着

軍第一〇〇號(極秘)

軍縮會議ハ連日各種専門委員會ヲ開キツツアル處諸般ノ事情ノ爲メタ重要問題ノ審議ヲ爲スニ至ラス目下ノ處正確ニ今後ノ進捗振リニ付判斷ヲ下スコト不可能ナルモ六月初旬トモナラハ佛國新内閣モ出來改メテ確定政策ヲ提ケテ會議ニ臨ムコトトナルヘク其頃ヨリ會議ハ漸ク重要問題ノ討議ニ入ルヘキヤニ察セラル尤モ六月十六日ヨリ「ローザン」會議アリ或ハ此ノ方ニ國際政局ノ中心移動シ軍縮會議ノ進行ニ幾分影響スルコトトナルヤモ知レス又世界的軍縮ト稱スルモ中心ハ歐洲殊ニ佛獨ノ關係最モ重要ニテ米國ノ如キモ質的制限及人員關係ノ提案ハ爲セルモ餘リ會議ニ深入リセントスル模様ナク寧ロ歐洲問題トシテ傍觀セントスル情勢ナキニ非ス日本ハ元來聯盟軍縮ニ左程多キヲ期待セス唯世界大國殊ニ軍國ノ一トシテ參列シタル態ナルカ會議一般

<sup>(1)</sup> 今二十二日午前十時「ウイルソン」松平ヲ來訪、「フーバ

ー」大統領ハ軍縮促進ノ爲諸項目ニ亘リ提議ヲ爲スヘキ旨訓令スルト共ニ國民ニ對シ宣言ヲ爲シ度キ趣電報ニ接シタルヲ以テ今日午後俄ニ一般委員會ノ開催ヲ要求シタルニ依リ「サープライズ」セラレサル様豫メ其ノ要旨ヲ内報シ度シトテ左ノ通語レリ

陸軍ニ付テハ米案ニ所謂國防兵力ノ三分ノ一ヲ減シ百五十五「ミリ」以上ノ重砲及一切ノ「タンク」ヲ廢止シ空軍ニ付テハ爆撃機ヲ廢止スルト共ニ空中ヨリスル爆發物等ノ投下禁止ヲ嚴約シ海軍ニ付テハ主力艦及航空母艦ノ數ニ依ル三十三%(華府所定ノ)、巡洋艦及驅逐艦ノ噸數ノ二十五%(倫敦所定ノ)ヲ減シ潛水艦ハ噸數ニ於テ三十三%(倫敦所定ノ)ヲ減シ最大單艦噸數ヲ千二百噸トスヘシ

依テ松平ハ右宣言ニ對シテハ同僚ニモ諮リタル上何分ノ意見申述フヘキモ個人トシテハ例ヘハ保有量ノ同シカラサル海軍ニ對シ一律ノ削減ヲ爲サントスルハ國防上公平ニ非サルヘク我方ニ於テハ到底受諾シ得サルモノト考ヘラル旨ヲ述ヘ又右宣言ハ數日來行ハレ居ル英、米、佛三國間ノ私的會談ト何等カ關係アルモノナリヤト質シタルニ「ウ」ハ

本提議ハ右協議ト全然關係無ク大統領ヨリ突然訓令シ來レ  
ルモノナリ目下佛等ト交渉中ノモノハ最少限度ノ標準ヲ見  
出サントスルモノニシテ獨等ヨリ觀レハ水準餘リ高ク如何  
ナル程度ニ落着クヤハ問題ナリト語レリ  
尙同日正午松平求ニ應シ「サイモン」ヲ往訪シタルニ  
「サ」ハ米ノ提案ニ言及シ右案ハ昨夜ヨリ今日ニ掛ケ初メ  
テ承知シタル次第ニテ餘リノ突然ニ一驚ヲ喫シタリ米側ニ  
於テハ本廿二日午前十時頃華府ニ於テ發表スル趣ニテ當地  
ニ於テハ午後四時半一般委員會ヲ開キ發表スルコトナリ  
タルカ餘リ豫告期間短キ爲右案ニ對シ充分ナル意見ヲ述フ  
ルコト能ハス昨夜來在「ローザンヌ」ノ「マクトナルド」  
ト協議ノ上兎ニ角米案ニ對シ簡單ニ挨拶ヲ爲シ度キ心組ナ  
リトテ其大要ヲ語リ（演說後報）タルヲ以テ松平ハ右内報  
ヲ謝シ置ケリ  
尙他ノ方面ノ情報ニ依ルモ右案ニ關シ英米間ニ全ク相談無  
カリシコト事實ノ如ク「サ」ハ米案ヲ以テ大統領選舉ノ爲  
ニスル内政上ノ理由ニ基クモノナラント語リタルカ我方ニ  
於テモ同様ノ觀測ヲ爲シ居レリ  
「サイモン」ハ茲兩三日間專ラ米ト共ニ佛ヲ説キ最少限ノ

集スルニ至レル事情ニ關シ昨夕「ギブソン」ヨリ本日同時  
刻米國ニ於テ大統領「ステートメント」ノ發表アルニ付是  
非共本委員會ノ開催ヲ得度シトノ要望アリタルカ爲ナリト  
釋明シタル後「ギブソン」立チ要領別電第一三一號ノ通聲  
明シタルニ對シ議長ヨリ米國對案ハ本委員會ニ於テ直ニ討  
議スヘキモノニアラスシテ私的會談ニ移サルヘキモノト思  
考スル旨提議次テ英佛蘇獨日伊西七國代表相次テ意見ヲ述  
フ即チ「サイモン」ハ米國提案ハ昨日迄何等承知セサリシ  
所ナルヲ以テ今茲ニ内容ニ立入り論評シ得ヘキ限ニアラス  
數日前「マクトナルド」ト共ニ來壽ノ後本會議ノ進捗ヲ計  
ル爲開始セル私的會談ハ目下圓滿進行中ニシテ米提案モ亦  
右會談ノ題目タラシムヘシトノ議長ノ提言ハ至當ナリ蓋シ  
本會議ノ目的ハアル協定ニ到達スルニアリテ一國ノミノ宣  
言ハ何等價值ナケレハナリト前提シタル後米提案ノ眼界廣  
クシテ稍々専門的討議ニ陥リタル本會議ノ危機ヲ轉換スル  
ニ資スル所大ナルヘキコト及其ノ目標ノ廣大ニシテ現下ノ  
經濟的不況ヲ救済スルノ効果アルヘキコトヲ賞揚シ殊ニ空  
中爆撃禁止ノ點ニ付贊意ヲ表シ同提案ハ或點ニ於テハ未タ  
不充分ナル點アリトテ潛水艦ノ全廢又ハ少クトモ單艦噸數

妥協點發見ニ努メ居リ先ツ佛側ト大体話纏マリタル上我方  
及獨、伊等ニモ協議スル目的ヲ以テ會談ハ相當進捗シ居リ  
タル模様ナリ  
在歐米各大使ニ轉電シ、「ローザンヌ」ニ轉報セリ

18 昭和7年6月22日 在ジュネーヴ軍縮全權より  
齋藤外務大臣宛（電報）

一般委員会における米國軍縮案（フーヴァー案）  
の提議について

別電一 六月二十三日発在ジュネーヴ軍縮全權より齋  
藤外務大臣宛軍第一三二一號  
右軍縮案要領  
二 六月二十三日発在ジュネーヴ軍縮全權より齋  
藤外務大臣宛軍第一三二二號  
右軍縮案に対する松平全權發言要領

ジュネーヴ 6月22日後発  
本 省 6月23日後着

軍第一三〇號  
二十二日午後一般委員會開催劈頭議長ハ急遽本委員會ヲ召

ノ一層低下及主力艦ノ單艦噸數低下ノ必要ヲ例示シ何レニ

セヨ米提案ノ討議ニ全幅協力ヲ咨マサルヘキ旨ヲ聲明シ

「ボンクール」ハ米提案ハ軍縮會議ノ事業ニ對スル輿論ノ

焦慮ノ表現タルヲ認ムルモ本提案ト目下進行中ナル私的會

談トノ關係ヲ考フルニ右會談ナルモノハ佛國側トシテハ安

全保障ノ現状ニ於テ即時ニ實現シ得ヘキ軍縮ノ第一歩タル

最小限度ノ協定點ヲ發見セシカ爲試ミ居ルモノニシテ米提

案ノ如キ軍縮案ヲ討議スルカ爲ニハ之ト同時ニ安全保障ノ

確立ニ關スル佛提案ヲモ論議スルヲ要スヘシト留保シタル

後米案ノ如ク各國ニ同一ノ縮減率ヲ適用スル事ハ軍備整備

ノ途上ニアル小國ニ對シ又軍備組織ノ進化相異ル諸國ニ對

シ將又既ニ自發的軍縮ヲ斷行セル諸國ニ對スル關係ニ於テ

必スシモ公正ヲ確保シ難カルヘシト批判シ且米提案ハ不戰

條約ノ實施ヲ出發點ト爲シ居ルモ右ハ現下ノ狀態ニ於テハ

一個ノ假定トモ言フヘキモノニシテ其ノ實効ヲ發揮セント

セハ必然制裁手段ノ確立ヲ前提トセサルヘカラスト説キ

「リトヴィノフ」ハ本會議ノ進行遲々トシテ今日迄専門的

討議ノ爲時日ヲ空費セルヲ攻撃シタル後米案ハ準備委員會

及本會議ニ於テ「ソヴィエツト」代表ノ提案セル所ト或ル

軍第一三一號

「ギブソン」ハ先ツ會議ハ目下軍備縮少ニ關シ一層廣汎ナル努力ヲ爲シ得ル方式ニ關シ討議中ナルカ右討議ニ於ケル指針トシテ大統領ヨリ左ノ通ノ訓令ヲ受ケタリト述ヘ之ヲ朗讀ス

吾人ハ今ヤ世界各國民ノ負擔スル過重ナル軍費ヲ輕減スヘキ何等カ廣汎且決定的手段ヲ採用セサルヘカラサルノ秋ニ達セリ右手段ノ採用ハ世界ノ經濟復興促進ノ最重要ナル世界の方法ナルヘシ吾人ハ軍備ノ存在ヨリ生スル各國民間ノ恐怖及軋轢ヲ除去スル爲全力ヲ盡ササルヘカラス右手段ノ採用ニ依リ吾人ハ各國民間ノ適當ナル自衛ヲ維持シツツ平和ノ保障ヲ増進シ且將來十年間ニ於テ各國民ヲシテ百億乃至百五十億弗ノ浪費ヲ節約セシムルコトヲ得ヘシ此ノ見地ヨリ余ハ左ノ指導の原則ヲ提議セントス

一、不戰條約ハ各國民カ其各自ノ軍備ヲ單ニ防禦ニノミ使用スヘキコトヲ約定シタルモノニ外ナラス

二、縮少ハ軍備ノ廣汎ニシテ一般的ナル削減ニ依ルノミナ

(別電一)

在歐米各大使ニ轉電セリ

點ニ於テ共通スルモノナル事ヲ指摘シ即時本案ノ討議ニ入り本會議ノ真ノ事業ニ着手セサルヘカラスト述ヘ  
「ナドルニ」ハ米案カ本會議ノ事業ニ對シ新タナル刺戟ヲ與フヘキ事ヲ喜ヒ殊ニ攻撃力ノ縮減及防禦力ノ増大ニ依リ規約第八條所定ノ國ノ安全カ確保セラルル事及實質の軍縮ニ依リ速ニ各國民間ノ同等權ノ實現ニ一步ヲ進ムル事ニ於テ同案ニ贊意ヲ表シ

松平ハ要領別電第一三二號ノ通り述ヘ

「グランデ」ハ今朝米案ニ關シ「ムツソリニ」ニ請訓セル結果ナリトテ伊國ハ無條件且全体トシテ米案ヲ受諾スヘク世界平和ノ増進ノ爲各國何レモ伊國同様多少ノ犠牲ヲ甘受シテ同案ニ贊同スヘシト宣言シテ滿場ノ大喝采ヲ博セリ最後ニ議長ヨリ米提案ハ目下進行中ナル私的會談ノ一部ヲ成スヘク最短期間内ニ或ル具体問題ニ付協定ノ見込立チタリトノ報告アル迄一般委員會ヲ休會スヘシト諮リ右ニ決定セリ

ラス攻撃力ヲ縮少シ防禦ノ比較的勢力ヲ増大スルコトニ依リ遂行セラルヘシ

三、世界ノ軍備ハ各國間ノ相互關係ニ依リ増大セリ右相互關係ハ縮少ヲ爲スニ當リ保持セラルヘシ

四、縮少ハ現實ナラサルヘカラス又經濟的救済タラサルヘカラス

五、<sup>(2)</sup>陸海空軍ノ間ニハ相關々係存シ余ノ提議ハ不可分ナリ上述ノ諸原則ニ基キ余ハ世界ノ軍備ノ約三分ノ一縮少ヲ提議ス

陸軍

陸軍ノ攻撃的性質ヲ減少スル爲既ニ會議ニ上提セラレ居ル一切ノ戰車化學戰及大移動式重砲ノ廢止案ノ採擇ヲ提議ス尤右ハ國境及海岸防禦ノ爲ノ固定要塞ノ構築及増加ヲ妨クルモノニ非ス

余ハ更ニ所謂警察部分ヲ超ユル陸軍兵力ノ三分ノ一減ヲ提議ス

多數國ノ陸軍ハ國內秩序維持ノ爲ノ警察部分ト外國ノ攻撃ニ備フル爲ノ國防部分トヲ有ス平和條約ハ獨塊洪勃ノ軍備ヲ國內秩序維持ニ必要ナル程度ニ縮減シ居レルカ余ハ各國

カ獨逸(人口約六千五百万ニ對シ十万人)其他ノ諸國ニ許容セラレタル比率ノ平均ニ比例セル基礎的警察兵力ヲ受諾セントコトヲ提議ス本方式ハ(植民地ヲ有スル國ニ對シテハ必要ナル考慮ヲ爲ス)世界各國ヲシテ國內秩序ヲ維持セシムルニ十分ナルヘシ如上ノ見地ヨリ余ハ上述ノ如ク警察部分ヲ超ユル陸軍兵力ノ三分ノ一減ヲ提議ス

空軍

爆撃ヲ全廢シ同時ニ空中ヨリノ凡ユル爆撃ヲ禁止ス

戰闘艦ノ協定隻數及噸數ノ三分ノ一減航空母艦巡洋艦驅逐艦協定噸數ノ四分ノ一減及潛水艦協定噸數ノ三分ノ一減ヲ提案シ且ツ何レノ國モ潛水艦ハ三万五千噸ヲ超エ保有スルヲ得ス

<sup>(3)</sup>戰闘艦及航空母艦ノ比率ハ五大海軍國間ニ在リテハ華府條約ニ依リ定マリ巡洋艦、驅逐艦、潛水艦ノ比率ハ日英米三國間ニ在リテハ倫敦條約ニ依リ定マリ居レルカ本案ニ於テハ巡洋艦及驅逐艦ニ關スル佛伊海軍力ハ兩國カ所謂一九三一年三月一日ノ協定ニ基キ倫敦條約ニ加入セルモノトシテ計算ス

海軍縮小ニ關スル各種ノ技術的考慮ニ對シテハ米國全權團



ヨリ提議スヘシ

本案ニ依レハ建艦及代艦費及陸海空軍維持費ニ付巨額ノ節約ヲ爲シ得ヘキト共ニ各國ノ防禦力ニ對シ著シク攻撃力ヲ減スルコト爲ルヘシ

本案ハ簡單率直ナルモノナルカ各國ニ何物カラ寄與スヘキヲ期待スルモノナリ世界ヲ擧ケテ軍費ノ負擔ニ苦シムハ愚ナルヲ以テ米國ハ之カ救済ノ具體的提案ヲ爲シ自己ノ責務ヲ果サントスルモノナリ。

次ニ大統領提案ニ對シ「ギブソン」ハ一、二説明ヲ加ヘタルカ其要點左ノ通

巡洋艦ニ付英米保有量ノ二十五「パーセント」減ハ倫敦條約ニ依ル保有量即三十三萬九千噸ヲ基礎トスヘク又八吋巡洋艦ニ付テハ英米各十五萬噸從テ日本ハ九萬噸ニ制限セン

トス

潜水艦ニ付テハ各國ノ縮小同意ヲ可能ナラシムル爲大統領ハ現在海軍條約國タルト否トヲ問ハス總噸數三萬五千噸又ハ隻數四十隻（單艦噸數千二百噸ヲ超過スヘカラス）以上ノ保有ヲ禁止ス

本案ニ依リ五大海軍國ノ爲ス可キ縮小ニ鑑ミ他ノ諸國モ亦

ルモ充分檢討ヲ加ヘタル後其ノ見解ヲ表明スヘキ事ヲ留保ス

二、唯一言述ヘ置キ度キハ米國宣言ハ陸海空軍ノ實質的縮限ヲ含ムモノナル處陸軍及空軍問題ニ關シテハ最近ノ幹部會議ニ於ケル議長提言ノ手續ニ從ヒ非公式會談カ有望ニ進行シツツアルモノト了解ス從テ我方ニ於テハ米提案カ私的會談ニ於テ檢討セラルヘシトノ議長提議ニ異存ナキモ前記非公式會談ハ米國提案ニ拘ラス繼續セラレ何等カ實際的見解ニ到達セン事ヲ希望スルモノナリ

三、海軍問題ニ關シテハ米國提案ハ壽府及倫敦條約參加國ノ保有量ニ對シ同率ノ縮限ヲ加ヘントスルモノナル處此ノ點ニ關シテハ各國ノ國防ヲ公正ナル方法ニ依リ確保スル様慎重ナル考究ヲ要ス

既存條約所定ノ保有量ヲ基礎トシテ何等カ新ナル縮限計畫ヲ樹ツルニ當リテハ帝國政府カ倫敦條約所定ノ保有量（ヲ）一九三六年迄ノ限レル期間ニ對スル協定トシ受諾シタル點及他ノ海軍國カ未タ右條約ニ參加シ居ラサル點ニ特殊ノ考慮ヲ拂ハサルヘカラス既存ノ海軍條約ヲ改正セントスル場合ニハ直接關係國間ニ豫メ充分ナル意見交換ヲ爲ス

其海軍力ニ相當ノ縮小ヲ爲ス可キナリ

余ハ最近數箇月ノ經驗ニ依リ各國共軍縮實現ニ誠意努力シツツアルヲ認メタルカ米國ハ本案ニ依リ海軍ニ對シテハ現有艦船三十萬噸ヲ廢棄シ五萬噸ノ新艦建造ノ權利ヲ放棄セントシ又陸軍器材ニ付テハ移動重砲約一千門、「タンク」約九百臺、空軍ニ付テハ爆撃機約三百臺ヲ廢棄セントス米國全權ハ何時ニテモ本案ノ説明ニ當ル可ク右諸點ハ目下進行中ノ私的會談ニ於テ論議サルルコト明ナルカ米國ノ進テ爲サントスル兵力ノ犠牲的縮小ニ對シテハ各國ノ共鳴スヘキヲ疑ハス

### （別電二）

ジュネーヴ 6月23日前發  
本省 6月23日後着

軍第一三二號

一、「フリーバー」大統領ノ訓令ニ依リ米國代表部ノ爲シタル重要ナル宣言ニ關シ日本代表部ハ軍縮會議ノ事業ヲ容易ナラシムルノ目的ヲ以テ米大統領ノ採ラレタル「イニシヤタイプ」ヲ多トシ本提案ヲ慎重ニ考究スルノ用意ア

ヘキモノト思考ス

19 昭和7年6月23日 在米出淵（勝次）大使より  
齋藤外務大臣宛（電報）

米國軍縮案提議の動機および英仏両國の反応などにつき同國國務長官より意見聴取について

ワシントン 6月23日後發  
本省 6月24日後着

第三六二號

二十三日國務長官ニ面會シ大統領ノ軍縮新提議ニ關スル動機及英、佛等ノ態度等ニ付意見ヲ探リタル處大要左ノ通り語レリ

（一）世界平和ノ確保並ニ不景氣救済上徹底的軍縮ヲ行フ必要アル事ハ大統領ニ於テ是迄屢々言明シタル所ニシテ今回ノ壽府會議ニ於テモ極メテ熱心ナル態度ヲ以テ參加シタル次第ナリ然ルニ會議ハ既ニ五ヶ月ヲ經タルニ拘ハラス何等顯著ナル進行ヲ見ル事無ク而モ主ナル國ハ互ニ尻込ミヲナシ進ンテ具體的提議ヲ爲ス模様無ク此ノ儘往再日ヲ經ルニ於テハ必ス失敗ニ終リ其ノ結果由々シキ事態ヲ

惹起ス可ク米國トシテハ軍縮問題ハ歐洲ノ政情ト最モ密接ナル關係アルニ顧ミ是迄幾分控ヘ目ノ態度ヲ執リ來リタルモ最早辛棒シ切レス遂ニ今回ノ如キ攻撃力ヲ減少スルト同時ニ防護力ヲ増大スル趣旨ノ具体案ヲ提議シタル次第ナリ

右ニ付テハ豫メ主要國タル英、佛、伊、日等ノ諸國間ニ内相談ヲ爲ス事適當ナル可シト認メ實ハ月曜日(二十日)先ツ軍縮問題ニ付最モ神經過敏ナル佛國側ニ對シ提議ノ要領ヲ内話シタルニ其ノ消息忽チ世上ニ洩ルル模様トナリタルニ付取り急キ英、伊、日ニモ一應ノ内話ヲ爲シタル上昨日午後壽府ニ於テ披露スルト共ニ恰モ同時刻華府ニ於テモ發表シタル次第ナリ

(一)昨二十二日「ギブソン」ヨリ電話ヲ以テ詳細報告ニ接シタルカ右ニ依レハ英、佛、共ニ未タ研究ヲ終ラサル爲メ其ノ意向判明セサルモ英國側ニ於テハ相當同情ヲ以テ考量ヲ加ヘ居ルモノノ如ク佛國側ノ態度モ米國政府ノ豫期セル以上ニ良好ニシテ大イニ安心シ居レリ、尙松平大使ノ態度モ頗ル協調的ナル事「ギブソン」ノ報告ニ依リ承知シタルニ付早速同大使ニ謝電ヲ發セリ(本使ニ右謝電

トナル可シト語レリ

壽府ニ轉電シ在歐各大使ニ轉電セシム

20 昭和7年6月25日

在ジュネーヴ軍縮全權より  
齋藤外務大臣宛(電報)

軍縮案提議の事情などに関する米國側の説明  
について

ジュネーヴ 6月25日後発  
本省 6月26日後着

軍第一三八號(極秘)

(1)二十四日「ギブソン」、「ウイルソン」來訪、松平、佐藤面

會ス、松平ハ前日「ギ」ヨリ我方ノ演説ニ對シ「スチムソン」ノ謝意ヲ傳ヘ來レルニ對シ右傳言ヲ謝スト共ニ我ニ於テハ未タ研究中ニテ意見ノ發表ヲ留保セル事ハ御承知ノ通ナリ本件ニ對シテハ既ニ「ウ」ニモ述ヘタル如ク日本側ニハ大ナル困難アルニ付右ハ誤解無キ様予メ承知アリ度キ旨述ヘタル處「ギ」、「ウ」共右ハ充分了解シ居レリト述ヘタリ

次テ「ギ」ハ豫告期間短ク突然斯クノ如キ聲明ヲ爲シタル

ヲ讀ミ聽カセタリ)

次テ本使ヨリ軍縮問題ニ關聯シ佛國等ヨリ「セキユーリテイ」問題提出セラルルニ至ル可キカト察スル處先般「シカゴ」ニ於テ決定セラレタル共和黨ノ政綱中不戰條約第二條不履行ノ事態發生ノ場合國際會議ヲ召集若ハ參加ニ關シ政府ヲ「オーソライズ」スル爲メ議會ヲシテ立法手段ヲ執ラシム可シトノ一節ハ佛國側ニ於テ満足ニ思考シ居ルヤノ報道傳ヘラレツツアリ右ニ關スル長官ノ意向如何ト尋ネタルニ長官ハ「セキユーリテイ」問題ハ御承知ノ通屢々佛國ヨリ提議セラレタル事アルモ佛國側ニ於テハ動モスレハ米國ヨリ實質的援助ヲ期待シ又米國側特ニ議會等ニ於テハ歐洲ノ政局ニ捲込マルル事ヲ惧ルル見地ヨリシテ之ニ反對スル爲メ常ニ満足ナル協定ヲ見ルニ至ラサリシカ只今御話ノ共和黨政綱ノ一節ハ現政府ニ於テ多年考量シ居リタル事柄ニシテ若辛ニシテ將來議會ニ於テ必要アル議案通過スルニ於テハ不戰條約第二條不履行ノ問題起リタル場合米國モ公然國際會議ニ代表者ヲ出シ討議ニ參加シ得ル次第ナルヲ以テ或ル程度迄「セキユーリテイ」問題ニ關スル佛國側ノ希望ニ副ヒ得ル事

事情ハ民主黨ノ大統領豫選大會開催中之ヲ發表スルコトハ面白カラサル事情アリ左リトテ其ノ後ニ於テハ餘リニ機ヲ逸スル惧アル爲俄ニ發表シタルモノニテ右事情諒察アリ度シト述ヘ「ウ」ハ日本側ノ困難ニ付尋ネタルニ付松平ハ未タ確タル意見ハ表明スル時期ニアラサルモ大体常識ヨリ判斷スルモ倫敦會議ニ於テ彼ノ程度ノ結果ニ到達スル迄ニスラ多大ノ困難アリタルモノヲ今日斯クノ如キ大ナル縮減ヲ爲シ得ル筈無カル可ク當時ト今日トノ間ニ何等斯クノ如キ大削減ヲ行ヒ得ル程世界ノ狀況カ好轉セリトハ思ハレス唯財政上ノ困難カ各國トモ深刻トナレルハ事實ナルモ一般ニ人心ハ當時ニ比シ一層不安ノ狀態ニアルカ如キ感アルニ付佛國提案ハ到底實行困難ナルヤニ思ハルト述ヘ佐藤ハ保有量ノ異リタル場合一律ノ縮減ハ劣勢保有者ニハ不公平ナル打擊ヲ與フルコトヲ指摘シタル處「ウ」ハ其點ハ過日松平ト會談後専門家ニ語リタル處事實ハ反對ナリト述ヘ居リタリト答ヘ理由ハ述ヘサリシニ付我方ニ於テハ我方ノ見解ヲ繰返シ更ニ二、三質問ヲ試ミタリ先ツ米國案中ノ爆撃機ノ廢止ハ陸上機ノミナリヤ又ハ海上機ヲ含ムモノナリヤト問ヒタル處右ハ陸海一切ヲ含ムモノニシテ空中爆撃ノ禁止

モ亦凡テヲ含ムモノニシテ軍艦搭載ノ飛行機ハ結局偵察用ニ止マル次第ナリト答ヘ又從來米國カ豫算ノ制限ヲ好マサリシニ拘ハラス佛國側ト本件ニ付協議シ居ル理由ヲ尋ネタル處米國ハ依然トシテ「グロウバル」ノ豫算ノ制限ヲ好マサルコトハ事實ナルモ佛國側ノ希望モアルニ付目下請訓中ナリ英國モ亦此點米國ト同様目下考究中ナリト述ヘタリ本日ノ來訪ハ單ニ急遽提案ノ事情説明ト夫レトナク我方ノ意嚮ヲ探ル積リニテ別ニ眞面目ノ議論ヲ爲ス爲ニ來リタルモノトハ思ハレサリシヲ以テ我方ニ於テモ餘リ深入リセス難談中ニ右ノ話ヲ爲シタル次第ナリ尙英佛トノ會談ノ模様ニ付テハ腹藏ナク内報スヘク一兩日中「ウ」ヨリ佐藤ニ語ルヘキ旨ヲ約シタリ

在歐米各大使ニ轉電セリ

21 昭和7年6月27日 在ジュネーヴ軍縮全權より  
齋藤外務大臣宛(電報)

米國軍縮提案への我が方対処方につき請訓

ジュネーヴ 6月27日後発  
本 省 6月28日後着

ハ當然ナルノミナラス輿論ノ氣受案外良好ナルニ押サレテ眞面目ニ提案ノ成功ニ努力スルニ至ルヤモ計リ難ク其場合ニハ形勢ノ發展ニ應ジ對策ヲ講スルコトトシ差當リ米國側其他トノ應酬ニ於テハ細目ノ論議ニ入ルヲ避ケ單ニ大局論ヨリ我方カ其受諾ヲ困難トスル印象ヲ與フルニ止メ置キ英佛其他ト密接ノ聯絡ヲ取りタキ考ナルカ英佛ニ於テハ各議ヲ擬ラシ居ル模様ナルニ付其内關係國間ニ立入り話合ヲ爲スヘキ必要ニ迫ラルルコトト相成ルヘク其場合ニハ帝國今日ノ情勢ニ於テハ米案其儘ニテハ到底受諾シ得ストノ趣旨ヲ以テ進ム積リナル處本全權等ニ於テ心得置クコトアラハ早目ニ御回示相成様致度シ

白、土ヲ除ク在歐各大使及米ニ轉電セリ

22 昭和7年6月30日 齋藤外務大臣より  
在ジュネーヴ軍縮全權宛(電報)

米國軍縮提案は葬り去るべき旨回訓

暗軍第三二號  
貴電軍第一四二號ニ關シ

本 省 6月30日發

軍第一四二號(極秘)

米國提案ニ關シテハ累次ノ電報ニテ御承知ノ通りニテ當方ニテモ各方面ノ情勢注意ニ怠ラサリシ處同提案カ軍縮會議ニ多大ノ衝動ヲ與ヘタルハ申ス迄モナク殊ニ聯盟支持者及一般平和論者ノ稱讚ヲ博シ居ルコトハ事實ナルカ該案提出前後ノ米國ノ遣口及米國全權等ノ説明振ヨリ見ルモ右ハ軍縮會議事進行ノ妨シカラサル爲其政府攻撃ノ材料タラントスルノ虞アルニ至リ及「ローザンヌ」會議不成功ノ場合其責任モ間接ナカラ米國ニ轉嫁セラルル虞アリタル爲内外政策ノ掛引上「ゼスチユア」ニ非サルカトモ推測セラレ當方面ニ於テハ右ノ如キ觀察ヲ爲スモノ相當多キ様認メラルル處之ニ對シ英佛等ハ本案不成立延テハ軍縮會議ノ不成功ニ對スル責任ヲ負フノ危險ヲ避ケンシテ特ニ慎重考慮ヲ加ヘ居ルモノトモ認メラレ我方トシテモ此ノ點ハ充分ニ留意スル要アリ特ニ刻下ノ重要案件タル滿洲問題ニ直面セル今日一層慎重ノ考慮ヲ加フル要アルヘシト思考ス

前<sup>(2)</sup>述ノ如ク米國提案ノ主タル動機ハ政策上ノ一「ゼスチユア」タラシメントスルニ在ルカトモ觀察セラルルモノ一旦之ヲ提出シタル以上其成立ニ少クトモ一應ノ盡力ヲ爲スヘキ

米國提案ノ内容ハ今次軍縮會議ニ對スル帝國ノ根本方針ニ背反シ不合理且不正ナルモノト認メラルルヲ以テ帝國トシテハ到底之ヲ容認シ難ク尙同案ヲ基礎トシテ討議ヲ進ムルコトスラモ極メテ不利ナリト思考スルヲ以テ此ノ點御含ノ上帝國ト利害ヲ同シクスル國トモ連絡ヲ執リ成ルヘク同案ヲ葬り去ルコトセラレ度シ

23 昭和7年7月1日 在ジュネーヴ軍縮全權より  
齋藤外務大臣宛(電報)

米國軍縮提案に関する英國側との意見交換について

ジュネーヴ 7月1日後發  
本 省 7月2日前着

軍第一四四號  
六月三十日松平「サイモン」ニ面談ヲ求メタル處同氏ハ「ローザンヌ」ヨリ歸壽セサルニ付「サミュエル」ト會談ス要領左ノ通り  
松平ハ米案ニ對シテハ日本ニ於テモ大ナル關心ヲ有スルハ勿論ノ儀ナルカ日本トシテハ倫敦條約ノ決定ニ多大ノ困難

ヲ見漸クニシテ批准ヲ爲シ得タル如キ事情ニテ保有量ノ問題ニ付テハ動モスレハ國內ニ於テ論議ヲ惹起ス可キ惧有リ英國政府ニ於テハ米案ニ關シ閣議ヲ開キ其結果貴大臣モ當地ニ歸來セラレタリトノ趣承知ス日英從來ノ友好關係ニ鑑ミ又海軍問題ニ付テハ兩國間ニ可成リ共通ノ點有リト考ヘ居ルヲ以テ米案ニ付テハ豫メ意見ヲ交換スル事必要ナリト述ヘ英國政府ノ意嚮ヲ尋ネタル處「サ」ハ本件ニ付テハ閣議ニ於テ考究セラレ目下「サイモン」、「マクドナルド」間ニ於テ協議シ居レルモ未タ何等決定シ居ラス從テ自分トシテハ何等御話ス可キ地位ニ非サルモ日本ニ何等御話セスシテ突然米案ヲ受諾シ日本ヲ孤立ノ地位ニ陷ラシムルカ如キ事無キハ斷言シ得ヘク尙英國トシテハ艦型ノ縮少ニ依ル海軍縮ヲ適當ト思考シ居レルカ此點ニ付テハ日本モ同様ナル可シト思考スト述ヘタルニ付松平ハ日本トシテハ主力艦二萬五千噸、十四「インチ」ヲ主張シ居ルヲ以テ砲ノ口徑ニ付テハ異ルモ大體英國ト同意見ナル可シ又甲級巡洋艦ニ付テハ艦型縮少ノ餘地無キモ乙級巡洋艦ニ付テハ其餘地有リト答ヘタル處「サ」ハ潜水艦ニ付テハ二百五十噸ハ如何ト尋ネタルニ付我國トシテハ地理的狀況及近海ノ風浪荒キ

場即チ

(イ) 兩軍ノ接觸點ヨリ更ニ後方若干距離ノ間

(ロ) 敵ノ重砲陣地

(ハ) 敵ノ飛行場

ニ限リテ之ヲ許スコトトシ海岸ニ付テハ第二回海牙條約第九戰時海軍力ヲ以テスル砲擊ニ關スル條約ノ規定ヲ其ノ儘適用スルコトトシ又軍用機ニ付テハ自重三噸以上ヲ制限スルコトトシ右噸數ヲ超ユル軍隊輸送機飛行艇水上機等ハ數ヲ限リテ保有スルヲ許スコトトシ三噸以下ノ機ニ付テハ機數及全噸數ヲ以テ制限スルコトニ略話合ヒ付キ飛行船ニ付テハ其ノ數及容積ヲ以テ制限スルコトトシ之ハ專門家ヲシテ考究セシムルコトトナレリ  
尙松平ヨリ軍隊搭載機ニ爆撃裝置ヲ爲スコトハ如何ト問ヘルニ對シ「サ」ハ之ヲ禁止スル趣旨ナリト答ヘタリ  
二、戰車、英國ハ二十噸ヲ主張シ居レル處佛國モ三十二噸迄下ルコトヲ承知セリ

三、陸軍重砲六吋砲ヲ制限ノ境ト爲シ其ノ以上ノ砲ハ數ヲ限リテ保有ヲ許スコトトシ之等ノ點ニ付テハ專門家ヲシテ研究セシムルコトトナレリ

事情等ノ爲倫敦會議ニ於テ決定セル二千噸ヲ下ル事能ハスト述ヘタリ又「サ」ハ英國政府ノ態度決定スル迄ハ三國私的會談ニ於テモ海軍問題ニ觸レサル事トス可シト述ヘタリ依テ松平ハ過日「ウイルソン」及「ギブソン」ニ述ヘタル次第ヲ語り(往電軍第一二九號及一三八號)日本ニ於テ米案ヲ受諾スルコト不可能ナル事情ヲ話シ既ニ私的會談ヲ始メタルハ專門委員會ヲシテ討議セシメタル種々ノ問題ニ付各國ノ受諾シ得ヘキ點ヲ見出し七月末迄ニ何等カノ結果ヲ齎スヘキコトヲ期待シタルカ爲ナリト思考スル處米案ノ如キモノヲ取上ケ之ヲ論議スルコトナラハ如何ニシテ其ノ調和ヲ見出し得ルヤ頗ル紛糾ヲ來スノ惧アリト述ヘタル處「サ」ハ七月末迄ニ或ル結果ヲ得ルノ必要アルコトニ同意セルモ米案全體ニ對スル可否ニ付テハ依然意見ヲ述フルコトヲ避ケタリ

「サ」ハ更ニ過日來英米佛間ニ話合ヒタル點ヲ詳細御話スヘシトテ左ノ通語レリ

一、空軍、先ツ如何ニシテ空中爆撃ニ對シ市民ヲ保護スヘキヤノ點ヲ研究シタルカ米案ノ如ク爆撃機及爆撃全部ヲ禁止スルコトハ戰爭ニ於テハ實際上不可能ナルヲ以テ戰

四、化學機<sup>ヲ</sup>及細菌戰ニ付テハ專門委員會ノ報告通り之ヲ禁止ニ同意ス

五、<sup>(3)</sup>豫算ニ付テハ佛國側カ「グローバル」ノ縮減ヲ主張セルニ對シ英國側ハ三軍別ニ依ル制限ヲ主張シタルカ佛側ノ主張ニモ一應尤ノ點有ルヲ以テ目下考究中ナリ但シ英國ノ如キハ他國カ年々軍事豫算ヲ増加セルニ拘ハラス過去七年間ニ二割ノ縮減ヲ爲シタルニ付之以上ノ縮減ハ國內ノ輿論ニモ考ヘ相當其ノ率ニ付考量ヲ加ヘラル可キモノナル事ヲ主張シ佛側ニ於テモ之ヲ認メタリ

六、常設監督委員會ニ付テハ一國ヨリ他ノ一國ニ對シ條約違反ノ苦情ヲ持出し右委員會ニ於テ三分ノ二ノ同意有リタル時ハ實地調査ヲ行フトノ案出テタルモ英國側ハ未タ返答ヲ與ヘ居ラス又次ノ軍縮會議ニ關スル話合ヒ有リタルモ何等纏リタルモノ無シ

尙「サ」ハ右諸點ニ對スル日本側ノ意見承知シ度キ旨述ヘタルニ依リ松平ハ未タ我方ノ意見ヲ述フ可キ用意無キニ付更ニ考究ヲ加ヘタル上協議ス可キモ先大體空軍關係ニ於テ市民保護ノ方法ニハ異存無シト思ハルルモ三噸ニ限ル事ニ付テハ我方ニ於テ困難有リト思考ス何レ專門家

松平ハ右海牙條約中ノ防守ナル語ハ意味頗ル不明確ニシテ如何ナル都市ヲモ攻撃シ得ルコトナルノ惧レアルヲ以テコノ點更ニ「エラボレイト」スルヲ要スト述ヘ建川ハ戰場ノ後方ニアル鐵道ノ橋梁及「トンネル」ヲモ包含セシメ度シト述フ

〔2〕「サ」ハ戰場ノ廣サノ問題ニ付佛ハ兩軍接觸點ヨリ二十「キロ」トシ夫レ以外ニ移動シツツアル砲及器材ハ之ヲ攻撃スルモ可ナルモ移動シツツアル軍隊ハ之ヲ除外セントノ案ヲ出シ居ル旨並ニ英國側トシテハ移動シツツアル軍隊ハ之ヲ除外セサルコトトシ度シト述ヘ戰線後方二十「キロ」ノ範圍以內ニアル町村ノ住民ハ危險ヲ覺悟セサルヘカラサルモ右ノ範圍外ニアル町村ニ移動シツツアル軍隊カ入りタル場合ハ困難ナル問題生スヘシト佛案ノ儘ニテハ英側ニテモ諾否未タ決定シ居ラサル印象ヲ與ヘタリ我方ハ右ニ對スル研究ヲ約ス

(イ)飛行機ノ大キサ

「サ」ハ大型機ハ民用及輸送用ニ限り右以外ノ飛行機ハ三噸ヲ限度トスルコト前記私的會談ニ出テ居レリ今少シ小型トシタキモ三噸案ニハ大體同意シ得ヘシト述フ

ノ意見ヲ徵シタル上重ネテ御話ス可シト述ヘ又戰車ニ付テハ二十五噸ノ制限ナラハ受諾可能ナル可ク重砲ニ付テハ我方ニ於テ二十四「サンチ」砲ヲ相當有シ居ルヲ以テ之カ保有ヲ含マシムル程度ニ於テ制限ヲ受諾シ得可シ化學戰ニ付テハ成ル可ク嚴格ナル規定ヲ希望シ又豫算制限及常設監督委員會ノ問題ニ付テハ之亦研究ノ上御話スルコトトス可シト述ヘタリ

又「サ」ハ徵兵國ニ於テ一年制ヲ一律ニ採用スルコト不可能ナリヤト尋ネタルニ付松平ハ専門家ノ意見ヲ徵スルノ要アルモ自分ノ意見トシテハ本問題ハ各國ノ國情如何ニ依ルモノニシテ各國一律制限ハ不可能ナリ國民思想ヨリ言フモ又教育ノ點ヨリ言フモ一年制ニテ各國兵ノ能率カ必スシモ一律トナルモノニ非サル可ク日本トシテハ一律一年制ニ贊成出來サルモノト考フト述ヘ意見ノ開陳ヲ後日ニ留保セリ尙右「サ」談話中重砲及飛行機ニ關スル點ハ既電「マツシグリ」ノ談ト相違ノ點有ルニ付目下確カメ中ナリ

在歐各大使、米ニ轉電セリ

~~~~~

24 昭和7年7月5日 在ジュネーヴ軍縮全權より
齋藤外務大臣宛(電報)

軍縮問題の各論に関する日英兩國専門家を交えての意見交換について

ジュネーヴ 7月5日後発
本 省 7月6日前着

軍第一四八號

(1)七月四日松平「サミュエル」ト會談ス我方ノ希望ニ依リ専門家トシテ齋藤建川小牧帶同「サ」ハ「ロンドンデリー」「カドガン」其他専門家ヲ帶同ス要領左ノ通

一、空軍

(イ)市民保護

「サ」ハ三國ノ私的會談ニ於テ空爆ヲ(一)戰場(二)軍用飛行場(三)重砲陣地(四)海牙條約ニ依リ海軍ニ依ル砲撃シ得ヘキ海岸地帶ニ局限センコトヲ提言セルカ英米側モ原則トシテ之ニ同意スヘシ尙(四)ニ關シテハ右條約ハ昔ノ事態ヲ根據トセルモノニシテ幾分變更ヲ要スヘク又飛行機カ陸上ヨリ攻撃ヲ受ケタル場合ハ場所ノ如何ヲ問ハス之ヲ反撃シ得ルコトトシ度シト述フ

右ニ對シ松平ハ我方ハ到底受諾困難ナリトテ(一)日本ハ島嶼ヨリ成リ大ナル海岸線ヲ有シ居ル國狀ヨリ見又華府、倫敦兩條約ニ依リ國防上ノ缺陷ヲ生シタリトノ批評アル關係上右缺陷ヲ補フ爲大型機ヲ必要トス(二)民用機ハ急速軍用機ニ轉用シ得ヘク又一定ノ制限ヲ定ムルモ之カ監督困難ナルヘク(三)我方ニ於テハ飛行機工業歐米諸國ニ比シ著シク劣リ居ルヲ以テ平時ヨリ大型機ヲ保有シ居ルコト必要ナリト説明ス

(3)「サ」ハ民用飛行機ノ濫用防止ニ付監督手段ヲ講スルコト必要ニシテ英國側ニ於テ目下考究中ナリ大型民用機ノ用途ヲ限り航空路(航空路ハ國際監督ノ下ニ置ク)及機數ヲ限定シ之ヲ聯盟ニ登録スルコトスルモ一案カト考ヘ居レリ又大型機ニハ軍事的裝備ヲ禁シ右目的ノ爲然ルヘキ監督方法ヲ講スルコトトシテハ如何カトモ考ヘ居レリ又佛側ハ國際的監督方法トシテ聯盟又ハ「ワゴン、リ」ノ如キ會社ノ直轄トシテ民間飛行ヲ國際化スルノ案ヲ有スルモ英國ハ之ニ同意スルコト能ハスト述ヘ松平ハ右案カ成立スルトスルモ我方ニ於テハ大型飛行機保有ノ主張ハ放棄シ得サル旨ヲ指摘シ又佛國案ノ國際化ニハ同意シ難シト述フ次テ日本ノ

必要トスル大型飛行機ノ噸數及其種類ニ付先方ノ質問ニ應
シ我方專門家ヨリ日本ハ現ニ十六噸ノモノヲ有シ多數ノ大
型海上機ヲ必要トシ尙制限ノ問題トナレハ十六噸以上今少
シ大型ノモノヲ必要トスルヤモ知レスト述ヘタル處「サ」
ハ日本ニ於テ飽迄十六噸ヲ主張セラルルニ於テハ露國モ之
ヲ要求スヘク延ヒテ露國ニ接スル歐洲諸國モ之ヲ保有セサ
ルヘカラス結局日本カ「ブロック」スルコトトナルヘシト
述ヘ松平ハ我國ノ立テタル方針ヲ捨ツルコトハ困難ナリト
述フ

(イ)飛行機ノ數

「サ」ハ飛行機ハ現ニ國際間ノ競争激甚トナリツツアルヲ
以テ之ヲ制限スルコトトシ度シト述ヘ松平ハ右趣旨ニハ同
意ナルモ會議當初ノ演說中ニモ述ヘタル通り我空軍ハ尙建
設ノ道程ニ在ルヲ以テ此ノ點ニ關シ特別ノ考慮ヲ求メサル
ヘカラスト述ヘ建川ハ九月聯盟ニ報告セラレアル我方ノ數
ハ計畫中ノモノヲモ含ムモ右數ニテハ満足スルモノニ非ス
ト述フ「サ」ハ建設ノ道程ニ在ルト云ヘハ何國モ同様ノ言
ヲ爲スヘシト評シ松平ハ要スルニ程度ノ問題ニシテ日本ハ
他國ニ此シ遙ニ劣リ居ルモノナルコトハ何人モ了知シ居ル

コトナルヘシト述フ

「サ」ハ三噸以下ノ飛行機ニ付テハ總噸數及機數ニ依リ飛
行船及氣球ニ付テハ容積及數ニ依リ制限スルコトト致度シ
ト述ヘ松平ハ之ニ同意ス

(4)二、陸軍

(イ)砲

「サ」ハ砲ニ付一五五「ミリ」(英、米)又二二〇「ミリ」
(佛)ニ制限シ右以上ノ砲ハ數ヲ制限シ之ヲ聯盟ニ登録ス
ルト同時ニ現有以上増加セサルコトトスヘシトノ案アリ又
英ハ移動砲ノミヲ制限シタシト主張セルモ佛ハ固定、移動
ノ限界困難ナリトテ之ニ反對セリト述フ

建川ハ日本ハ二四〇「ミリ」ノ砲(移動及固定)ヲ多數保
有シ居リ右ヲ限度トシタシト述フ

「サ」ハ英案ノ通り一五五「ミリ」ヲ限度トシ夫以上ノモ
ノハ其ノ數ヲ登録スルコトトセハ可ナラント述フ、建川ハ
數ヲ登録スルコトトスルモ例ヘハ露國ノ如キヨリ正確ナル
數ノ登録ヲ期待スルハ困難ナルヘシト答フ

(ロ)戰車

「サ」ハ私の會談ニ於テ英側ハ二十五噸乃至二十噸ヲ限度

トスヘキコトヲ主張シ居ルヲ以テ右ニ對シ我方ノ見解ヲ求
メタルニ付松平ハ日本ハ二十五噸ノ制限ヲ受諾シ得ルモ強
イテ佛國側ヲ夫迄下ケシムルコトヲ主張スルモノニ非スト
述フ「サ」ハ制限以上ノモノハ破壊スルコトニ賛成ナリヤ
ト問ヒ我方ハ之ヲ所有シ居ラサルコトニモアリ勿論異存ナ
シト答フ

三、化學戰

往電軍第一四四號ノ通り

四、豫算制限

松平ハ日本ハ過去十年間ニ亘リ陸海軍トモ豫算モ大縮限ヲ
實行セリト數字ヲ示シテ説明シ從テ日本モ英國同様特別ノ
考慮ヲ求ムヘキ立場ニ在リト述ヘ更ニ豫算ノ總括制限ノ主
義ニハ賛成ナリ尤モ制限ノ數字カ現在ヨリ大ナルヘキヤ小
ナルヘキヤハ今直ニ確言シ得サル旨ヲ附言セリ

(5)五、條約ノ履行

「サ」ハ條約ノ履行確保ノ爲ニ箇ノ考案アリ第一ハ實地檢
分ヲ行ハサレハ條約ノ履行力甚タシク不確實トナル可シト
ノ觀察ニシテ第二ハ軍事機密ニ屬スルモノヲ濫リニ檢分セ
ラルル事ハ各國ノ困難トスル處ナリトノ觀察ニシテ右兩觀

察ヲ調和セントスル二案ノ提唱アリ一ハ往電軍第一四四號
六ノ案ニシテ他ハ委員會ニ於テ三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ
可決後更ニ之ヲ聯盟理事會ニ提起シ理事會カ非聯盟國代表
者ヲモ加ヘタル會議ニ於テ檢分ノ要否ヲ決スル事トスルノ
案ナリト説明ス之ニ對シ建川ハ我カ憲法上陸軍ノ軍機ニ關
スル事項ハ國際監督機關ヲシテ臨檢セシムルカ如キ事能ハ
スト答フ松平ハ英、米、佛ハ本問題ニ對シ如何ナル態度ヲ
採リ居レリヤト問ヘル處「サ」ハ米ヨリハ未タ何等回答ニ
接セス又英國ノ態度ハ未タ確定セサルモ個人トシテハ此ノ
種機關ノ設置ニ同情的ナリ又佛國側ハ最モ熱心ナリト答ヘ
結局我方ニ於テモ研究ス可キ旨約セリ

(6)六、次回軍縮會議ノ準備等ニ關シテハ二箇ノ見解アリ一ハ
本件準備ヲモ條約實施ノ監督委員會ニ委託スヘシトノ意見
ニシテ他ハ右委員會ハ quasi-judicialノ性質ノモノナレハ
聯盟理事會及非聯盟國ノ若干代表ヨリナル特別ノ委員會ヲ設
クヘシトノ意見ナリト説明シ我方ノ意見ヲ求メタルニ付松
平ハ本問題研究ヲ約ス

七、人員(イ)「サ」ハ本問題ニ付未タ私の會談ニ於テ討議シ
居ラサルモ米案ノ警察國防ニ區分スルノ考案ニ對シテハ日

本側ハ如何ナル意見ヲ有セラルルヤト問ヒ尙英國トシテハ既ニ警察力ニノミ縮減シ國防兵力ニ屬スル部分無キヲ以テ本件ハ問題トナラスト附言セルヲ以テ建川ハ日本ノ兵力ハ米案ニ依リ制限内ニアル次第ナレハ別段強ク異議ヲ有スル譯ニハ非サルモ右案ハ趣旨ニ於テ不公平ナル案ト謂ハサルヘカラス單ニ人口ノミニ依リ制限セントスルハ不完全ナルヘク各國ノ地理的其他ノ狀況ヲ考慮ニ入ルルヲ要スト述フ

(ロ)「サ」ハ勤務年限ヲ一律一年トスル案ニ付日本側ノ意嚮ヲ尋ネタルヲ以テ建川ハ相當數ノ長期服役兵アルコトヲ前提トセサル可カラス右ハ多大ノ經費ヲ要シ佛國ノ如キ財政ノ豐ナル國ニ於テ始メテ可能ナルモノニシテ日本ノ如キ國ニ於テハ現在ノ二年制ヲ維持スルノ外無シト答ヘタル處

「サ」ハ一年制ト爲サハ費用半減セサト述ヘ建川ハ一年トセハ現在ノ二倍ヲ徵集セサレハ所要兵力ヲ得サル可ク又教育期間ニ「ギャップ」ヲ生ス可シト述ブ「サ」ハ蘇聯邦亦一年ナラスヤト述ヘ、建川ハ蘇聯邦ノ實情ハ之ヲ窺知シ兼ヌルヘシト答ヘ「サ」ハ法律上國家カ公布シタル以上如何ニ蘇聯邦ト雖之ニ違反スルコト困難ナル可シト述ブ、尙英國專門委員ハ「ギャップ」ノ問題ハ時期ヲ別ニシテ部分

(一)同日午後英國下院ニ於テ米案ニ關スル英國政府ノ聲明アルコトヲ議長ニ通報シ且之ヲ一般委員會ニ披露センコトヲ要望シ

(二)右聲明ハ米大統領ノ宣言ヲ歡迎シ且ツ同外相カ英國一般委員會ニ於テ述ヘタル意見ヲ敷衍セルモノナルヲ以テ

(三)七日ノ委員會席上之ヲ朗讀セス寫ヲ速カニ配布セシメルコトトセル旨ヲ述ヘタルモノナリ(右ハ同委員會半ニ配布セラレタリ)

編 注 本件聲明は、マクドナルド英國首相がローザンヌ會議出席中であるため、ポールドウィン首相が首相代理として英國下院において発表した。このため、以後日本側ではこの聲明を「ポールドウィン案」と呼称する場合がある。

(付 記)

軍第一五四號

ジュネーヴ 7月7日後発
本 省 7月8日前着

的ニ徵集セハ解決スヘシ、現ニ佛ハ四月、十一月ニ徵集シ居レリト説キ、建川ハ右ノ如キハ教育上ノ統一ヲ害スヘシト答ヘタリ「サ」ハ右等ノ點ニ付日本ノ熟考ヲ求ムト述ブ尙海軍問題ニ付追テ會談スルコトトセリ

米ヘ轉電セリ

在歐各大使ヘ暗送セリ

25 昭和7年7月7日 在ジュネーヴ軍縮全權より
内田(康哉)外務大臣宛(電報)

米国軍縮提案に対する英國政府声明について

付 記 七月七日発在ジュネーヴ軍縮全權より内田外

務大臣宛電報軍第一五四号
右英國政府声明の概要

ジュネーヴ 7月7日後発
本 省 7月8日後着

(軍次カ)
第一五五號

七日午前「サイモン」ヨリ成ル可ク早目ニ御知セシ度シトテ同外相發軍縮會議議長宛三十日附書翰及英國政府聲明(大要軍第一五四號)ヲ松平宛送付シ越セリ右書翰ハ

(1)一、軍縮會議ハ今ヤ遲滯無ク實際的結論ニ到達スル爲各國ノ協力ヲ必要トスヘキ域ニ達セリ英國政府ハ「フーヴァー」提案ヲ此目的ニ對スル寄與トシテ衷心ヨリ歡迎スル吾人ハ同提案ハ實際ニ相當數量ノ軍縮ヲ提唱シ且質的及量的制限ノ二原則ヲ適用セントスルモノナルカ故ニ歡迎ス吾人ハ同提案中廣汎且一般的削減ノミナラス攻撃力ノ縮少ニ依リ比較的防禦力ヲ増大シテ縮少ヲ遂行セントスル點ニ贊意ヲ表シ此ノ目的達成ノ爲ニ一切ノ助力ヲ與ヘントスルモノナリ英國内閣ハ右ノ見地ヨリ「フーヴァー」提案ヲ講究セリ壽府ニ於ケル事業ノ成否ハ一般協定ノ成否ニ懸リ米國代表部モ亦「フーヴァー」提案ハ右一般協定ニ對スル寄與ヲ爲ス爲ニナサレタルモノナル事ヲ明カニセリ英國政府ハ既ニ廣汎ナル自己ノ提案ヲ提出シ居レリ右英國提案ハ「フーヴァー」提案トアル重要ナル點ニ於テハ手段、方法ニ關シ異ル處有ルモ右ハ同一ノ目的達成ノ爲ニ爲サレタルモノニシテ兩提案比較研究ノ結果ハ兩案ニ共通ノ部分相當大ナルモノアル事明カトナレリ吾人ハ目下ノ場合英國提案ノ主要點ヲ概説スル事便宜ナリト思惟シ此處ニ之ヲ開示セントス言フ迄モ無ク一般

- 協定ニ對スル寄與ニシテ孤立セル行動ノ宣言ニ非ス
- 二、⁽²⁾第一英國政府ハ陸海空軍問題ハ相關々係ニ在リトノ點ニ關シ「フーヴァー」大統領ト全然同感ナリ三軍ノ各々ヨリ適當ナル寄與ヲ爲ササル限リ國際協定ハ之ヲ成立セシムル事不可能ナリ英國ハ米國同様海軍ヲ其最強武力ト爲シ居ルモノナルカ故ニ英國ノ爲サントスル寄與ハ主トシテ海軍方面ニ存ス言フ迄モ無ク此方面ニ於テハ軍縮會議開會前既ニ軍縮ニ對スル大規模ノ制限實行セラレ居レルモ吾人ハ此ノ方面ニ於テ今一層ノ制限ヲ爲サントスルモノナリ
- 三、陸海空軍ニ關スル英國提案左ノ通
- 四、陸軍ニ關シテハ米國案ニ大体同意ス尤モ各國々情ニ適當スル様充分ナル研究ヲ要スル事勿論ナリ
- 五、⁽¹⁾陸軍兵力ニ就テハ國防ノ安全ヲ保持シツツ人員ヲ最低限度迄縮少スル方法ノ研究重要ナリ英國軍ニ就テ言ヘハ英國ハ徵兵ヲ廢シタルノミナラス既ニ國內秩序ヲ維持シ海外領土及交通線ヲ防護スヘキ最低限度迄ノ縮少ヲ爲シタリ英本國海外領土印度ヲ通シ大戰前ニ比シ陸軍人員ヲ二十五萬九千ヨリ二十萬七千ニ縮少シ騎兵
- 七、本提案ハ主力艦、航空母艦、巡洋艦、驅逐艦及潜水艦ニ亘ル一般條約ニ採用セラルル提案ハ種々ノ事情ヲ充分ニ考慮シタルモノナルヲ要ス英國海軍ノ責任カ世界各地ニ散在シ居ルニ鑑ミ軍艦ノ數ヲ一定程度以下ニ縮減スルコトハ實際的ニアラス此點ニ關シテハ從來既ニ各艦種ノ數ヲ減少シタルコトヲ念頭ニ置ク要アリ大戰前ニ比シ主力艦ハ六九ヨリ一五ニ、巡洋艦ハ一〇八ヨリ五二ニ、驅逐艦ハ二八五ヨリ一四七ニ、潜水艦ハ七四ヨリ五二ニ、減少セラレタルカ巡洋艦ニ付テハ今後殊ニ考慮セラレサルヘカラス
- 八、⁽⁴⁾上記ノ理由ニ依リ數的減少ニハ制限ヲ利トスルモ他ノ方法ニ依リ海軍縮少ヲ爲スコトハ可能ニシテ且望マシキコトニシテ英政府ハ主力艦及巡洋艦ノ三分ノ一ノ減少ヲ將來ノ建造ニ於テ爲シ得ヘシト思考ス
- 八、主力艦ニ其數又ハ艦型ヲ減少シ得ヘシ數ニ付テ英政府ノ念頭ニ置ク處ハ前述ノ如シ米國提案ハ主力艦ノ將來ノ建造ニ艦型及砲ノ口徑ヲ其儘ニ爲シ置カントス英國提案ハ
- (一)砲ノ口徑ヲ減少シ

- 九聯隊、砲兵六十一中隊、工兵二十一中隊、步兵二十一大隊、植民地軍六大隊ヲ縮少セリ
- 米國案中陸軍兵力ヲ警察部分及國防部分ニ分ツ事ハ慎重ナル研究ヲ要ス、英國ノ關スル限リ英國ハ既ニ米國案ノ基礎ニ於テ陸軍兵力ヲ國內秩序維持ノ程度ニ縮減シ居レリ
- ⁽³⁾化學戰及細菌戰ニ關シテハ米國提案ヲ受諾ス⁽¹⁾陸砲ニ關シテハ英國ハ一五五「ミリ」ヲ超ユル砲ノ全廢ヲ主張シ居ルヲ以テ米國案ト大体同意見ナリ⁽²⁾戰車ニ關シテハ英國ハ二十噸ヲ超ユルモノノ全廢ヲ主張シ居レリ輕戰車ハ特ニ攻撃的兵器ト謂フコトヲ得ス英國力全世界各地ニ亘リ廣汎ナル責任ヲ有スルニ鑑ミ兵器ノ一般的禁止ノ結果ハ陸軍人員ノ増加ヲ必要トスルコトナリ却テ軍縮ノ目的ニ背馳スルコトナルヘシ
- 六、故ニ陸軍兵力ニ關スル米國提案ハ英國陸軍ニ直接關係アル問題ニ關スル限リ略ホ英國政府ノ意見ニ一致ス而シテ人員ノ總數ニ於テハ英國政府ノ既ニ實行セル縮減ハ「フーヴァー」提案ノ標準ニ合致ス
- 海軍
- (二)艦型ヲ減少シテ米案同様總噸數ノ減少ヲ實現セントスルモノナリ
- 九、英政府ハ更ニ一步ヲ進メ右原則ヲ巡洋艦ニ及ホシ其艦型ト砲ノ口徑ノ最大限ヲ一萬噸八吋ヨリ七千噸六吋ニ減少セントスルノ用意アリ其場合ニハ主力艦ハ二萬二千噸十一吋ヲ最大限トスルコトヲ得ヘク此基礎ニ於テ主力艦ノミニテ十九萬五千噸ヲ縮少シ得ヘシ(米提案ニテハ約十七萬五千噸)
- 十、航空母艦ニ付テハ「フーヴァー」案ニ大体同意ナリ其艦型ヲ二萬七千噸ヨリ二萬二千噸ニ減少シ全噸數ヲ十三萬五千噸ヨリ十一萬噸ニ減少ス
- 十一、特筆スヘキハ潜水艦ニシテ英國ハ之カ全廢ヲ主張ス若シ之ヲ全廢シ得レハ驅逐艦噸數ノ三分ノ一ヲ減少シ得ヘシ若シ潜水艦ノ全廢不可能ナラハ其艦型ヲ二百五十噸ニ總噸數ヲ最小限度ニ制限スヘキナリ
- 十二、⁽⁵⁾故ニ英國政府ハ海軍ニ付左ノ諸點ニ關スル協定ノ即時採擇ヲ提議ス
- (一)將來ノ主力艦最大單艦噸數ヲ二萬二千噸、備砲ノ最大口徑ヲ十一吋ニ縮少ス

軍第一五八號(極秘)
 往電軍第一五三號⁽¹⁾具体的軍縮案ヲ提唱シタル「フーバー」
 大統領ノ「イニシアチブ」ヲ衷心觀迎シ且私的會談ニ於テ
 一致セル諸點ヲ要約列擧スル趣旨ノ決議案ノ起草ヲ「サイ
 モン」ニ依囑スルノ件ハ昨日ノ一般委員會ニ於テ全會一致
 ヲ以テ採擇セラレタル處七日夜「サミュエル」ハ松平ニ對
 シ右「サイモン」起草ノ決議案(往電軍第一五九號)ノ寫
 ヲ手交シ右ハ來週一般委員會ニ上程セラルル事トナル可ク
 右ノ内第二項中 If any トアルハ先般來大國ノ私的會談ニ
 於テハ空中爆撃ヲ全然ハ禁止セス之ヲ制限スル基礎ニ話合
 ヲ進メタルカ「マダリアガ」ヲ指導スルハケ國ノ會談ニ於
 テハ空中爆撃全廢ノ意向ニシテ米國ハ勿論⁽²⁾之ヲ贊成シ居リ
 空中爆撃全廢ノ議論ハ一般委員會ニ於テハ相當強ク主張サ
 ル可ク爲ニ必スシモ大國間ノ話合ヲ基礎トシテ決定スル案

ジュネーヴ 7月8日後發
 本 省 7月9日後着

務大臣宛電報軍第一五九號
 右決議案

付記 七月八日發在ジュネーヴ軍縮全權より内田外

十三、空中爆撃ニ對シテ人民ヲ保護スル有效ナル措置ヲト
 ルハ國家ノ急務ナリト認メ英政府ハ他國ヨリ一層急進的
 ニシテ實際的ナル案出ツルニ於テハ之ニ好意的考慮ヲナ
 スニ吝ナラサルモ、英提案ハ左ノ如シ
 (一)空中爆撃ハ條約ニ依リ能フ限り明白ニ決定セラルル限
 空軍⁽⁶⁾
 限ス

(二)今後建造セラルヘキ巡洋艦ノ最大單艦噸數ヲ七千噸、
 備砲最大口徑ヲ六、一吋ニ縮少ス
 (三)右(二)ニ關シ協定成立不能ナルニ於テモ英國政府ハ尙主
 力艦最大單艦噸數二萬五千噸、備砲最大口徑十二吋迄
 ノ縮少ヲ主張ス
 (四)航空母艦最大單艦噸數ヲ二萬二千噸、備砲最大口徑ヲ
 六、一吋ニ縮少ス
 (五)潛水艦全廢
 (六)驅逐艦噸數ノ約三分ノ一減尢モ此ノ點ハ潛水艦全廢ヲ
 條件トス
 (七)若シ潛水艦ニシテ全廢セラレサル場合ハ其單艦最大水
 上排水量ヲ二百五十噸トシ且總噸數及隻數ヲ嚴格ニ制
 限ス

界内ヲ除キ一切之ヲ禁止ス、人民攻撃ハ之ヲ全然禁止
 ス(二)總テノ陸海軍航空機ノ自重ヲ嚴重ニ制限ス(軍隊
 輸送機及飛行艇ヲ除ク)(三)總テノ陸海軍航空機數ヲ制
 限ス

十四、(三)ニ關シテ英政府ハ左ノ「オブサーヴエーション」
 ヲ附加シ度シ、大戰末ニ於テ英國ハ世界ノ二大空軍國ノ
 一ニシテ其ノ植民地及委任統治地域ハ其責任ヲ増大セシ
 メ他國ヨリ一層航空機ニ依ル處大ナルニ拘ラス一九三二
 年第一線ノ航空機ヲ大戰後ニ比シ二割削減シ陸海軍航空
 機ノ數ニ於テハ世界第五位トナレリ

十五、英政府ハ一般條約ニ依リ達シ得ルヨリ以上ノ軍縮ノ
 措置ニ參加スルノ用意アリ且之ヲ希望スルモノナリ
 在米大使ニ轉電シ在歐各大使ニ郵送セリ

26 昭和7年7月8日 在ジュネーヴ軍縮全權より
 内田外務大臣宛(電報)

米國軍縮案に關する大國間意見一致の諸点を
 列記したサイモン英國全權起草の決議案につ
 いて

ヲ立ツル事ヲ避ケ If any ノ辭ヲ用ヒタル次第ナリト云ヒ
 尙日本カスノ如キ空氣ノ裡ニ在リテ大型爆撃度ヲ主張セラ
 ルルコトハ日本ノ立場ヲ極メテ困難ナラシムヘシト附言セ
 リ

次テ海軍問題ニ關シ松平ハ米國案ト英國案トハ從來兩國間
 ノ難關タル主張ノ相異ヲ表ハシ居リ之ニ依リテ談合ヲ爲ス
 モ結局「デッド、ロック」ニ陥ルノ外無カルヘシト述ヘタ
 ル處「サ」ハ微笑ヲ洩ラシ之カ處理ノ方法ニ付何等意見ヲ
 有セサル様見受ケラレタリ尙「サ」ハ海軍問題ノ商議ヲ延
 ハスコトニ付米國側ニ於テ不滿アルヤモ知レスト述ヘタル
 ニ付松平ハ左リトハ思ハレス米國案ハ主トシテ内政關係ニ
 基因スルモノトヨリ外思ハレス海軍問題ノ如キハ條約國ノ
 一ニシテ之ヲ承諾セサルニ於テハ如何トモ致難キニ拘ラス
 スノ如キ難問題ヲ豫メ關係國ニ相談モ無ク提出スル等ヨリ
 觀ルモ強テ之ヲ通過セシメトノ意氣込ハ無キモノカト思
 ハル旨述ヘタル處「サ」ハ豫メ相談スルコト無ク提案セ
 ル點ハ了解ニ苦ム處ナリト述ヘ居レリ
 在歐米各大使ニ轉電セリ

(中 語)

ハナハトハ、ハニシヨロシク終結
セ、事、ハニシヨロシク終結

Gun. No. 159

⁽¹⁾

Conference for reduction and limitation armaments :

Being firm in its determination achieve substantial measure disarmament which should be sought along lines of Article 8 covenant League Nations; and which would be natural consequence of undertaking given by States of world in signing Briand-Kellogg Pact;

Welcoming heartily initiative taken by President United States in formulating concrete proposals;

Bearing in mind also Draft Convention Preparatory Committee, statements made to Conference by number of Delegations, and reports and resolutions of various commissions of conference ;

Declares that it accepts forthwith and unanimously

2. With this object in view High Contracting Parties should accept and observe provisions defining strictly area if any within which bombardment from air may be practised in event of hostilities between them.

3. It should further go as far as possible towards elimination of types of aircraft specially suited for bombardment by providing for limitation to tons of unladen weight of any individual aeroplane capable of use in war in commission and in immediate reserve in land sea air armed forces of each of High Contracting Parties. Limited number of exceptions may have to be made to meet special circumstances.

⁽⁴⁾ 4. In addition maximum number and total tonnage of aeroplanes capable of use in war in commission and in immediate reserve in land sea air armed forces of each of High Contracting Parties shall be limited.

5. Aeroplanes above specified weight devoted to civil aviation should be subject to special international regime.

underlying principles President Hoover's declaration ;

⁽²⁾ First that present conference shall dicide on substantial reduction of armaments ; second that this reduction should apply to all three arms-land sea air ; and third that primary objective should be weakening of methods of attack so as to strengthen defence.

2.

Conference notes that sufficient measure agreement has been reached upon number of important points to enable it to record already at this stage considerable advance towards goal which it is seeking to reach. It is now able to declare that without prejudice more far-reaching proposals that have been or may be put forward by different Delegations there is agreement on following propositions :

⁽³⁾ Air armaments

1. Chapter of Disarmament Convention dealing with air armaments shall contain provisions to secure civil population against air attack.

Land armament.

6. In order to reduce offensive character of all land forces as distinguished from their defensive character Chapter of Disarmament Convention dealing with Land armament shall contain provision prohibiting possession by any High Contracting party of any tank exceeding ... tons in weight. Any tank exceeding this limit of weight shall be destroyed within..... months of coming into force of Convention.

⁽⁵⁾ 7. Number and calibre of heavy landartillery shall be limited.

8. Chapter of Disarmament Convention dealing with Chemical Bacteriological and Incendiary weapons shall contain provisions recommended by Special Committee on such weapons as summarised in annex to this resolution.

Supervision

9. Disarmament Convention shall provide for establishment of Permanent Disarmament Commission with

constitution rights and duties generally as outlined in Part 6 of Draft Disarmament Convention submitted by Preparatory Commission for Disarmament Conference.

10. It is for consideration whether and under what conditions Permanent Disarmament Commission shall be given rights of local investigation of complaint.⁽⁶⁾
3.

11. Conference decides to invite Bureau to meet during adjournment of Conference with view making agreed recommendations for giving detailed effect to points 1, 2, 3, 5, 6, 7, and 10 above in so far as these have not been settled by present declaration.

Bureau shall endeavour to find rule or standard whereby numbers and total tonnage of aeroplanes referred to in point 4 can be determined.²

In such case where agreed recommendation is secured Bureau shall draft-with assistance if need be of Special Drafting Committee-articles giving effect to recommendation for insertion in convention.

⁽⁷⁾Certain other points in President Hoover's declaration, in draft Disarmament Convention and⁽⁸⁾ by various Delegations in course of present session call for further detailed examination before concrete propositions can be formulated.

Conference requests Bureau to examine, with assistance of such other Delegations as it may decide to be necessary proposal made by President Hoover and other proposals with regard to effectives and to consider various proposals that have been made for limitation of calibre of mobile land guns.

In any case this Committee shall furnish report in results of its deliberations with text of any articles that may have been drafted in time for circulation to Delegations to conference one month before opening of next session.

⁽⁹⁾Sub-Committee of National Defence Expenditure Commission shall continue and complete its work as soon as possible in order that Conference on its resump-

tion may be in position to decide whether system of budgetary limitation or publicity can be accepted.

As regards proposals made by President Hoover and other proposals concerning naval armaments conference invites Powers Parties to Naval Treaties Washington and London to confer together and to report to Conference if possible before resumption of its work conclusions which they have been able to reach. It is recognized that limitations and reductions to be accepted by Naval Powers other than Powers Parties to above Treaties will be dependent on nature of these conclusion.

⁽⁹⁾Annex,

Chemical Bacteriological and Incendiary weapon.

Convention shall contain provisions to following effect :

(a) As regards chemical weapons and means of warfare, the use, for purpose of incurring adversary of all chemical substances, whether elements or natural or

synthetic compounds which are capable in any way of producing harmful effects on human or animal organism, and of all appliances and devices for releasing them, shall be forbidden.

Above prohibition shall not apply to smoke or fog used to screen objectives or for other military purposes provided that such smoke or fog is not liable to produce harmful effects under normal conditions of use.

(b) As regards bacteriological weapons and means and warfares, all methods for the projection, discharge or dissemination in any manner of pathogenic microbes whether virulent or capable of becoming so, or of filter-passing viruses, or of infected substances whether for the purpose of bringing them into immediate contact with human beings, animals or plants, or for the purpose of affecting any of the latter in any indirect manner, shall be absolutely forbidden.

⁽¹⁰⁾(c) As regards incendiary weapons, use of projectiles specifically intended to cause fires, and of appli-

ances, such as flame projectors, designed to attack persons by fire, shall be forbidden.

Above prohibition shall not apply to projectiles specially constructed to give light and generally to pyrotechnics not intended to cause fires or to projectiles of all kinds capable of producing incendiary effects accidentally.

Neither shall it apply to projectiles designed specifically for defence against aircraft provided that they are used exclusively for that purpose.

Zenken.

27 昭和7年7月9日

在ジュネーヴ軍縮全権より
内田外務大臣宛(電報)

米軍縮案に関する仏国全権との意見交換に

ついで

ジュネーヴ 7月9日後発
本 省 7月9日後着

用航空ノ國際化又ハ其ノ他ノ「レーグルマンタシオン」ヲ條件トスルモノナリヤト問ヒタルニ「ボ」ハ佛ハ今以テ民間航空ノ國際化ヲ主張シ居ルモ米側ノ反對及英側ノ氣乗リセサル處モアリ他ニ何等カ適當ナル取締案見出サルルニ於テハ佛ハ喜ンテ之カ研究ニ咨ナラサルヘシ唯國際化又ハ他ノ適當ナル取締ヲ以テ軍用航空制限ノ條件トスル主張ニ於テハ何等變リナク而シテ右條件實現ノ場合制限單位ヲ三噸トスルコトハ之ヲ受諾スル積リナリト答ヘ佐藤ハ日本側ニ於テハ三噸ヲ以テスル制限モ同意シ兼ヌル次第ナリト言ヘルニ「ボ」ハ夫レ以上ノ爆撃機保有ハ殆ト不可能ナルヘキニ付出來得ル丈ケ噸數低下ヲ御勸メシ度處日本側ニ於テハ果シテ何噸ヲ限度トセラルル積リナリヤト尋ネタルニ付佐藤ハ右噸數ニ付未タ確定意見ヲ述フル能ハサルモ日本ノ地理的状況等ヨリ廣キ海ニ出テテ敵ヲ搜索攻撃スル必要アル所以ヲ説明シ置キタリ

二、砲

「ボ」ハ本問題ニ關シテハ佛側トシテハ依然海軍砲ノ同時制限ヲ主張スルモノナリ而シテ英提案ニ依レハ海軍砲ヲ二百八十「ミリ」迄低下セシメントスルモノナルニ付問題ハ

軍第一六一號(極秘)
八日午後佐藤「ボール、ボンクール」ト會談ス要領左ノ通り

一、空軍問題

佐藤ハ空中爆撃ニ關スル佛國側所見ハ從來ト異ナル處ナキヤト質問セル處「ボ」ハ本問題ニ關シテハ實ハ佛側ニ於テモ餘程困難ヲ感スルニ至レリ、佛側トシテハ從來ノ如ク空爆ヲ戰場ニ限り許スコトシタキ意見ナルモ「フリーバー」案ニハ之カ全禁ヲ主張シ多數小國亦同案ヲ支持シ居ルカ故佛國及日本ノ主張ハ頗ル大ナル困難ニ遭遇スルコトナレリ、自分トシテハ空爆ノ禁止ハ戰時ニ於テ其ノ實行困難ニシテ必ス違反者ヲ生スヘシト考ヘ居ルモ何分會議ノ大勢ハ前述ノ有様ニテ之ト正面衝突ヲ起スハ餘程考物ナルニ付或ハ次期會議迄ニ民用航空ノ轉用防止方法如何ヲ見極メタル上ニテ空爆禁止ヲモ考慮スヘシト云フカ如キ一項ヲ加フルコトトシ何トカシテ本件決議ヲ延期シ然ル後何等カノ決定ニ達スル如ク取計フ外ナキカト危ミ居レリト答ヘ

(2) 又佐藤ハ佛側ハ自重三噸ヲ以テ軍用機制限ノ基礎トスルコトニ同意ナリヤ又軍用航空制限ハ其ノ從來ノ主張ノ如ク民

左程困難ナラサルカ如ク見ユルモ米ハ從來ノ海砲口径ヲ主張シ居ルヲ以テ此ノ方面ノ困難ハ尙存續スル次第ナリト述フ尙「ボ」ハ日本ノ「クルーゾー」製二百四十「ミリ」砲ノ存在ヲ承知シ居リ之ヲ破壊シテ新口径砲ニ代フルノ無意義ナルヲ附言セリ

(3) 三、戰車

「ボ」ハ佛國側ニテハ戰車「キヤタピラ」ノ重量ヲ増大セントノ計畫アリ其ノ爲比較的重量大ナル戰車ヲ便トスル次第ニシテ先ツ三十二噸ト見當ヲ附ケ居レリト述ヘ佐藤ハ日本側ノ主張ハ二十五噸ナルカ勿論三十二噸ニテ妥協出來レハ尙更結構ナリト述ヘ置ケリ

四、海軍問題

佐藤ヨリ英側ニ於テハ今週初メヨリ五大海軍國ノ私的會談開催ノ意向アリシ旨承知シ居タル處其後英提案ノ出現ヲ見タル關係上模様換トナリタルモノニヤ今日ニ至ルモ何等英ヨリ會合ノ申出ナシ其ノ間ノ事情如何ト尋ネタルニ「ボ」ハ陸軍及空軍問題ニ付先ツ三國間ニ意見ノ交換ヲ爲シタルコト御承知ノ通りニテ其後英側ヨリ海軍問題ニ付テモ意見交換ヲ要シ且其ノ場合日伊兩國參加ノ必要ヲ述ヘタル次第

ナル處今回英政府ノ提案ヲ見ルニ至リ前記私的會談ノ繼續トシテノ五大海軍國會談ハ自然立チ消エトナリタリ（本件ニ關シテ英國側ヨリモ同様ノ説明ヲ得タリ）又佛國側ハ元々倫敦條約ノ全般ニ對シ參加シ居ラス又伊トノ話合附キ居ラサル今日五國限リニテ問題ヲ議セントスル提議ニ對シテハ大ニ躊躇スル次第ニシテ海軍問題ハ五國ニ限ラス其ノ他ノ國々ヲモ參加セシメタル會合ニテ之ヲ討議シ度キ意向ナリ

但シ英側ニ於テ強ヒテ希望スルニ於テハ佛側ハ絕對ニ五國會談ヲ拒絕スル考ヘニハアラス又今回ノ英提案ヲ見レハ「フーバー」案トハ根本ニ於テ重大ナル差異アル如ク假令五國間ニ會合ヲ催シタリトテ其ノ點丈ケニテモ果シテ満足ナル解決ヲ見出シ得ヘキヤ大ニ疑問ナキ能ハス又「フーバー」案カ或ハ三分ノ一又ハ四分ノ一減ト稱スルモ米ニ關シテハ將來建造スヘキ軍艦ヲ建造セスト云フ丈ケニ止マリ隨分虫ノ良キ米國流ノ案ト言ハサルヘカラスト述ヘタリ

五、兵器民營問題

「ボ」ハ今回會議ノ夏休前本問題ニ關シテモ今後ノ討議方針ニ付何トカ協定スル必要アリト思考ス實ハ佛國議會ニ於

二三箇月ヲ要スト思ハレ從テ本會議ノ次回會合ハ來年ニ入ル可シト想像セラル斯クスレハ米國大統領ノ選舉モ濟ミ眞面目ノ討議ニ入ルヲ得可ク若シ然ラスシテ大統領選舉前ニ本會議ヲ再開スル様ニテハ再三「フーバー」案ノ如キ提出ヲ見ル事必然ナルカ故ニ次回會議ノ開催日ハ今ヨリ之ヲ豫定シ置カサルヲ賢シトスヘシト言ヘリ

尙人員問題ハ當然主要國間ノ豫備交渉ヲ必要トスル問題ノ一ニシテ本問題ニ關スル「フーバー」案ニ對シテハ佛側ハ確然タル意見ヲ有シ居レリ即チ獨逸ノ現在兵力ヲ計算ノ基礎トスル場合ニ於テモ單ニ十萬ノ軍隊ノミナラス「シユツポ」十五萬及大統領力編制ヲ許可シタル軍隊的組織團體即チ「ヒットレリアン」四萬ヲ加算スル事當然ナリ但シ佛側トシテモ米案其モノヲ全然排除スル意思無ク理論上ノ點ヨリ反對スルヲ避ケ成ル可ク實地的見地ヨリ之カ檢討ニ當ラシテ主主張スルモノニシテ即チ數字ニ付現實ノ問題トシテ各國ニ如何ナル結果ヲ生ス可キヤニ付研究セントスルモノナリト述フ

以上會談ニ依リ佐藤ノ得タル感想ニ依レハ佛側ニ於テハ夏休後九月總會ヲ濟シタル後十月頃ニ至リ漸ク關係國政府間

ケル社會黨ノ勢力強ク而シテ兵器民營取締ハ戰爭防止策ノ一トシテ社會黨從前ヨリノ主張ニ係ルカ故ニ今回ノ軍縮會議ニ於ケル本問題ノ解決ヲ強ク主張シ居ル所以ナリ右ニ付テハ夏休前採擇セラルヘキ決議案中ニ本問題ノ將來ニ關シテモ一考ヲ加フルヲ要スヘシト考ヘ居レリト述フ

六、會議ノ繼續方法

佐藤ヨリ英決議案ハ近キ中ニ一旦本會議ヲ休會シ「ビュロー」ヲシテ次回ノ會議開催ニ必要ナル準備ヲ爲サシムル案ナル處佛側ハ之ニ異議無キヤト問ヒタルニ「ボ」ハ右案ハ至極妙案ト思ハレ英ノ眞意トシテ自分ノ了解スル所ニ依レハ先ツ重要問題ニ付關係國政府間ノ直接交渉ヲ行ヒ其交渉ニ於テ纏リタルモノ毎ニ「ビュロー」ニ於テ之ヲ採擇シ而シテ總テノ纏リ附キタル時「ビュロー」ヨリ之ヲ一括各國政府ニ通知シ一箇月後ニ本會議ヲ再開スト言フニ在リ重要問題ニ付直接關係國政府間ニ話合付カサル前ニ本會議ヲ開催シタリトテ又再ヒ今回會議ノ轍ヲ履ム事トナルニ過キサルカ故會議再開ニ際シテハ充分政府間ノ直接交渉ヲ必要トスル事多言ヲ要セス而シテ右豫備交渉ノ開始期ハ豫定シ難キモ早クトモ十月頃ナル可ク又右交渉ニハ少クトモ

ノ直接交渉ヲ開始シ少ク共二三ヶ月ハ之ニカカルモノト考ヘ居リ從テ本會議ノ再度招集ハ來年ニ入ルモノト爲シ且ツ直接交渉ニテ纏ラサル問題ハ之ヲ會議ニ掛クルモ詮ナシト爲シ居ルモノノ如シ

在歐各大使、米ヘ轉電セリ

28 昭和7年7月12日 在ジュネーヴ軍縮全權より
内田外務大臣宛（電報）

ベネシユ（チエコ全權）への米國軍縮案に對するサイモン決議案完成委囑と同決議案への我が方修正意見について

ジュネーヴ 7月12日前発
本 省 7月12日後着

軍第一六二號

十一日午後先方ノ求メニ應シ佐藤會議報告者タル「ベネシユ」ニ面會セル處同外相ハ昨十日午前「サイモン」ヨリ招カレタルカ其際「サ」自身ハ會議々長ノ依囑ニ係ル決議案ヲ作成シ之ヲ大國ニ配付セルカ故ニ自分ノ職責ハ之ニテ完了セルモノト心得今後決議案ヲ完成シ幹部會ニ提出スルハ

報告者ノ權限ニ屬スヘキカ故ニ之ニ引繼キ度キ希望ナリト述ヘタルニ依リ自分（「ベ」）ハ議長ヨリノ依囑アラバ自分ニ於テ引繼クヘシト答ヘ置キタル處同日々刻ニ至リ議長ヨリ右ノ趣旨ニテ依頼アリタルヲ以テ各關係國ト接觸ヲ開始シ「サイモン」決議案ニ對シ各方面ノ意見ヲ徴シ居ル際ニテ日本側ニテ修正意見有ラバ承知シタシト述ヘタルニ付佐藤ハ豫テ代表部内ニテ研究セル修正意見ヲ提出シ（之ヨリ先右日本側修正案ハ英佛側ヘ内示シ其趣旨ヲ説明シ置ケリ且同決議原案ニ二三爆撃機廢止ノ條項ニ付テハ日本側ハ原案ノ儘ニテハ受諾ヲ困難トスルモノニシテ日本ハ元來前項ニ記載シアル如ク或制限ヲ設ケテ爆撃ヲ持續セントスルモノナルカ故ニ爆撃機全廢ノ趣旨ニ賛成スルヲ得ス從テ少ク共々順以上ノ軍用機ハ數ヲ限り保有スルヲ得セシメ且右制限ニ當リテハ各國々情地理的位置等ヲ考慮シテ決スヘキ趣旨ニ改ムルヲ要スル次第ナリト述ヘタルニ對シ「ベ」ハ日本修正案ノ趣旨モ尤ナルカ實ハ提案者タル英國自身爆撃全禁及爆撃機全廢ニ賛成シ居リ強テ原案ヲ維持スル考ナキ佛國モ目下代表部内ニ於テ意見分レ一致ヲ缺ク狀態ナリ其ノ他ノ大國及多數ノ小國皆「フーバー」案ニ賛成シ居ル今

日日本ノ主張ハ其ノ儘ニテ會議ヲ通過セシムル事殆ト困難ナル事情ハ日本側ニテモ良ク察知セラルル筈ト信スト述ヘタルニ付

佐藤ハ重ネテ右情勢ハ日本側ニ於テモ知ラサルニ非サレトモ何分日本ハ劣勢ノ海軍ヲ保持スルニ止マリ航空機ニ依リ幾分國防上ノ缺陷ヲ補足スルノ必要ニ迫ラレ居ル實情ニ付爆撃全廢ヲ受諾スルコトハ甚タ困難トスル事情ニアリ今回會議ニ於テ直ニ終局の解決ニ達セントスルニ對シテハ強キ反對論モ出ツル次第ニ付何トカ次回會議迄解決延期ヲ爲サシムル方法無カルヘキヤ（往電第一六一號「ボンクル」説ニ基キ試ミニ斯ク提案セリ）ト問ヘルニ「ベ」ハ實ハ爆撃禁止ノ問題ハ今次會議ノ主タル議題トナリ著シク世論ノ注意ヲ喚起シ居ル結果會議トシテモ何トカ本問題ノ解決ニ當ラサルヲ得ス從テ何等ノ決定無シニ後日ニ延期スルハ殆ト不可能ナリ只自分一己ノ意見トシテ唯一ノ解決案ハ前後ヲ顛倒シテ起草スルニアリ即チ會議ハ爆撃全禁ノ主義ヲ承認スルモ現在ノ狀態ニ於テハ極メテ嚴重ナル制限ヲ設ケ或ル場合ニ限り之ヲ許容シ且之ニ關スル詳細ナル取極ハ休會後ノ會議ニ於テ討議セラルヘシト云フカ如キ形ニ改

ムレハ或ハ通過ノ望アルヤモ知レスト考ヘ居レリトノコトナリシニ付佐藤ハ右文案ニテモ爆撃全禁主義ノ承諾ヲ前提トスルニ於テハ日本側ノ困難ハ依然タルヘキヲ惧ルト反駁セルモ會議ノ情勢ハ之以上ニ退クコト殆ト不可能ナルハ貴大使ニ於テモ充分感知セラルコトト信スト述ヘ何レニスルモ議長ハ明十二日夕幹部會開催ノ希望ニ付自分ハ取急キ修正決議案起草中ニテ幹部會ニ提出前日本側ニ内示スノシト約セリ

以上御參考迄不取敢電報ス

29 昭和7年7月13日

在ジュネーヴ軍縮全權より
内田外務大臣宛（電報）

ベネシユヘ提出したサイモン決議案に対する
我が方修正意見について

ジュネーヴ 7月13日後発

本 省 7月14日後着

（軍欠セ）
第一六八號

貴電軍第三九號ニ關シ

我方ヨリ提出セル主ナル修正意見左ノ如シ

(一)ノ substantial reduction ヲ of armaments ノ間ニ and an effective limitation ヲ挿入スルコト
(二)ノ末尾ニ and fourth, that specific provisions should be made to ensure the safety of the civil population at the time of war ヲ附加スル事
(三)一ノ三ヲ 3. further more, the maximum number of aircraft above (x) tons of unladen weight, capable of use in war, in commission and in immediate reserve in the land, sea and air armed forces of each of the High Contracting Parties should be limited. In carrying out such limitation, however, due consideration should be given to the conditions and geographical position of each of such Parties²

ト改ムルコト

(四)一ノ五冒頭ニ in order to enable the above limitation ナル語ヲ挿入スルコト

30 昭和7年7月14日

在ジュネーヴ軍縮全權より
内田外務大臣宛（電報）

ベネシユと決議案起草交渉に当たっている英
国担当者からの同案起草状況の説明について

ジュネーヴ 7月14日前発
本 省 7月14日後着

軍第一七三號

「サイモン」ハ「ローザンヌ」會議ノ結果報告及「オタワ」會議準備ノ爲十日「マクドナルド」外閣僚ト共ニ歸英ニ付往電第一六八號我方修正案ハ英國側ニ對シテハ齊藤ヲシテ「カドガン」ニ手交説明セシメ置キタル次第ナル處決議案起草ニ關シ「ベネシユ」トノ交渉ノ衝ニ當レル「カ」ハ十三日午後齊藤ニ對シ「テキスト」ヲ示シ左ノ通説明セル趣ナリ

一、「テキスト」中ニ數字ヲ挿入スレハ到底意見纏マル見込無キニ付之ヲ取除ク事トセリ

二、軍縮ノ主義ノ第一中 limitation ノ字句ヲ挿入シアラサルハ日本側ノ修正意見ヲ入レサリシ次第ナリヤトノ問ニ對シ本件ニ付米國側ノ主張頗ル強硬ニシテ reduction within the scope of Hoover proposal ノ文句挿入方ヲ要求セル位ナリ右ニ對シテハ佛側及「ドミニオン」側ニ難色有

案起草経緯に関する内話について

ジュネーヴ 7月14日前発
本 省 7月14日後着

軍第一七二號

十三日午後佐藤「ベネシユ」ニ面會セル處「ベ」ハ決議案起草ヲ了セリトテ別電第一七四號^(編註)ノ「テキスト」ヲ手交シ右起草ニ至レル経緯ニ關シ左ノ通内話セリ（此ノ點ハ特ニ極秘ニ願ヒ度シト附言ス）

一、「サイモン」原案ニ對シテハ各國代表部ヨリ幾多ノ修正案提出セラレ之カ取纏ハ容易ナラス主要代表部共交渉ニ交渉ヲ重ネタル結果漸ク今曉三時ニ至リ起案ヲ了シタル次第ナリ

二、態度最モ強硬ナリシハ米國及露國ノ二國ニシテ就中米國側ハ空中爆撃、人員、砲ノ主張ヲ強硬ニ繰返シタルヲ以テ自分「ベ」ハ六十數ヶ國ノ受諾シ得ヘキ案文トシテハ今ノ處決議案位ニテ満足スルノ外無カルヘキ旨ヲ力説セルモ容易ニ肯ONSEス前記「テキスト」ニ付テモ最後ノ回答ハ今夕迄留保シ居ル次第ニテ米國側カ果シテ右ニ同意スヘキヤ否ヤ甚タ疑有リ

リ結局自分ノ考案トシテ世界全体ノ軍備ヲ縮少スルノ意味ニテ armaments mondiaux ノ縮少ト更メタル次第ナリ
三、⁽²⁾第二ノ空軍ノ部ノ二 zone ハ日本側主張ヲモ容レ limit ト改ムヘシ

四、同三ニ關シ本「テキスト」ハ必スシモ日本側ノ修正案ト一致セサルモ自重制限ノ數字ヲ掲ケ居ラサルニ付右ニ同意セラレマシキヤ數字ノ明記ナキ以上此際ハ之ヲ受諾セラルル余地アルヘシ

五、同陸軍ノ部ノ七ハ佛國側主張ニ基ク

六、化學戰ニ關スル附屬書ハ之ヲ削除セリ

七、豫算ノ點ハ議論多ク未定ナリ

尙海軍國問ノ内協議ハ十月頃開催ノ筈ナリトノ噂アルモ事實ナリヤトノ問ニ對シ「カ」ハ未タ何等承知スル所ナシト答ヘタル由前電補足旁

在歐各大使及米ニ轉電セリ

31 昭和7年7月14日 在ジュネーヴ軍縮全權より
内田外務大臣宛（電報）

ベネシユから我が方への決議案手交と同決議

三、獨逸ハ勿論政治條項即チ軍備ノ平等ニ關スル主張ヲ固執セルモ自分ハ右種政治問題ハ今討議スヘキ時期ニ非サルニ付之ヲ後日ニ留保ストノ立前ヲ取り右趣旨ノ一句ヲ「テキスト」中ニ挿入セリ「ナドルニ」ハ今朝賛成不可能ノ旨ヲ述ヘタルモ右一句ハ佛側ノ主張ヲモ包含スルモノニシテ獨逸トシテハ正面ヨリ之ニ反對ノ餘地無カルヘク自分ハ飽迄之ニ對抗ノ積リナリ

三、^{(2)(四カ)}「ヘンダーソン」議長ヨリモ書翰ヲ以テ「タンク」、潜水艦、一萬噸以上ノ主力艦、十五「サンチ」以上ノ重砲及空中爆撃ノ全廢ヲ決議案中ニ記載スヘキ旨申越シタリ

四、^(五カ)本件「テキスト」ハ何レノ國ヲモ満足セシメ得サル案ナルニ付之ヲ一般委員會ニ提出スルニ於テハ各方面ヨリ修正意見ノ申立アルヘキモ自分トシテハ報告者ノ立場ヨリ最良ノ案トシテ之ヲ擁護スル決心ナリ

次ニ會議ノ將來ノ議事方法ニ關シ「ベ」ハ左ノ通語レリ
一、十四日午後又ハ十五日午前幹部會ヲ開キ前記「テキスト」ヲ披露シ一般委員會ノ討議ハ十六日及十八日ニ亘ル積リニテ少クトモ三回ノ會合ヲ必要トスヘシ

二、幹部會ハ九月ノ聯盟總會中會合ノ筈ナルモ其前總會ニ

32 昭和7年7月14日
在ジュネーヴ軍縮全権より
内田外務大臣宛(電報)

ベネシユ起草決議案に対する米國側反対の主要点について

ジュネーヴ 7月14日後発
本 省 7月15日後着

軍第一七五號
十四日佐藤米國代表部「マリナー」(在佛大使館參事官)ト會談ノ際「マ」ハ一日昨日來「ベネシユ」トハ十時間ニ亘リテ交渉ヲ重ネタルモ米國側ハ遂ニ満足ヲ得ス、從テ「ベ」ノ決議案ニハ絶對ニ同意シ難シカル狀態ニテ決議案ヲ一般委員會ニ提出スルモ有害無益ナルニ付同案ノ配付ヲ見合サシメ居ル次第ナリ、米國側反對ノ主要點ハ一、同案カ「フーバー」案ニ充分敬意ヲ表シ居ラサル點二、人員問題ニ付「フーバー」案ヲ採用シ居ラサル點(空

參集ノ各國代表ト協議ノ上決議案中「ブランク」ト爲リ居レル數字ヲ決定スルコトトシ幹部會ハ右報告ヲ受ケ起草委員會ヲシテ條文ヲ作成セシムル段取トナルヘク十月中旬ニハ右條文ヲ各代表ニ配布スルコトト致度シ
三、右ノ後關係國間ノ協議ヲ行フコトトシ海軍問題ノ商議ハ十一月頃ト爲ルヘシ
四、從テ一般委員會ノ再會ハ早クモ來年一月頃タルヘク議長及「マダリアガ」等ハ十一月再會ヲ希望シ居ルモ右ハ實行不可能ト思ハル
尙空中爆撃問題ニ付「ベ」ハ各國ヨリ種々ノ要求出テタルモ自分ハ最大限度ノ協定トシテ前記「テキスト」ヲ決セル次第ニテ會議ノ三分ノ二ハ右ニ反對スヘキカト覺悟シ居レリ爆撃全廢ノ主義宣明ノ點モ大ニ緩和セル積リニテ右ハ日本側ノ主張ニ最大限度迄歩ミ寄リタルモノナリト説明シ居リタリ
在歐米各大使ヘ轉電セリ

編 注 本電の採録は略した。なお、七月二十三日の一般委員會で採択された最終的な本件決議案の要旨について

中爆撃禁止問題ニハ同人ハ言及セサリシモ當然米國側ノ不滿トシ居ル點ナル事明カナリ)

ニアリ、海軍問題ニ關スル部分ハ全部賛成ニテ殊ニ華盛頓、倫敦兩條約ノ締約國カ先ツ協議ヲ遂ケ他ノ海軍國ハ之ニ倣ヒテ其兵力ヲ適合ス可シトスルノ點ハ極メテ適當ト思ハルト語レルニ付佐藤ハ五大海軍國會合ノ噂ニ言及セル處「マ」ハ右會合ノ時期等ハ米國側ニテ未タ考ヘ居ラスト答ヘ、佐藤ヨリ決議案ノ文面ニ依レハ出來得(レ)ハ來年一月前ニ五大海軍國ノ話合ヲ付クル議成リ居ルニ非サヤト質問セルニ對シ成ル程其ノ通りナレ共目下ノ處ハ何等考ヘ居ラスト繰返セリ

尙「マ」ハ佛國議會ハ十六日閉會ノ筈ナルカ議會終了後ハ佛政府ノ意見緩和シ來ル事ハ從來ノ例ナルニ付「ボンクー」等來壽ノ上ハ篤ト佛側トモ意見ヲ交換シ度シト述ヘ佛國側ノ態度ニ猶望ヲ繫キ居ル態ニ見受ケラレタリ
在歐米各大使ヘ轉電セリ

33 昭和7年7月15日
在ジュネーヴ軍縮全権より
内田外務大臣宛(電報)

ベネシユ起草決議案に関する同人との意見交換について

ジュネーヴ 7月15日後発
本 省 7月15日後着

軍第一七七號
十四日松平「ベネシユ」ト午餐後會談ノ要領左ノ通
一、先ツ松平ヨリ新決議案ノ起草ニ付随分御苦心ノ事ト察スルモ之ヲ通讀スルニ同案ハ米案ニ重キヲ置キ過キ各國代表ヨリ同一ノ目的ノ爲ニ爲サレタル提案及數年間ノ努力ノ結晶タル條約案ヲ從タル地位ニ置ク如キ感アリト述ヘタル處「ベ」ハ其ノ點ハ自分モ同感ナルカ本決議ハ元來前文ニ於テ成ルヘク米案ニ花ヲ持タシ第二段以下ノ本文ニ於テ米案ヲ採用セサルノ建前ニテ起草セラレタルモノニシテ他國代表モ右趣旨ニ同意ナリト信スト辯明シ尙本案ハ米案ノ原則殊ニ三分ノ一減縮ノ主義等ヲ排除スルノ目的ニテ起草セラレタルモノニシテ最初米國側ニテハ「本會議ハ「フーバー」案ヲ受諾ス從テ次ノ原則ニモ同意ス」トノ案文ヲ主張シタルヲ斷然反對シテ本案ノ如ク起草セルモノニシテ之ニ記載無キ原則ニ對シテハ何等

「コミット」スルモノニ非スト説明セリ

三、⁽²⁾空軍問題ニ關シ「ベ」ハ空中爆撃全廢論ハ頗ル強ク米

國側ハ今尙之ヲ主張シ本決議案ニ反對シツツアリ小國ノ殆シド全部ハ勿論伊獨蘇等亦同様ノ態度ヲ持シ自分トシテモ自國ノ國防上全然之ニ贊成ナルモ日本、佛國ノ反對アルヲ以テ本案ノ如ク起草セル次第ナリ佛代表部中ニハ贊否兩説アリ何レモ「エリオ」及「ボンクール」來壽ノ上政治的解決ヲ爲シ或ハ全廢ニ同意スルヤモ計リ難シ以上ノ次第ニテ本決議案ヲ今此ノ儘一般委員會ニ提出スルニ於テハ直ニ全廢ノ修正案出テ恐ラク議場ノ九八「パーセント」ハ之ニ贊成スヘシト想像セラルルニ付日本側トシテモ右場合ニ處スル對策ヲ考究シ置カレ度シ尤モ之ハ全ク極秘ノ話ナルカ自分ノ考ニテハ佛國側ハ今回會期中ハ之ニ反對シ爾餘ノ問題カ總テ解決セラレ條約案ノ目鼻附キタルトキ即チ次回會議ニ於テ同意スルナラント思ハルト語レリ右ニ對シ松平ハ我方ノ反對理由ヲ説明シ今右方針ヲ覆ス事ハ困難ニシテ日本トシテハ結局佛國同様全般ノ様子ヲ見極ムルノ要アリ從テ一般委員會ニ意見表示ノ要アルトキハ少クトモ此ノ點ニ付留保ヲ爲シ決議案

に同意する方向で交渉を進めたい旨請訓

ジュネーヴ 7月15日後発
本 省 7月16日前着

軍第一七九號

往電軍第一七二號ニ關シ

「サイモン」決議原案ニ對シ我方ノ修正意見ニ關シ過般來「サイモン」、「ベネシユ」ヲ始メ其他各方面トノ間ニ交渉ヲ重ネ來レルコトハ累次ノ往電ニ依リ御承知ノ通ニ有之、又「ベネシユ」等ニ於テモ各方面ノ修正案ヲ折衷スルニ當リ我方意見ヲモ能フ限リ取入レ成ルヘク我方ノ受諾シ得ヘキ案文作成ニ苦心シ來レル模様ナルコトハ往電軍第一二七號及軍第一七七號申進ノ通ナリ往電軍第一七四號決議案ハ其前文ハ「フーヴァー」案ヲ稱讚シ過キ居ル點ニ於テ感情上面白カラス考ヘラルルモノ有ルモ右ハ要スルニ一種ノ頌德表トモ稱スヘキモノニシテ現ニ「ベネシユ」等ノ言ニ徴スルモ右ハ其前文ニ於テ米案ニ花ヲ持タスト共ニ其實質ニ於テ之ヲ骨拔トスル仕組ニテ起案セラレタルモノト思ハレ殊ニ過日ノ一般委員會ニ於テ米案ヲ歡迎スル趣旨ヲ含ム決議案起草ヲ「サイモン」ニ委囑スルニ決定セル經緯モアリ

ノ拘束ヲ受ケサルコトスルノ外ナシト考ヘ居レリト述ヘ置キタリ

四、⁽³⁾砲ノ口徑制限ニ付テハ往電第一七六號ノ趣旨ヲ説明シ

我方トシテハ島國トシテ海岸要塞ノ砲ヲモ制限内ニ包含セシムル事ハ反對ニシテ右ハ防禦力ヲ増加セントスル「フーバー」案ノ原則ニモ合致スヘシトノ松平ノ言ニ對シ「ベ」ハ良ク了解セリ英、米、伊等亦同意見ナルニ付日本ノ主張ハ有力ナラント答ヘタリ

五、⁽⁴⁾尙「ベ」ハ幹部會ヲ取止メ十六日直ニ一般委員會ヲ開

ク積リナリシモ二、三代表ヨリ幹部會招集希望ヲ申出タルニ付十六日之ヲ招集シ十九日ニ一般委員會開會ノコトトスヘク其ノ間「エリオ」「ボンクール」等ノ來壽ヲ待チテ充分協議ヲ遂ケ一般委員會ノ議事ヲ可成短期且圓滑ニ取運ヒ度キ意嚮ナリト申シ居リタリ

在歐米各大使へ轉電セリ

34 昭和7年7月15日

在ジュネーヴ軍縮全權より
内田外務大臣宛(電報)

留保を付す等の策によりベネシユ起草決議案

六十餘國カ之ヲ支持スル場合我方獨リ反對スルコトモ大局上適當ナラスト存セララル

次ニ決議案ノ内容タル第二段以下ニ付テ觀ルニ

「サイモン」原案中我方ノ受諾ヲ最モ困難ナラシメタル點

即チ空中爆撃機ノ點ニ關シ(脱?)ルルモ新案文ハ何等制限點ノ數字ヲ掲ケ居ラサルニ付此際我方トシテ直ニ反對スヘキ理由ニ乏シト認ムルニ依リ究極ノ場合我方ニ於テハ留保

スルコトトシ(詳細ハ追電ス尙重砲制限問題ニ關スル我方提案ハ既電ノ通り)又軍備休日延期ノ點ニ關シテモ休日ノ内容ハ客年聯盟總會決議ト同様ナル以上又延期ノ期間カ長期ニ亘ラサル限リ引續キ之ヲ受諾シ支障ナキヤニ存セラル其他本案ハ何レノ點ニ於テモ制限ニ關スル數字ヲ掲ケス專ラ原則上ノ合意ノ確認及會議今後ノ「プログラム」ヲ記錄セルニ止マリ留保ノ點ヲ除キ之ヲ受諾シ差支無シト認メラルルニ付今後我ニ對シ不都合ナル新ナル修正ノ加ヘラレサル限リ大體同案ノ趣旨ニ同意ノ態度ヲ以テ進ムコトト致度ク一般委員會近日中開催ノコトニモ有リ右豫メ御承認置キヲ請フ

在歐米各大使へ轉電セリ

35 昭和7年7月15日

在ジュネーヴ軍縮全權より
内田外務大臣宛(電報)

海軍問題に関する関係国間の話合時期および
空中爆撃全廃問題についてのベネシユ決議案
修正などにつき英国全權と意見交換について

ジュネーヴ 7月15日後発

本 省 7月16日前着

軍第一八〇號

七月十五日松平「サイモン」ニ會見談話要領左ノ通

松平ハ海軍問題ニ關スル關係國間ノ話合ハ何時何處ニテ行
フヘキ考ナリヤト尋ネタルニ對シ「サ」ハ九月ニハ聯盟總
會アリ又極メテ重要ナル列國經濟會議「サ」ハ倫敦ニテ
開催シ度キ意嚮ナル旨述ヘタリ等ノ開催アルヲ以テ海軍
問題ヲ會議ノ形ニテ近キ中ニ議スルコトハ困難ナルヘク又
同問題ヲ會議ニテ取扱フニ於テハ何時決定ヲ見ル可キヤ見
据付カサルカ故ニ自分トシテハ此問題ハ寧ロ一定ノ地ニ於
ケル會議ト爲サス關係國政府間ニ隨時意見ノ交換ヲ爲スコ
ト然ルヘシト思考ス此點ハ米國側ヨリ「イニシアチブ」ヲ
取ルヘキモノト考フ尤モ米國政府ト雖モ十一月選舉ノ關係

アルヲ以テ其頃之等ノ問題ヲ議スルコトハ適當ノ時期ニ非
サルヘシト述ヘ又空軍問題ニ付テハ空中爆撃全廢ニ對スル

各國ノ意嚮強硬ナルヲ以テ或ハ一般委員會ニ於テ禁止ノ聲
明ヲ爲スカ如キコトトナルヤモ知レス英國トシテハ其場合
之ニ反對セサル積リナリト述ヘタルニ付松平ハ從來各方面
ニ説明セル我方立場ヲ繰返シ説明シタル處「サ」ハ日本ノ
立場ハ充分了解スルモ若シ表面ヨリ反對セラルルニ於テハ
世界ノ疑惑ト誤解ヲ起サシムル虞アルニ付寧ロ一般禁止ノ
精神ヲ支持セラレ適當ノ留保ヲセラルル如キ形ヲ取ラルル
ニ於テハ日本ノ爲ニモ都合カト思考スト述ヘタルニ付
松平ハ留保ノ問題ニ付目下考量中ナル旨答ヘ又決議案前文
中ニ於テ米國案ノ原則採用ノ問題ニ關シ日本トシテハ三分
ノ一減等ノ原則ニ「コンミット」スル事ヲ避クル事肝要ナ
リト考フル旨述ヘタル處「サ」ハ三分ノ一減ノ如キハ原則
ニ非シテ其ノ fraction ナリ決議案ノ文句ニテ何等之ニ
「コンミット」スル事トナラス特ニ「サブスタンシヤル、
レダクシヨ」ト防禦力ノ擴大ノ原則ヲ記載シタルノミナ
リ、又「サブスタンシヤル、レダクシヨ」ト謂フモ海軍
ノ如キハ制限ニ止ムルヤモ知レス各項目ニ付縮減ヲ意味ス

ル趣旨ニ非ス、大体ニ付 (Comprehensive) ト謂フ趣旨

ナリト述ヘタリ、松平ハ「ベネシユ」修正案ニ對シ英國側
ニ於テハ全部承諾シ居ルヤト尋ネタル處「サ」ハ前文後段
(一)ニ記載シタル Simultaneously と謂フ字ハ Comprehen-
sively ト修正シタキ意向ナリ右ハ三軍同時ニ縮減スル事ハ
不可能ナルヲ以テナリ、其ノ他二、三ノ點ニ付修正ヲ申出
テタリト述ヘ尙今次ノ會議ハ成ル可ク早く終了スル事望マ
シト思考シ特ニ「エリオ」及「ボンクール」ニモ速ニ來壽
ヲ薦メ居ル旨ヲ述ヘタリ
在歐米各大使ニ轉電セリ

36 昭和7年7月16日

在ジュネーヴ軍縮全權より
内田外務大臣宛(電報)

ベネシユ決議案中の空中爆撃問題に関する我
が方留保について

別 電

七月十七日発在ジュネーヴ軍縮全權より内田
外務大臣宛軍第一八五號

右留保案

ジュネーヴ 7月16日後発
本 省 7月17日前着

軍第一八四號

空中爆撃全廢ニ付最近頗ル強硬ナル主張ヲ爲スモノ多ク小
國ハ勿論大國ノ殆ト全部モ之ニ賛成スル模様ナルコトハ
「ベネシユ」及「サイモン」ノ談話(往電軍第一七七號及
第一八〇號參照)ニ依リ御承知ノ通ニ有之空爆全廢案上程
セラルコトトネルヘキ狀況ナリ我方トシテハ往電軍第一
六七號ヲ以テ申進メノ通今回會議ニ於テハ確定的決定ニ至
ラサル様今尙努力中ナルモ右決議案上程ノ場合正面ヨリ不
同意ヲ表明スル場合ニハ人道的見地ヨリスル空爆全廢論ノ
矢面ニ立ツコトナリ一般ニ甚タ惡シキ印象ヲ與フルコト
トナルヘキヲ以テ我方ニ於テハ直ニ之ヲ受諾シ得サル理由
ヲ擧ケ慎重考慮ノ必要アリトノ趣旨ニテ一應之ヲ留保スル
コト適當ナリト思考スルニ付別電軍第一八五號ノ通陳述シ
タキ積リナリ本決議案ハ多分來ル十九日ノ一般委員會ニ上
程セラルコトトナルヘキニ付別段ノ御訓令無キ限り右ニ
依リ處置スルコトト致度シ

(別 電)

ジュネーヴ 7月17日前発
本 省 7月17日後着

Gun No. 185.

⁽¹⁾ Japan is eager to see all measures taken to exclude chance of danger to civil populations by any means of warfare. Japanese delegation therefore fully appreciates spirit entirely to abolish air bombardment in order to preserve civil populations from calamities of war.

Japanese delegation believes however that from standpoint of national defense question of entire prohibition of air bombardment should be seriously considered in relation to other elements of armaments. Due regard should also be given in this respect to special conditions and geographical situation of each attention.

⁽²⁾ It is further to be noted that civil aviation and aircraft industry are at present developed not at all in same degree in different countries and this circumstances must necessarily have important bearing on

organization of national defence of each country.
Japanese Delegation therefore wishes to reserve its attitude in matter until further progress is made in work of Conference.

編 注 country? の書込みあり。

37 昭和7年7月19日 在ジュネーヴ軍縮全権より
内田外務大臣宛(電報)

空中爆撃全廃問題に関する我が方留保の可否
につき回電ありたき旨請訓

ジュネーヴ 7月19日前発
本 省 7月19日後着

軍第一八八號

往電軍第一八七號ニ關シ

十八日「ボンクール」ハ佐藤ニ對シ民用航空軍用轉化問題ニ關シ或種ノ國際的保證ヲ得ル事トナレハ空爆全禁ニ賛成スル外ナシト思考スル旨ヲ語り又佛側隨員ヨリ内密ニ聞込タル處ニ依レハ(一)佛側ハ空爆全禁取極ノ實施確保ノ實際的

空中爆撃全廃問題などに関する仏国の態度について

ジュネーヴ 7月19日後発
本 省 7月20日前着

軍第一九一號

⁽¹⁾ 十九日松平「エリオ」ヲ往訪シ軍(縮)問題ニ關シテハ日佛兩代表部ノ見解ニ付種々共通點アリ出來得ル限り協力ヲ致ス所存ニテ此ノ趣旨ハ既ニ「タルジュ」前首相ニモ申述ヘ置キタル次第ナルカ最近聞ク所ニ依レハ空中爆撃及人員問題ニ付英米側ト交渉中トノ趣ナル處何ノ程度迄交渉ハ進ミツアルモノナリヤ承リ得レハ好都合ナリト問ヒタルニ對シ佛首相ハ人員問題ニ付「フーバー」案ノ趣旨ヲ諒トスルモ本問題タルヤ各國防上ノ必要ヨリ考慮セラル可キ種々ノ要素ニ關聯シ輕々ニ定ム可キニ非サルヲ以テ人員縮小ノ原則ハ此際認ムルモ爾後ノ動議ハ會議再開後詳細ニ審議ス可シトノ意見ナリ又空中爆撃禁止ハ之ヲ受諾スルモ左ノ二條件即チ

- (一) 禁止ニ關スル約定確保ニ關スル有效ナル措置ノ成立
- (二) 一定性能以上ノ民用機ノ國際化ノ實現

38 昭和7年7月19日

在ジュネーヴ軍縮全権より
内田外務大臣宛(電報)

方法見出サルル事(一)軍用航空ニ付制限ヲ加ヘタル一定ノ性能以上ノ民用機ハ之ヲ國際的「レジーム」ニ附スル事(但シ地理的條件ヲ斟酌ノ上軍用ニ供セサル條件ノ下ニ若干ノ例外ヲ認ムルト共ニ「レググルマンタシヨ」及完全ナル公表ヲ行フ)ノ二條件ノ下ニ空爆全禁ヲ承諾スル事トシメト目下話合中ナリトノ事ナリ
前記ノ如ク空爆全禁ノ決議ハ愈々以テ成立ノ可能性多クナリ我方カ孤立スル形勢明瞭トナレリ本問題ハ人道的見地ヨリ力ヲ加ヘ來リタル次第ニシテ佛國ノ如キモ前記條件ノ下ニ之ヲ賛成スルノ餘儀無キ事ト相成タル儀ト認メラルルニ依リ我方ニ於テ往電第一八五號通ノ留保ヲ爲ス場合ニモ相場^(マ)ノ惡印象ヲ與フル事トナル可シト思考セラル本件ハ帝國國防上ノ問題タルト同時ニ國際關係上ニモ大ナル影響ヲ有スル問題ニ付現下ノ狀況ニ於テ前記往電ノ留保ヲ爲シ然ル可キヤ政府ノ御意向承知シタク何分ノ儀御回電アリ度シ在歐米各大使ヘ轉電セリ

ヲ附シ右條件成立ノ場合ニ受諾スルモノナリト自國ノ態度ヲ説明セリ

依テ松平ハ右(二)ノ國際化トハ佛代表部覺書ノ意味ニ於ケル國際化ナリヤト問ヘル處「エ」ハ右モノノ方法タルモ必スシモ右ニ限定セントスルニハ非ス現ニ關係國間ニ討議セラレツツアル案文ニモ漠然ト(編註)ノ語ヲ用ヒ居レリ要ハ民用機ノ軍用轉化防止ノ方法ヲ見出サントスルニアリト答フ

尙松平ハ民用航空軍用轉化防止問題ハ日本代表部ニ於テモ重要視シ居ル處ナルカ其他ニ日本ハ國防上海軍保有量ノ劣勢ヲ補フ爲空軍方面兵力ニ俟ツコト大ナルニ依リ空中爆撃ヲ禁止セントスルカ如キ案ニ直ニ賛成スルコトハ困難ナリト我方立場ヲ説明シ次テ以下ハ全ク貴首相御含迄ニ申述フル次第ナルカ空中爆撃禁止ノ決議案出ツレハ右趣旨ニ依リ留保スルニ至ルヤモ知レスト述ヘタル處同首相ハ佛受諾モ前記二條件ヲ附シ且二條件成就ノ場合ニ於テノミ然ルモノニシテ民用機ノ軍用轉化防止方法ノ如キモ今後專門委員會ノ研究ニ俟ツノ外無ク而モ其防止方法ノ有效ナルモノナリヤ否ヤハ佛國自ラノ判斷ニ依ルモノナリト微笑シ轉シテ予

ハ同情ト理解トヲ有シ居ルモノニシテ御用アル節ハ何時タリトモ聯絡ヲ取り度キ心組ナリト述ヘタリ
在歐各大使、米へ轉電セリ

編註 régime international? との書込みあり。

39 昭和7年7月21日 内田外務大臣より
在ジュネーヴ軍縮全権宛(電報)

空中爆撃全廃問題については留保付で賛成しても差支えなき旨回訓

本省 7月21日発

暗軍第四四號(大至急)

貴電軍第一八八號ニ關シ

爆撃禁止及爆撃機廢止問題ニ關シ會議ノ情勢殊ニ佛國側カ條件附賛成ヲナサントスル模様等ニ顧ミ此ノ際貴電軍第一八五號ノ留保案ニテ進ムノ不利ナル場合已ムヲ得サレハ(一)航空母艦ノ全廢及艦船ニ航空機着艦用甲板若クハ臺ノ裝備禁止

(二)民間航空ノ戰時軍用轉換防止及爆撃禁止ノ確實ナル勵

行ヲ期シ得ルモノト認メラルル協定ニ達スルコト

ヲ條件トシ爆撃禁止及爆撃機廢止ニ賛成セラルルモ差支ナシ

40 昭和7年7月21日 在ジュネーヴ軍縮全権より
内田外務大臣宛(電報)

ベネシユ決議案逐条審議に際しての空中爆撃全廃問題に關する我が方留保声明について

別電 七月二十一日發在ジュネーヴ軍縮全権より内

田外務大臣宛軍第二〇二號

右声明文

ジュネーヴ 7月21日後發
本省 7月22日前着

軍第二〇一號(至急極秘)

貴電軍第四四號ニ關シ

空爆問題ニ關シ我方ニ於テ留保ヲナス可キコトハ「サイモン」「エリオ」「ベネシユ」等ニモ申入レタル經緯モアリ差當リテハ留保ノ方針ヲ以テ臨ムコト適當ナリト思考スルニ付本廿一日午後ノ一般委員會ニ於テ逐條審議ノ際ニハ空軍

ノ部分ニ關シ別電軍第二〇二號ノ聲明ヲナスコトト致スヘシ就テハ冒頭貴電我最後案カ世上ニ洩ルル時ハ我方ハ面白カラサル立場ニ置カルルコトト相成ルヘキニ付此ノ邊御氣付ノコトトハ存セラルルモ當方ヨリ何等申進ムル迄ハ絶對新聞ニ現レサル様御取扱ヲ請フ

(別電)

ジュネーヴ 7月21日後發
本省 7月22日前着

Gun No. 202

① Japan is eager to see all measures taken to exclude chance of danger to civilian populations by any means of warfare. Japanese delegation therefore is prepared to associate itself most wholeheartedly with principle as enunciate in resolution in its chapter for air forces in paragraph (1) regarding the prohibition of air attack against civil populations.

As regards question of total prohibition of air bombardment however Japanese delegation believes that it

should be considered in its relation to other elements of armaments and other methods of warfare.

²⁾ It should be examined from point of view of national defence which naturally assumes varied aspects with different countries owing to strength of their armaments as well as their geographic and other special circumstances.

Japanese delegation therefore feels that it has to reserve its attitude in matter for present. However it wishes to make it clear that recognizing fully importance of totally abolishing air bombardment in interests civilisation it is accordingly giving the matter serious consideration and is prepared to collaborate with other delegations to see how object can be attained with due regard to needs of national defence.

Zenzen.

41 昭和7年7月23日

在ジュネーヴ軍縮全権より
内田外務大臣宛(電報)

一般委員会におけるベネシユ決議案の採択について

ジュネーヴ 7月23日後発
本省 7月24日前着

軍第二〇九號

廿三日午前一般委員會開催前日ニ引續キ希臘、土耳其、葡萄牙、波蘭、「ソヴィエト」(決議案ノ不満足ナルコトヲ反對投票ニ依リ輿論ニ示スノ要アルコトヲ述ヘ戦争及各國ノ獨立ニ對スル「セキユリテイ」並各國軍縮ノ平等主義ヲ高調ス)各代表ノ聲明アリタル後議長ヨリ本決議案ノ細目ハ別トシ實質的軍縮ヲ斷行セントスル固キ決意ヲ表示シ居ル點ニ於テ之ニ反對スヘキ理由ナク輿論ニ對スル影響モ考慮シ各國舉テ之ニ賛成セントコトヲ慫慂シテ決議案全部ニ對スル表決ニ移リ賛成四十一反對二(獨逸及「ソヴィエト」棄權八「アフガニスタン」「アルバニア」澳地利、勃牙利、支那、洪牙利、伊太利、土耳其)ヲ以テ之ヲ採擇セリ(我方ニテハ昨日爲シタル留保ヲ附シ之ニ同意スル旨ヲ述ヘタリ尙右表決ノ際支那代表顏惠慶ハ支那ハ軍縮ノ原則ニハ衷心賛成スルモノナルモ目下聯盟總會ニ繫屬中ナル日支

紛争カ聯盟ノ精神ニ基キ解決セラレ支那ニ満足ヲ與ヘサル限り自國軍備ヲ縮小スルコトヲ約束シ得ス依テ棄權スト聲明セリ)次テ議長ヨリ唯今採擇セラレタル議事手續ニ基キ九月廿一日幹部會ヲ開催スヘキ旨及決議案第五部軍備休日ヲ會議ヨリ各國ニ勸告スル爲直ニ本會議ヲ開クヘキ旨宣シ一般委員會ヲ閉ツ

五分間休憩ノ後本會議開催、決議案第五部ノミヲ投票ニ附シ全會一致ヲ採擇スルニ決シ「エリオ」「サイモン」「ギブソン」ヨリ夫々議長報告者及事務局ニ對スル謝辭ヲ述ヘ玆ニ軍縮會議ハ休會ニ決セリ

在米大使ニ轉電シ在歐各大使ニ郵送セリ

42 昭和7年8月23日

在英国松平大使より
内田外務大臣宛(電報)

海軍軍縮問題に関する英国側との意見交換に

ついて

ロンドン 8月23日後発
本省 8月24日前着

第三〇六號(極秘)

⁽¹⁾ 八月二十二日「クレイギー」來訪全然私的且極秘ニ御話スル次第ナリトテ海軍問題ニ關スル「フーパー」提案ハ海軍軍縮問題ノ將來ニ對シテ打撃ヲ與ヘタルモノニシテ何トカ纏マラントセシ佛、伊ノ協定ヲ根本的ニ破壊シ又質的軍縮ヲ妨クルモノト思考セラル決議案中ニハ次期會議迄ニ關係五ヶ國ニ於テ海軍問題ヲ議ス可キ事ヲ規定シアルモ自分ノ考ニテハ何等見込無キニ拘ラス此ノ際會議ヲ開ク事ハ寧ロ有害ナル可ク日本側ニ於テハ「フーパー」提案ニ對スル新聞報道ニ依レハ反對シ居ラル様子ナルモ未タ正式ニハ右ノ意見ヲ發表セラレタル事無シト思ハルルカ如何又英國案ニ付テハ如何ニ考ヘラレ居ルヤ潛水艦等ニ關スル根本意見ノ相違ハ別トシテ艦型及備砲ノ縮小等ニ依ル質的軍縮ヲ達成セントスル點ニ付同様ノ立場ニアル様想像セラルル處此等ニ關シ全ク非公式ニ意見ヲ交換シ共通ナルモノアルニ於テハ豫メ研究ノ上米國ニ對シ必要有ラハ共同シテ勸告スル事モ然ル可キカト考ヘ居レリト述ヘタルニ付本使ハ公式ノ會議ニ於テ未タ帝國政府ノ意見ヲ述フル機會無カリシモ壽府ニ於テ米國代表者ニ對シテハ到底米國案ヲ受諾シ難キ事ヲ印象セシメ置キタリトテ詳細経緯ヲ説明シ此ノ際五

國問ニ會合ヲ催シテ米國案ヲ議スル如キハ有害無益ナル可
キコト本使ニ於テモ同意見ナル旨ヲ述ヘ又英國案ニ對スル
詳細ナル意見ハ今即座ニ之ヲ開陳スル事困難ナルニ付
數等ヲ正確ニ取調ヘタル上御話スル事ト爲スヘキモ艦型及
備砲ノ縮小等ニ依ル軍縮ニ重キヲ置ク點ニ付大体英國ト同
様ノ立場ニアリ但シ艦型ノ縮小ト共ニ起ルヘキ備砲口径ノ
縮小程度ニ付テハ必スシモ英國案ト一致セサル點モアリ併
シ全ク非公式且ツ内密ニ日英間ノ主張ニ付研究ヲ爲ス事ハ
差支ナカルヘシト思考スル旨ヲ述ヘ尙佛、伊關係其後ノ模
樣ヲ尋ネタル所「ク」ハ御承知ノ通佛伊ノ間ニ於テ主義ノ
問題トシテハ對等トスルモ（事）實ニ於テハ佛國ニ或ル期
間優秀ナル勢力ヲ與フル事トシ妥協セシメントスル事ニ略
進ミ居リタルモ軍縮會議開催ト共ニ佛國ハ陸軍及海軍ニ關
スル問題ト關聯シテ研究スルニ至リ且ツ他國ノ有スヘキ主
力艦ノ艦型等ノ變更ヲ顧慮スルニ至リタル爲交渉全ク中斷
シ居リタル處米國案ニ依レハ佛國ハ現存ノ軍艦ヲ廢棄スル
ノミナラス新造ハ之ヲ許ササル事トスルニ拘ラス伊國ニハ
廢棄ノ必要ナキ爲實際上佛國ニ優秀ナル勢力ヲ與ヘントス
ル妥協案ハ根本的ニ破壞セララルニ至レル次第ナリト述ヘ

於テハ此點ニ重キヲ置キ航空母艦廢止殊ニ巡洋艦ニ於ケル
飛行甲板ノ禁止ヲ主張スル旨ヲ述ヘ英國側ノ考慮ヲ促シ置
キタリ
尙「ク」ハ英國トシテハ五國會議開催ヲ希望シ居ラサルモ
ノナルニ付今日及今後ノ話ヲ以テ五國會議開催ノ第一步ト
誤解セラレサル様希望スト述ヘタリ
右ノ次第ニ付壽府ニ於テ永野全權小槇少將等ト打合せ置キ
タル範（圍）ニ於テ今後「ク」ニ我方ノ態度ヲ説明スル事
アルヘキモ（「ク」ハ明日ヨリ當分ノ間休暇旅行ノ筈）米
國トノ關係モアルニ付右會談及今後ノ話合ニ付絶對外部ニ
漏レサル様御留意願度シ
佐藤全權及米、佛、伊ヘ轉電セリ

43 昭和7年9月2日

在独國小幡（西吉）大使より
内田外務大臣宛（電報）

軍備平等權要求に關する独国の対仏通牒問題
について

付記 九月十三日發在仏國長岡（春一）大使より内田

外務大臣宛電報第七二〇号

タリ

本使ハ此機會ヲ利用シ航空母艦ノ廢止及巡洋艦ノ飛行甲板
禁止ニ關スル我方針ヲ説明シ本件ニ關シ噂セラルル如ク米
國海軍ニ於テ巡洋艦ニ優秀ナル設（備）ヲ爲スニ於テハ巡
洋艦ハ同時ニ航空母艦ノ機能ヲ有スル事トナリ從ツテ侵略
的勢力ヲ増大セシムル結果トナル惧アルノミナラス倫敦會
議協定當時ノ趣旨ニモ反スル事トナルニ付將來之ヲ禁止ス
ル事ヲ至當トスト考ヘ居レリ此點ニ付英國側ニ於テモ充分
ニ研究セラレタキ旨述ヘタル處

「ク」ハ英國専門家ノ意見ニ依レハ巡洋艦ノ飛行機搭載ハ
寧ろ巡洋艦トシテノ機能ヲ薄弱ナラシメ去リトテ航空母艦
ノ威力モ無ク要スルニ中途半端ノモノトナルヘシトテ其威
力ヲ重要視セサル様子ナリ將來陸上飛行機ノ艦隊攻撃無ク
ナルトセハ別ナルモ若シ然ラストセハ艦隊ハ飛行機ヲ以テ
之ニ對抗セサルヘカラサルヘシト述ヘタルニ付本使ハ造船
技術ノ進歩ハ右ノ如キ樂觀ヲ許ササル事並ニ侵略的ニ艦隊
カ相手國ニ接近セサル限リ陸上ヨリ飛行機ニ依リ攻撃セラ
ルル惧少キヲ以テ單ニ自國防衛ノ目的ノミヨリ言ヘハ艦隊
ニ於ケル有力ナル飛行機ノ設備ハ必要無カルヘシ日本側ニ

独国の軍備平等權要求に対する仏國回答要領

ベルリン 9月2日後發

本 省 9月3日前着

第一三四號

七月下旬以來當國國防大臣カ數次軍備問題ニ關スル獨逸側
ノ態度ニ付意見ヲ開陳セルコトアリ内外ノ輿論ヲ刺戟セル
カ最近巴里ヨリ獨逸ノ軍備平等待遇要求ニ關スル對佛通牒
ノ内容ナルモノ同地ニテ公表セラレ佛國民論ニ異常ノ衝動
ヲ（與）ヘ居ル旨報セラルルヤ當地新聞ハ右ハ佛國官憲カ
故意ニ事件ヲ漏洩セルモノニテ所謂要求十箇條ノ如キ佛國
新聞社カ「ヴェルサイユ」條約制限規定ト軍備問題ニ關シ
從來獨逸側ニ於テ表示セラレタル公私ノ意見ヲ按配シ捏チ
上ケタルモノナリトテ激シク攻撃シ居レルカ一日政府ハ本
件ニ付左ノ趣旨ヲ公表セリ

獨逸政府ハ壽府及勞山ニ於ケル獨佛代表間ノ話合ニ基キ兩
國間意見ノ相違ヲ直接交渉ニ依リ調節セント決シ外相ハ廿
九日佛國大使ノ來訪ヲ求メ第一回會談ヲ行ヘルカ其際外相
ハ獨逸カ壽府ノ休會決議ヲ容認シ得サルコト及依然各國ニ
共通スル軍備縮少ヲ要求スルモノナルモ他國カ其軍備ノ縮

少ヲ肯セサル場合ニハ獨逸亦軍備上ノ平等待遇ヲ要求セサルヲ得スト述フルト共ニ會談ニ關スル「レジュメ」ヲ同大使ニ交付セシメタルカ未タ本問題ニ關スル公文ヲ佛國政府ニ交付セルコト無シ云々
英、佛、聯盟、軍縮ニ郵送セリ

(付記)

パリ 9月13日後発
本省 9月14日前着

第七二〇號

佛國回答ハ十頁ニ亘ル大部ノモノナルカ其ノ要領ハ獨逸ノ提起セル問題ニ付飽ク迄交渉ヲ阻ムト云フ趣旨ニハ非スシテ平和條約ニモ聯盟規約ニモ軍縮條約カ當然平和條約ニ代ルモノナルコトヲ豫見シ居ラサルヲ以テ軍備ニ關スル權利平等ノ主張ハ平和條約署名國ノ合意ノ下ニ於テノミ解決ヲ見得ルモノナルカ佛國政府ハ總テノ決定ハ軍縮會議ニ留保シ權利平等ノ問題及安全ノ問題ニ付獨逸政府ト意見ヲ交換スルノ用意アリト爲シタル後八月二十九日附獨逸政府覺書交付ト同時ニ陸軍大臣ノ爲シタル聲明ヲ見ルニ佛獨交渉ノ

44 昭和7年9月14日 在英國松平大使より
内田外務大臣宛(電報)

英國側と海軍問題に関する内協議を行いたき
につき先方に内示可能な艦型および備砲口径
などの数字回示方請訓

ロンドン 9月14日後発
本省 9月15日前着

軍第三三號(極秘)
往電第三〇六號ニ關シ

「クレイギー」モ休暇ヨリ歸リ内相談ヲ爲シタキ模様ナル處過般ノ米國提案ニ付十一月頃迄ハ米國側ニ於テモ眞面目ニ論議ヲ開始スル意向ナキモノト思ハルモ其後ノ米國政府安定ノ模様ニ依リテハ米國側ハ之ヲ翳シテ「プレッス」シ來ルコトナキヲ保セス我方トシテハ倫敦條約ヲ楯トシテ單ニ之ヲ拒絶スルコトハ容易ナルモ萬一英國政府カ愈米國政府ト交渉ヲ開始シ之ト妥協スル(萬無之トハ思ハルモ)カ如キ形勢トナルニ於テハ面白カラスト思考スルニ付幸ヒ艦型及備砲縮小ニ依ル海軍軍縮ノ方針ニ於テハ日英共通ノ點アルニ顧ミ將又今回ハ英國側ヨリ話ヲ持掛ケ來リ居

眞ノ目的ハ單ニ權利平等ノミナラス殊ニ「ライヒスウェーア」組織ノ變更獨逸兵力ノ増加等ニ了ルカ如キモ佛國政府ハ獨逸ノ再軍備「ライヒスウェーア」ノ組織變更ヲ受諾スル能ハス右ハ獨逸ノ兵力増加ヲ意味スルモノニシテ新タナル軍備競争ノ危險ヲ惹起スルモノナルヘシト述ヘタルモノナリ

編注一 本電は九月十三日発在仏国長岡大使より内田外務大臣宛電報第七一九号の別電である。なお、同電報第七一九号は九月十二日に行なわれた軍備問題および満州問題に関するエリオ仏国首相と在仏国長岡大使との会談内容に関するものであり、詳細は既刊の『日本外交文書 満州事変』第二卷第二冊第406文書参照。

編注二 本件仏国回答は、九月十一日、在独国仏国大使を通じて独国側に手交された(既刊『日本外交文書 國際連盟一般軍縮會議報告書』第二卷、五頁参照)。

ルニ顧ミ

寧⁽²⁾口此ノ際速ニ英國側ト隔意ナク意見ヲ交換シ共同シ得ル點ヲ見出シタル上米國側ニ備フルコト得策ナルヘク之ニ加フルニ對支問題ノ關係上此ノ際如何ナル方面ニ於テモ日英提携シ得ル點アラハ之ヲ固メ行クコト得策ナラスヤト思考ス

若シ右ニ御異存無クハ戰艦、巡洋艦、及航空母艦ニ付我海軍ニ於テ縮小シ得ル艦型及備砲口径等先方ニ内示シ差支ナキ數字爲念至急御回示ヲ請フ
米、佛、伊、白ヘ轉電セリ

45 昭和7年9月19日 在ジュネーヴ軍縮全權より
内田外務大臣宛(電報)

軍備平等權問題に起因する独国政府の議長宛
會議不参加通告について

ジュネーヴ 9月19日後発
本省 9月20日前着

軍第二二三號
「ヘンダーソン」ヨリ幹部會委員ニ對シ左ノ要旨ノ十四日

附獨通告ヲ通報越セリ

本省 9月20日発

七月二十三日ノ決議案採擇前一般委員會ニ於テ獨逸首席全權ハ右決議案ニ反對セサルヘカラサル所以ヲ陳述セリ軍備平等權ノ問題ニシテ解決セラレサル限り軍縮ニ關スル諸般ノ問題モ亦解決セラレサルヘキ處獨逸政府ノ見解ニ依レハ軍縮ニ關シ同一ノ原則ヲ一切ノ國ニ適用スルヨリ以外ニ途無し依テ獨逸政府ハ之カ實現ヲ計リ延テ引續キ軍縮會議ニ參列シ得ンカ爲ニ外交上ノ手續ニ依リ努力スル處アリシモ今日迄ノ處何等満足ナル結果ニ達セス爲ニ幹部會ヘノ參列モ其難シトスル處ナリ然レトモ獨逸政府ハ依然會議議事ニ注意ヲ拂フヘク又事態ノ推移如何ニ依リ其今後ノ態度ヲ決スルコトアルヘシ

英、佛、獨ニ郵送セリ

46 昭和7年9月20日

内田外務大臣より
在英国松平大使宛(電報)

海軍軍縮問題に關する日英間内協議において
先方に内示可能な我が方海軍艦船の艦型につき
回答

ヨリ申出アリタリ

米佛伊白壽府軍縮全權ヘ轉電アリタシ

47 昭和7年9月20日

在ジュネーヴ軍縮全權より
内田外務大臣宛(電報)

独逸政府の議長宛會議不参加通告に対する議
長回答について

ジュネーヴ 9月20日後発
本省 9月21日前着

軍第二二四號

往電第二二三號ニ關シ

獨逸艦ニ對スル十八日附「ヘンダーソン」回答要旨左ノ通冒頭獨ノ不参加ヲ惜ミ右決意ハ七月二十三日決議ノ採擇セラレタル以上今次會議ニ依ル新條約ハ「ヴェルサイユ」條約ノ軍縮條項ヨリ相距ルコト遠カルヘシトノ獨逸政府ノ解釋ニ基クモノナルヘキ處該新條約ノ定ムヘキ軍縮ノ形式及範圍力既ニ定マリ居ルモノト爲ス右見解ハ當ラストテ同決議中ノ字句ヲ引證シ且同二十三日ノ同人演說ニ言及シ「ヘンダーソン」ハ各國代表カ實質的ナル軍縮ヲ招來スヘキ一般

暗軍第七號
貴電軍第三三號ニ關シ

御申越ノ趣旨ニハ當方同意ナル處從來ノ會議ノ經過ニ顧ミ將來帝國ノ立場ヲ有利ナラシムル爲帝國トシテハ今次軍縮會議ニ於テ適當ノ時期ニ主トシテ海軍問題ニ關シ帝國獨自ノ提案ヲナシ度キ希望ニテ目下對策研究中ナルニ付右御含ミノ上此ノ際兵力量等ニハ深入リスルコトヲ避ケ英國ノ申出ニ對シテハ差當リ艦型ニ關スル事項ノ程度ニ止メ左記ニ依リ内談ニ應セラルル様致度

記

戰艦 二五、〇〇〇屯 十四吋

甲巡 八、〇〇〇屯

乙巡 六、〇〇〇屯

尙航空母艦ノ全廢及艦船ニ航空機着艦用ノ甲板又ハ臺ノ裝備禁止ヲ高調シ航空母艦ノ艦型ニハ觸レサルヤウ致サレ度シ

追テ本件ニ關スル專門事項ノ爲貴大使ニ於テ必要トセラルル際ニハ壽府ヨリ小林海軍大佐ヲ招致セラレ度キ旨海軍省

48 昭和7年10月7日

在英国松平大使より
内田外務大臣宛(電報)

海軍艦船の艦型問題などに關する英国側との
内協議について

ロンドン 10月7日後発
本省 10月8日前着

軍第三六號(極秘)

往電軍第三三號ニ關シ

十月五日「クレイギー」ト會見貴電軍第七號御指示ノ範圍内ニ於テ我方ノ方針ヲ語リ特ニ艦船飛行機着甲板ニ關シテハ倫敦會議末期ニ於テ米國申出ノ人道的見地ヨリ日本側ニ於テ承諾シタルモノナル處其後米國海軍技術ノ發達ハ着甲

板ノ改良ヲ利用シ多數ノ飛行機ヲ巡洋艦ニ積載スルニ至ル
恐レ無シトセス若シ斯ノ如クセハ單ニ日本ノミナラス英國
トシテモ之ヲ放任スル能ハサルヘク此ノ點ニ付英國ニ於テ
案外冷淡ナル如キモ特ニ考慮アリタキ旨航空母艦ノ廢止ノ
必要ト共ニ説明シタル處「ク」ハ英國ニ於テモ輕視シ居ル
次第ニハ非ス米國側ノ計畫ニ付慎重ナル注意ヲ拂ヒ居ルニ
付此ノ點ハ尙此ノ上共ニ研究ヲ爲スヘシト述ヘ日本側ノ主
力艦二萬五千噸十四吋ニ付軍縮ノ目的ヨリ見テ充分ナラサ
ル感ヲ一般ニ與フヘシト述ヘタルニ付本使ハ華府會議、倫
敦會議ニ於テ多大ノ困難ヲ排シ兎ニ角彼ノ程度ニ於テ纏マ
リ居リタルモノヲ主力艦ニ付更ニ一萬噸モ艦型ノ縮少ヲ爲
ス事ハ相當ノ縮減ト看做ササルヲ得ス英國提案カ二萬二千
噸十一吋アルモ右ハ高級巡洋艦ヲ七千噸六吋ニ低下スル
事ヲ條件ト爲シ居リ併モ此ノ條件ノ達成ハ米國側ニ於テモ
大ナル反對アルヘキニ付結局ハ二萬五千噸十二吋ヲ申出テ
居ルニ外ナラサル様思ハル旨述ヘタル處「ク」ハ之ヲ肯
定シ更ニ佛國伊國モ亦英國ト同シク二萬五千噸十二吋ニ異
議無キニ付何トカ日本側ニ於テモ十二吋ニ引キ下ケラレ以
テ米國ニ對抗スル事出來マシキヤト頻リニ繰返シタルニ付

ット」スル事ハ日本政府ニ於テモ爲シ得サルヘシト述ヘ他
ノ點ニ付テハ別ニ何等ノ話無クシテ別レタリ
佛、伊、米、軍縮全權ヘ轉電セリ

49 昭和7年10月15日 内田外務大臣より
在英國松平大使宛(電報)

日英間の海軍軍縮問題内協議は有益であるた
め今後とも英國側と連絡を密にすべき旨訓令

本省 10月15日發

暗軍第八號

貴電軍第三六號ニ關シ

往電軍第七號中前段ノ海軍問題ニ關スル提案ハ五國海軍會
議又ハ其ノ下交渉ノ際適當ノ時期ヲ捉ヘ提示スルノ腹案ニ
テ近ク完成シ訓令ノ運トナル豫定ナル處貴大使ト「クレイ
ギー」トノ會談ハ右提案提出ノ下準備並ニ現ニ進行中ナル
英米會談ノ内容窺知ノ爲ニモ之ヲ續行セラルコト有利ナ
リト認メラルルニ付テハ主力艦備砲問題ハ尙後日ノ研究討
議ニ讓ルコトトシ此ノ際往電軍第七號ノ範圍ニテ他艦種ニ
關シ會談ヲ進メラレ成ルヘク英國側ト密接ナル連絡ヲ保持

本使ハ比率ノ點ニ於テ日英米同格ナルニ於テハ斯クノ如キ
事ハ容易ニ解決シ得可キモ現在ノ比率及日本ノ防禦區域カ
南洋ニ迄及ヒ居ルヲ考慮スレハ我カ海軍トシテ經費削減ノ
點ヨリ艦型ノ縮少ヲ行フトスルモ乗組員ノ不便ヲ犧牲トシ
出來得ル丈ケ有力ナル砲ヲ備ヘ付クル必要ヲ認ムル次第ナ
リト述ヘタル處「ク」ハ英國側ニ於テハ乗組員ノ不便ヲ犧
牲ニスルハ到底出來ス從テ若シ十四吋トスルニ於テハ艦型
ハ約三萬噸ト爲スノ外無カルヘク此ノ點ハ佛、伊モ同憾ナ
ルヘシト思ハル從テ結局三ノ「オルターナチーブ」ノ一ヲ
選フ事トナルヘシ即チ二萬五千噸十二吋トスルカ三萬噸十
四吋ト爲スカ或ハ現在ノ儘トスルカノ外無カルヘシト述ヘ
タルニ付本使ハ我方ニ於テ二萬五千噸十四吋ヲ適當ト認ム
ル事ハ恰モ英國側ニ於テ二萬五千噸十二吋ト爲ス事ヲ適當
ト見ルト同シク何レヲ不當トモ言ヒ難カルヘク結局自國ノ
狀況ニ照シテ意見ヲ異ニスト言フ事ニ歸着スト述ヘタル處
「ク」ハ頻リニ十二吋低下ニ付考慮ヲ求メタルニ付本使ハ
今日日本ノ國情ヨリスルモ專ラ滿洲問題ニ没頭シ居リ來ル
ヘキ聯盟總會ニ於テ如何ニ事態カ發展スルヤモ判ラス從テ
今日軍縮ニ關スル此等ノ問題ニ付此レ以上進ンテ「コンミ

セララル様致度
佛、伊、米、軍縮全權ヘ轉電アリ度シ

50 昭和7年10月20日 在英國松平大使より
内田外務大臣宛(電報)

海軍艦船の艦型などに関する米國側との意見
交換について

ロンドン 10月20日後發
本省 10月21日前着

軍第四二號(極秘)

十月十九日「ノルマンデビス」來訪會談要領左ノ通
海軍問題ニ關シテハ英國海軍大臣ト一回會談シ最近「アド
ミラルヘバーン」及隨(員)カ海軍當局及「クレイギー」
ト會談シタルコトアルモ要スルニ各自ノ立場ヲ述ヘタルニ
止リ何等進展セス過般「フーパー」ノ提案ニ對シテハ日本
側ニ於テモ反對アリ英國側ニ於テモ新ナル提案無シ此ノ儘
ニテハ如何トモ爲スコト能ハサルニ付何トカ打開ノ方法ヲ
進メタキ積ナリト述ヘタルニ付本使ハ過般「クレイギー」
ニ述ヘタル我方ノ方針ヲ詳細説明シ軍縮其ノモノニ對シテ

ハ日本ニ於テモ誠意ヲ以テ研究シ居ルモ我方ノ方針トシテハ英國側ト同シク大体艦船ノ數ヲ減スルコトハ國防上承諾スルコト能ハス唯主力艦及巡洋艦ノ艦型縮少及主力艦備砲ノ口徑減少ニ依リテ節約ノ實ヲ擧ケントスルコトヲ述ヘ若シ十六「吋」三萬五千噸トシテ代艦ヲ行フコトト爲レハ却テ軍擴ヲ實行スルコトナルニ付米國側ニ於テモ艦型縮少ノ方針ニ妥協セラレマシキヤト述ヘタル處

「デ」ハ空中爆撃及潜水艦ノ全廢等ヲ見ルニ於テハ艦型縮少モ實行出來得ヘキカト思ハルモ目下ノ所米國海軍ニ於テ直ニ其ノ方針ヲ變更スルコトハ可ナリ困難アリ但シ萬一妥協シテ日英ト同様ノ方針ヲ取ルトスルモ英國側ノ如ク十二吋迄下ルコトハ到底不可能ニテ寧ロ日本側ノ如ク十四吋ノ方見込アリト思考ス此等ノ點ニ付自分等ノ方モ今少シ日英側ト話ヲ續ケタシト考フ巡洋艦ニ付一萬噸八吋以下ニ下ルコトハ到底困難ト考ヘラル本使ハ更ニ潜水艦ノ廢止ニ付從來ノ主張通り日本ハ全然考量ノ餘地ナク佛國同様之ニ重キヲ置キ機會アレハ寧ロ現有量ヲ増加シタキ希望ヲ有スル次第ヲ述ヘ航空母艦廢止及「ランディングデック」裝置禁止ニ付之亦「ク」ニ話シタルト同様我主張ヲ述ヘ尙華府會

議後備砲仰角問題ノ如キスラ關係國間ニ問題トナリタルコトアルニ付若シ海軍技術ノ發達ト共ニ巡洋艦ニ於テ飛行機ヲ利用スルコト一層發達スルニ於テハ巡洋艦ノ威力ヲ著シク擴大スル虞レアルニ付當然關係國間ニ問題トナルヘキ筈ナルニ付米國側ニ於テモ日本側ノ主張ニ對シ充分ノ考量ヲ加ヘラレタキ旨述ヘタル所

「デ」ハ航空母艦ノ噸數縮少ナラハ兎ニ角之ヲ全廢スルハ困難ナリ米國側ノ主張ノ何レニ付テモ他國ニ於テ考慮セラレハ格別、然ラスシテ單ニ米國海軍ノミヲ動カスコトハ甚タ困難トスルモ尙自分等ニ於テ充分講究スヘシト述ヘ、要スルニ關係國ニ於テ善意ト友誼トヲ以テ話ヲ續クレハ何トカ解決案モ見出し得ヘク自分ハ此上英國側トモ話ヲ續ケ或ハ二十七、八日頃一旦壽府ニ歸リ更ニ又當地ニ引返サヤモ知レスト述ヘ、本使ハ佛國側ト何等カ話合セリヤト問ヒタルニ佛國政府トハ何等話合無ク唯々一回「ヘバーン」カ當地佛國海軍武官ト技術上ノコトニ付話シタルコトアルノミト答ヘタリ、更ニ時局ノ問題ニ言及シ「デ」ハ過日壽府ニ赴キタル處、小國側其他ヨリ「リットン」報告ニ關シ米國ノ態度ヲ尋ネラレタルモ自分ハ米國ノ態度ハ既ニ屢々言

明セラレ居ル通ニシテ此際聯盟ノ一員ニモ非スシテ聯盟ニ忠告スヘキ何物ヲモ有セスト述ヘ置キタリ、本使ハ日本ノ國民ノ決心、國情等ヲ説明シタル上、來ル可キ總會ニ於テ聯盟側ニ於テ日本ヲ一隅ニ押付ケントスルカ如キコトハ危險ナリト述ヘタル處「デ」ハ全然同感ナリ、本問題ノ解決ニハ時ヲ與ヘ互ニ好意ヲ以テ除々ニ解決ヲ計ル外無カル可シト信シ居レリ、尤モ小國側ニ於テハ直ニ解決ヲ迫ル如キ態度モ觀ラルルニ付相當ニ困難モ起ル可キ旨ヲ述ヘタリ

米、佛、壽府全權ニ轉電、外各大使ニ暗送セリ

51 昭和7年10月25日 内田外務大臣より
在英國松平大使宛(電報)

海軍軍縮問題に關する日本政府提案の閣議決定と同案訓電について

本省 10月25日發

暗軍第九號(極秘)
往電軍第七號及軍第八號ニ關シ
海軍問題ニ關スル帝國政府提案ニ關シテハ爾來關係各省トノ間ニ慎重協議中ナリシ處愈々本二十五日ノ閣議決定ヲ經

タルニ付右別電軍第一〇號ヲ以テ電報ス
別電ト共ニ米ヘ轉電セリ
別電ト共ニ軍縮全權、佛、伊ヘ暗送アリタシ

編注 本電は残存していない。なお、本件提案にはこの後若干の修正が加えられ、最終的には第65文書付記のとおりとなった。

52 昭和7年10月27日 内田外務大臣より
在英國松平大使宛(電報)

海軍軍縮問題に關する日本政府提案の提出理由について

本省 10月27日發

機軍第一一號 極秘
往電第九號及第十號ニ關シ
今次ノ會議ニ於テハ既ニ「フリーバー」案及「ボールドウィン」案ノ如キ有力ナル提案提出若シクハ發表セラレアル形勢ニ顧ミ帝國政府ニ於テ從來ノ通り常ニ他國ノ提案ヲ基礎トシテ討議シ之ヲ我カ修正案ニ導クコトハ次第ニ困難トナ

ルヘク從テ彼レニ機先ヲ制セラレ吾カ方ノ公正ナル要求ヲ充分満足セシメ難シト思考セラルルニ付此ノ際帝國政府ニ於テモ進シテ獨自ノ提案ヲ提出シ以テ吾カ方ノ立場ヲ擁護シ且之ヲ有利ニ導クコト最良ノ方法ナリトノ見地ヨリ種々攻究ノ結果冒頭往電ノ訓令ヲ發スルニ至リタル次第ナリ右提案ヲ以テ吾カ方ノ主張ヲ貫徹スヘキ方策ニ關シテハ前記往電ニテ申進メタル通りナルカ十一月四日出發ノ豫定ナル永野全權（一行ハ主席隨員トシテ新任ノ長谷川少將、岡中佐、石黑軍醫中佐、多田機關中佐、山田大尉）ヨリモ詳細更ニ閣下ニ申進スヘク（岡中佐ハ當初ヨリ本提案ノ作成ニ當レリ）尙本月二十二日米國經由出發セル東郷參事官ハ本提案竝ニ其ノ他ノ軍縮重要諸點ニ關シ當地各方面ト打合ヲ遂ケ歸任ノ途ニ就キタルモノナルニ付同參事官ヨリモ委曲申上ヘキモ貴大使ニ於テハ目下既ニ「クレイギー」及「ノルマン、デビト」トノ私的交渉ヲ隨時繼續セラルヘキ形勢ナルノミナラス英米間ノ話合モ逆行スヘキカト察セララルニ付吾カ方提案提示ノ好機ヲ逸セサルヤウ早キニ及ンテ右帝國政府ノ方針及具体案ヲ電訓ニ及ヒタル次第ナリ右前記電訓發送ノ事情御含マテ

自自國主張ノ根據理由ヲ充分ニ説明シ（）右相違ニ付何等歩ミ寄ル事能ハサルヘキカラ研究シタル處右ニ關シ左シタル結果ニモ到達セサリシカ僅カノ點ニ付英米專門家ヨリ政府ヘ「レコメンド」セルコトアルモ右ハ果シテ兩政府ニ於テ之ヲ容ルルヤ否ヤ不明ナリ其ノ點ハ今日之ヲ御話スルコトハ避ケ度ク若シ此ノ點ニ關シ政府ノ容ルル處トナルモ既成事實トシテ日本其他ニ押付クル如キ事ハナサス先ツ第一ニ日本側ニハ相談ヲナス積ナリト述ヘタリ本使ハ我方ニ於テモ海軍縮少問題ニ關シ提案ヲナスコトナリタルモ目下研究中ナル旨豫メ「ヒント」ヲ與ヘ置キタル處（貴電軍第一〇號ハ當時解釋セラレス）「ク」ハ自分ノミノ考ナルカ米國カスノ如キ案ヲ出シタル事ハ誤ニテ之カ爲ニ英國モ亦提案ヲ出シタルモ結局徒ニ問題ヲ紛糾セシメ何トカ結末ヲツケルニ腐心シ居ル際又日本側ニテ案ヲ提出セラルル事トナラハ更ニ紛糾ヲ増ス虞アルニ付少クトモ右提案ハ英米下相談ノ終ル迄提出ヲ待タル譯ニハ行クマシキヤト述ヘタルニ付本使ハ我方ノ提案内容ニ付テハ未タ研究ノ暇ナキニ付提出時期ニ付本使トシテ何等約束スルコト能ハスト述ヘ置キタリ尙「デビス」ハ二十八日當地發一先ツ壽府ニ赴クニ

軍縮全權、佛、伊、米ニ轉電アリタシ

53 昭和7年10月27日 在英國松平大使より 内田外務大臣宛（電報）

海軍軍縮問題に関する英米間協議の進捗状況などについて

ロンドン 10月27日前発
本 省 10月27日後着

軍第四三號
往電軍第四二號ニ關シ

「デビス」ハ引續キ英國側ト話ヲ續ケ居ル處本二十六日某外國通信員當館ニ來リ「デ」ト英國官憲トノ話合ハ其後進捗シ歐洲問題殊ニ獨逸ニ對シ共同動作ヲ米國側ニ於テ取ル代リ英國側ニテハ海軍問題ニ付讓歩シ主力艦ニ關シ米國側ニ幾分歩ミ寄ル如キ報道ヲ耳ニシタル旨内報シ來リタルニ付本使ハ直ニ「クレイギー」ヲ問ヒ右情報ヲ話シ其後ノ狀況ヲ尋ネタル處「ク」ハ右新聞情報ハ大袈裟ニシテ眞ヲ置クニ足ラス政治的ノ話ニ付テハ自分ハ何等承知セサルモ海軍問題ニ關シテハ英米專門家間ニ（）英米案ノ相違ニ關シ各

付本使ハ明朝會見ノ筈貴電軍第一〇號ノ次第ハ小林大佐トモ一應研究シタルモ詳細研究ヲ要スヘキ點モ多クアリ今日ニ之ヲ出スコトハ不可能ニ付「デ」ニハ極メテ大體ノ趣旨ノミヲ話シ置クニ止ムル積リナリ

米、佛、聯盟代表ヘ轉電シ獨、伊、白、露ヘ暗送セリ

54 昭和7年10月30日 在仏國長岡大使より 内田外務大臣宛（電報）

我が方海軍軍縮提案における仏伊海軍艦船保有量につき意見具申

パリ 10月30日後発
本 省 10月31日前着

第八三六號（至急極秘）

貴電軍第一〇號ニ關シ

帝國政府具體案ニ付主力艦及甲級巡洋艦ニ關シ佛國及伊國トノ「パリテイ」ヲモ提議スルモノナル處佛國側カ伊國トノ「パリテイ」ヲ欲セサルコト御承知ノ通ナル一方先般來目下ノ時局ニ鑑ミ我方ニ有利ナル國際環境ヲ作ル爲政府ニ於テ日佛「アンタント」實現ノ御方針ヲ決セラレ其一トシ

テ軍縮會議ニ於ケル日佛共同歩調ヲ御訓令アリタル次第
(貴電第三九一號)モアリ滿洲問題聯盟上程ヲ控ヘタル今日特ニ日本ト直接利害關係無ク而モ佛側カ現ニ重要視スル對伊「パリテイ」ノ問題ヲ數字ヲ掲ケテ提案センカ佛側ハ之ヲ以テ伊國ノ主張ヲ援クルモノト見ルヘキハ必然ニシテ前記御訓令ノ趣旨ニ反スル結果ヲ生スル虞多々アリ勿論本提案ハ帝國獨自ノ提案トシテノ體裁及英國ニ對スル關係其他ノ點ヲ御考慮相成リタル結果トハ察セラルルモ目下ノ時局及佛國官民ノ態度ニ顧ミ特ニ前記ノ懸念ヲ深クスル次第ナルニ付佛伊ニ關スル部分ハ尠クトモ我方ヨリ之ヲ提起スルヲ差控ヘラルコト然ルヘシト思考セラル

英、伊、壽府聯盟ヘ轉電セリ

55 昭和7年11月2日 在英國松平大使より
内田外務大臣宛(電報)

海軍軍縮問題に關する我が方提案提出において懸念される点について

ロンドン 11月2日前發
本省 11月2日後着

長岡大使ト全然同感ナリ)
四、來ル可キ理事會及總會ニ於テ帝國ハ滿洲問題ニ對シ極メテ困難機微ナル局面ニ立タントスルニ鑑ミ大國殊ニ英、米等ノ民心ヲ緩和シ成ルヘク我方ノ立場ヲ支持セシムル如ク導ク必要アルニ當リ其ノ直前ニ於テ彼等ノ神經ヲ刺戟シ反抗心ヲ起サシムルカ如キ結果ヲ生スルコトナキヤ
右様ノ懸念ヲ有スルニ拘ラス本使ニ於テ充分帝國政府ノ御意向ヲ吞込マスシテ斯ノ如キ重大ナル提案ヲ爲シ論議ニ入ルトキハ却テ御期待ニ副ハサル結果ヲ生スル虞レアルニ付永野全權及東郷參事官ノ歸任ヲ俟チ篤ト其ノ説明ヲ聞キタル上ニテ提案スルコトト致度シ尤モ萬一英米間ノ交渉ニシテ我方提案ヲ困難ナラシムルカ如キ狀況ノ發生ヲ妨クル爲英米側ニハ我提案ノ極メテ概括的輪廓ヲ説明シ何時ニテモ該案ヲ提出シ得ル様地盤ヲ造リ置キタルハ既電ノ通ナリ右ニモ拘ハラス急速我案ノ提出ヲ要スル狀勢ナラハ一般協定ニ掲クル趣旨ノミヲ開陳シ其ノ具体案及特別協定ノ目的トスル數字ニ對シテハ同全權ノ歸任迄之ヲ回示セサルコトト致度キモ英米人ノ如キ實際ヲ重シスル國民ハ同時ニ數ノ提出ヲ迫ルヘキニ付之ヲ避クル爲何等カノ適當「フオーミ

軍第四六號(極秘)

貴電軍第九號及第一〇號篤ト攻究シタル處本件廟議決定ニ至ル迄ニハ各般ノ事情ヲ充分御考慮相成タル事ト信スルモ本使ニ於テハ左ノ如キ懸念ヲ有スルニ付テハ忌憚ナク左ニ開陳ス

一、英、米間ニ於ケル海軍軍縮ニ關スル妥協ハ今日迄觀察シタル處ニ依レハ少クトモ米國選舉終了後政情確定スル迄ハ成立困難ト思ハル若シ僅カノ點ニ於テ妥協ヲナシ我方ニ下協議ヲ爲ス場合ニ於テモ之ニ對シ我方不満足ナルニ於テハ一蹴スル事容易ト思考ス之ニ反シ若シ我案ヲ其儘提起シ殊ニ之ヲ發表スルニ於テハ各國間ニ相當ノ衝動ヲ與ヘ然モ結局此ノ案ノ數字ヲ以テ直チニ英、米ヲ承服セシムル事不可能ト信セラル

二、若シ本案失敗スルモ千九百三十五年ノ會議ニ對シ我方ニトリ有利ノ地盤ヲ造リ得ルヤ否ヤニ付テハ今日之ヲ公開スル事却ツテ彼等ニ警(戒)ト準備ノ機會ヲ與ヘ我立場ヲ不利ニ導ク事無キヤ

三、佛、伊ノ保有量迄判然ト割當ツル如キ態度ニ出ツルハ實益少クシテ彼等ノ感情ヲ不必要ニ害スル虞ナキヤ(此點

ユラ)ニ付目下考究中ナリ就テハ右ニ對シ何等御異存アラハ御回示ヲ仰ク
米、佛、全權ヘ轉電セリ

56 昭和7年11月10日 在ジュネーヴ軍縮全權より
内田外務大臣宛(電報)

幹部會での化学兵器等に關する我が方意見陳述について

ジュネーヴ 11月10日後發
本省 11月10日後着

軍第二六八號
九日第二十四回幹部會開催化學戰報告審議ヲ續行經過要領左ノ如シ
一、我方ハ化學兵器等ノ戰時使用ハ勿論防禦上ノ目的ヲ以テスル準備訓練並復仇トシテ行フ化學兵器等ノ使用ヲモ禁止シ以テ化學兵器等ニ關スル研究迄モ必要トスルノ域ニ達セサレハ化學戰禁止ノ實效ヲ擧ケ難カルヘシト述ヘタル處英、米、瑞西等孰レモ化學戰禁止ニ關スル協定ノ一般的適用性ヲ唱ヘシモ防禦的器材及藥物ノ保持ヲ主

海軍國ニ共通スル保有量ノ最大限度ノミヲ協定シ各國カ實際ニ保有スヘキ量ニ關シテハ特別協定ニ於テ各國ノ現實保有量ヲ基準トシ右最大限度ノ範圍内ニテ關係國間ニ適切ニ商議決定ヲナサシメ得ルコトナシアリ自然乙級巡洋艦以下ニ於テ佛國ハ伊國ヨリモ多量ヲ保有シ得ルコトトナリ何等佛國ノ主張ヲ阻害シ又ハ伊國ノ主張ヲ支持セントスルモノニアラスシテ最モ公平ノ態度ナリト思考セラル、加之帝國提案全般トシテハ「フーパー」案、「ボールドウイン」案ニ比シ佛伊兩國ノ要求ヲ充分考慮シ最優勢海軍國タル英米ニ對スル佛伊ノ立場ヲ爲シ得ル限り有利ナラシムル如クナシアルヲ以テ寧ロ兩國ノ支持ヲ期待シ居ルモノニテ此ノ際兩國兵力量ニ關スル事項ヲ我方提案中ニ存置スルコト必要ト認メ居ルモノナリ

三、從テ帝國提案ハ佛伊ノ海軍力ノ全般ニ亘リ兩者間ノ均勢ヲ提議シ居ルモノニアラス

尙貴電御來示ノ如キ懸念アリト思考セラルルニ於テハ場合ニヨリ適當ノ時期ニ於テ佛國政府ノ誤解ヲ豫メ拒ミ置クコト可然ト思ハルルニ付我方軍縮全權ト此ノ點ニ付連絡ヲ執ラレ度シ

英、伊、壽府聯盟ヘ轉電アリタシ

58 昭和7年11月11日 在ジュネーヴ軍縮全權より
内田外務大臣宛(電報)

復仇のための化学兵器使用も禁止すべきとの
幹部会における我が方陳述について

ジュネーヴ 11月11日後発
本 省 11月12日前着

軍第二六九號

十日第二十五回幹部會開催化學戰報告中制裁ノ項ヲ審議ス經過要領左ノ通

一、佛ハ報告書ハ禁止違反犠牲國ニ復仇トシテ化學兵器ノ使用ヲ許スヘキコトヲ説キ居ルモ斯ル個別的復仇ハ不充分ナルヘク宜シク他締約國ノ一切カ犠牲國ニ代リ違反國ニ對シ集團的復仇ヲ加フヘシトシ英ハ第三國ノ「プレツシユア」ハ制裁トシテ満足ナラサルハ事實ノ證スル所ニシテ不戰條約ニ就テモ又然リ組織如何ニ完全ナリトモ之ヲ實施スル意思伴ハスンハ戰爭ヲ「アウトロー」スルノミニテハ足ラサルニアラスヤト述フ

張シ「ウルグアイ」ハ兵器取引取締條約ニ關スル一九二五年ノ會議ノ際諾威代表ハ化學戰防禦準備ノ爲ニスル各國ノ經費ノ尠大ナルコトヲ指摘セルカ右ニ依リテモ日本代表ノ防禦の兵器禁止主張ニ理由アルヲ知ルヘシト述ヘタリ

二、禁止スヘキ藥物及器材ノ範圍ハ專門的事項ヲ含ムコト大ナルヲ以テ一ノ専門委員會ヲ構成スヘシトノ議出テ英、米之ニ贊同シ次回會合(十日)ニ報告者ヨリ同委員會ニ附託スヘキ質問集ヲ提出スルコトセリ

英ヘ轉電セリ

57 昭和7年11月11日 内田外務大臣より
在仏國長岡大使宛(電報)

海軍軍縮問題に關する我が方提案において仏
伊海軍艦船保有量を起草した理由について

本省 11月11日発

暗軍第一四號(極秘)
貴電第八三六號ニ關シ

右ハ我提案起草ノ際特ニ注意ヲ拂ヘル處ニシテ御來示ノ如ク解セラルル懸念ナシト思ハル、其ノ理由ハ次ノ通り御承知アリタシ

一、帝國提案ニ於テハ主力艦及甲級巡洋艦ハ一般協定ニ依リ日英米佛伊五國間ニ其ノ保有量ヲ協定スルモノナル處此ノ點ニ關シ佛伊ノ主力艦保有量ハ華府條約ニ於テ兩國共十七萬五千噸ヲ代換保有シ得ルコトナリ居リ昨年三月ノ英佛伊三國假協定ニ於テモ千九百三十六年末迄ハ兩國共同一量ヲ建造シ得ルコトナリ居ルニ付帝國提案ニ於テハ兩國保有量ヲ夫々十五萬噸トシ次ニ甲級巡洋艦保有量ニ付テハ右假協定ニ依レハ千九百三十六年末迄兩國共七隻ヲ超エ建造セサルコトト定メラレアルニ付帝國提案ハ兩國保有量ヲ夫々五萬六千噸トナシタルモノニテ實際上右兩艦種ノ均勢ニ付テハ兩國間ニ於テ主義上今日迄特ニ問題アリタルヲ聞カス「フーパー」案モ華府條約及前記假協定ヲ基礎トナシアル次第ナレハ旁々我方ニ於テモ兩國間ニ新ナル比率ヲ提議スルヲ避ケ寧ロ此ノ點ハ在來ノ儘トシテ手ヲ觸レサルノ方針ニ出タルモノナリ

二、反之乙級巡洋艦以下ノ保有量ハ佛伊海軍交渉ノ最大難關タルニ鑑ミ帝國提案ニ於テハ一般協定ニ依リ單ニ五大

二、我方ハ化學兵器ヲ使用スル復仇ヲモ嚴禁スヘク然ラス
ンハ化學戰禁止ノ目的ニ副フ能ハサルヘシトシ前回我方
ノ聲明ヲ敷衍陳述シタル處「ヘンダーソン」議長モ復仇
ヲ認ムルハ結局本件禁止ヲ無効ナラシムルモノナルヲ以
テ一切ノ準備及訓練ト共ニ之ヲ禁止スヘシト提唱シ「ボ
リテイス」副議長モ亦報告中ヨリ復仇トシテノ化學兵器
使用許可ノ條項ヲ抹消スルノミニテハ足ラス復仇トシテ
化學兵器使用ヲ禁止スル旨明記スルト共ニ締約國ハ制裁
參加ノ義務アルコト及右制裁實施ノ手續ヲ確定スルノ要
アルヘシト述フ

三、本件討議ハ十一日開催次回會議ニ於テ續行シ之ト同時
ニ今回會合ニ提出セラルヘキ筈ナリシ専門委員會質問集
ヲ審議スル筈

英ニ轉電セリ

59 昭和7年11月19日 内田外務大臣より
在ジュネーヴ軍縮全権宛(電報)

海軍軍縮問題に關する我が方提案の取扱い方
につき回訓

三、帝國提案中佛伊ノ保有量ニ關シテハ在佛大使宛往電軍
第一四號ニ依リ委曲御承知相成度ク、尙貴電及在佛大使
來電第八三六號ノ如キ御申越ノ次第アルヲ以テ佛伊兩國
政府ニ對シ帝國提案ノ趣旨ヲ篤ト了解セシムルノ措置ヲ
執ルノ必要アルニ付發表前又ハ發表ト同時ニ兩國政府ヘ
必要ノ申出ヲナスヤウ在佛伊兩大使ト豫メ連絡ヲ取り置
カレ度シ

四、貴電四ニ關シ、御申越ノ次第一應尤モト存セラルルモ
我方提案ハ海軍軍備ニ付重大ナル縮減ヲ提議シ居リ且極
メテ實際的解決方法ヲ示シ居ルモノナル處既ニ英米ヨリ
「ボールドウィン」案及「フーバー」案ノ如キ提案アリ
我方ニ於テ是等ノ提案ニ對シ終始峻拒スルノ一點張りニ
テハ徒ニ列國ノ疑惑ヲ招キ帝國ノ立場ヲシテ愈々困難ナ
ラシムルノミナラス或ハ軍縮會議決裂ノ責任スラモ我方
ニ負ハシメラルルノ危険ナキニアラス御承知ノ通り滿洲
事變以來軍縮ニ對スル帝國政府ノ誠意ヲ疑ハントスル向
キモ有之ニ顧ミ此ノ際我方ニ於テ軍縮ニ關シ實質的大縮
減ヲ來サシムヘキ誠意アル提案ヲ提出スルニ依リ世上ノ
疑惑ヲ一掃シ置クコトハ理事會並總會ニ於ケル我方立場

機軍第七一號(極秘)至急
松平大使へ

本省 11月19日 発

貴電軍第四六號ニ關シ

一、貴見ノ如ク英米ノ妥協ハ目下ノ情勢上相當成立困難ト
認メラルルモ萬一交渉急速ニ進展シ何等カノ形式ニ於テ
兩者ノ妥協ヲ見ルカ如キコトアランカ我方ノ立場ヲ著ク
不利ナラシムルハ勿論ノ儀ナルヲ以テ我方トシテハ右萬
一ノ事態ヲ懸念シ本提案急速提出ニ決シタル次第ナリ就
テハ帝國提案ニ關シテハ本電(六)ニ記述ノ理由ヲ以テ我提
案ノ趣旨ヲ飽迄敷衍説明セラルルコトニ御盡力相成度シ

二、我提案ノ發表カ一九三五年ノ會議ニ對シ豫メ備フルノ
機會ヲ英米ニ與フルコトナルヘシト雖寧ロ我方ノ枉^(枉み)ク
ヘカラサル國防上ノ要求限度ヲ進ンテ世界ニ發表シ置キ
タル上我提案ニ比シ一層公正合理的ナル對案ノ無キ限リ
一九三五年以後ト雖他國ノ提案ヲ拒否スル方得策ニシテ
(現ニ佛國ハ安全保障問題ニ付同様ノ態度ヲ執リツツア
リ)之カ爲メ我方ノ態度ニ關シ列國ノ誤解ヲ招クノ虞ナ
カルヘシ

ニ有利ナル影響ヲ與フヘク之ヲ不利ニ導クモノトハ思考
セラレス

五、帝國提案ノ提出時期方法等ニ關シテハ往電軍第十號ニ
テ委曲申進シタル次第ナルモ當方ニ於テ本提案ニ關スル
廟議決定後直チニ電訓ニ及ヒタル事情ハ往電軍第十一號
ノ通りニシテ我提案提出ノ好機ヲ逸セザラシメンコトヲ
慮リタルモノナル處先般來海軍問題ニ關シ日英米間ノ内
交渉進行中ニテモアリ且佛國ニ於テ今般新ニ軍縮提案ヲ
ナシタル次第モ有之ニ付申ス迄モ無キ儀ナカラ今後ノ情
勢ニ應シ提出ノ機ヲ逸セラレサルヤウ諸般ノ準備ヲ進メ
ラレ度シ

右ノ趣旨ニ付テハ永野全權モ同意見ナリ

六、尙帝國提案ノ趣旨ニ付テハ果次ノ往電ニテ充分御承知
ノ通りナル處同提案ハ

(イ)今次會議ニ於ケル諸決議ヲ尊重シ且各國ノ要求ヲ能フ
限リ考慮ニ入レ居リ

(ロ)英米案モ認メ居ル攻撃力ヲ弱メ防禦力ヲ増スヘシトノ
原則ニ基キ質的ニモ量的ニモ能フ限リノ縮減ヲ示シ以
テ軍縮ノ實ヲ擧ケンコトヲ期シ

(イ) 優勢軍備ハ劣勢軍備ニ比シ一層大ナル縮減ナスヘク兩者ニ同一率縮減ヲ適用スヘカラサルヲ述ヘ
(ニ) 各國ノ特殊事情及地理的地位ヲ考慮スヘシト主張シ
(ホ) 各國ノ現實兵力ノ相對關係ヲ尊重シ軍縮ハ之ヲ基準トシテ行ハレ以テ各國ノ安全感ヲ害スヘカラサルコトヲ説キ

以上ヲ以テ立論ノ骨子トナスモノナルカ右ハ大體ニ於テ今次會議ニ於テ列國ノ承認ヲ經居ル原則ナルニ付帝國政府トシテハ此ノ機會ニ會議ノ雰囲気ニ合スル範圍内ニ於テ帝國國防上必須ト認メラル最少限度ノ要求ヲ提出スルト共ニ全般的ニハ世界軍備ニ對シ極メテ實質的ナル縮減ヲ提議シ居リ而モ「フーバー」案及「ボールドウィン」案ニ比スレハ左ノ特徴ヲ具ヘ居ルモノナリ
(イ) 一層公正合理的ニシテ極メテ實際的ナルコト
(ロ) 協定方法ノ便利ナルニ依リ一層會議ノ成功ニ寄與スヘキモノナルコト

(ハ) 他ノ劣勢海軍國ヨリ同情支持ヲ博スルニ足ルモノナルコト
(ニ) 航空母艦ノ全廢ヲ提議セルコト、將來海上空軍ノ發達

トナルヘキ處我方提案ハ同案ニ比シ英國ノ立場ヲ充分考慮シ同國ノ小艦多數主義ヲ満足セシムルコトニ努メタルモノナリ)

右様ノ事情ニテ我提案ハ列國ニ於テ良ク之ヲ研究了解スルニ於テハ毫モ各國ノ感情ヲ刺戟スヘキ性質ノモノト認メラレサルニ付閣下ニ於カレテハ我提案發表後ト雖機會アル毎ニ關係各國代表者ニ對シ委曲我提案ノ意ノ存スル所ヲ敷衍説明セラルルコトニ專ラ御盡力相成度ク帝國政府ニ於テハ之ニ依リ軍縮問題ニ於ケル我方誠意ニ對スル世上ノ疑惑ヲ一掃スルト共ニ他國ノ不當ナル壓迫ヲ峻拒スルノ防禦線トナサントスルモノニ有之更ニ一九三五年ノ會議ニ對シテモ本軍縮會議ヲ出發點トシテ我方要求ノ貫徹上有利ナ地歩ヲ獲得センコトヲ考慮セルモノナルニ付其ノ邊ノ事情特ニ御含置相成度シ

本電訓令トシテ軍縮全權ヘ轉報シ佛伊ヘ參考トシテ轉電アリタシ

英ニ轉電アリタシ

尙伯林通過ノ永野全權ヘ内示セラルル様本電獨ヘ轉電セリ

ニ伴ヒ此ノ方面ニ要スル各國軍事費ハ年々莫大ノ額ヲ増シ行クモノト豫想セラルル處航空母艦ノ全廢ノミニテモ各國軍費ヲ大ニ輕減スルモノナルコト
(ホ) 主力艦並甲巡ノ艦型並隻數ヲ併セテ縮減スヘキコトヲ要求シ居ルモノナルコト

(ハ) 乙巡、驅逐艦及潛水艦ニ付最大限度保有量ノミヲ定メタルコト(我方提案ニ於テ乙級巡洋艦ノ最大限度保有量一五〇、〇〇〇噸ト提議シアルニ對シ英國側ニテ或ハ難色アルヤモ知レサル處我方提案ノ艦型縮小ヲ實現スル場合英國ハ乙級巡洋艦ノ保有隻數ヲ縮少スルコトナクシテ相當量ノ縮減可能ナルヲ以テ英國ノ現有量(約十九萬噸)又ハ條約協定量ニ對シ必スシモ英國ノミニ殊更大ナル犠牲ヲ拂ハシメントスルモノニアラス尤モ出來得ル限りノ縮減ヲナサントスル我方提案ノ趣旨ニ鑑ミ多少ノ犠牲ハ已ムヲ得サル所ナリ尙又「フーバー」提案ハ甲級及乙級巡洋艦ヲ併セ其ノ合計噸數(二三九、〇〇〇噸)ノ四分ノ一減ヲ提議シ然モ甲級巡洋艦一五〇、〇〇〇噸ヲ保有セントスルモノナルニ依リ英國ノ乙級巡洋艦保有量ハ一一〇、〇〇〇噸以下

60

昭和7年11月27日

在ジュネーヴ軍縮全權より
内田外務大臣宛(電報)

海軍軍縮問題に関する我が方提案中の仏伊艦
船保有量につき意見具申

ジュネーヴ 11月27日後発
本省 11月28日前着

軍第二八八號

帝國政府軍縮提案ニ關シテハ松平宛軍第一〇(號)等御訓令ノ趣旨ニ依リ早目ニ提案シタク準備中ナル處最近ニ於ケル佛伊兩國間ノ機微ナル關係及十一月十四日ノ佛國提案等ヲ考慮シ帝國ヨリ佛伊ノ主力艦及甲級巡洋艦ニ於テモ其ノ保有量ヲ確定的數字ヲ以テ提示スルコトハ之ヲ避クルヲ必要ナリト認メラルヲ以テ帝國提案具體案中佛伊ノ主力艦及甲級巡洋艦保有量ニ關シ(一)主力艦、佛伊兩國ハ一五〇、〇〇〇噸(隻數任意)ヲ最大限度トシ其範圍内ニ於テハ各ノ實際有スヘキ量ヲ關係國間ニ於テ協定ス(二)甲級巡洋艦、佛伊兩國ハ五六、〇〇〇噸(七隻)ヲ最大限度トシ其範圍内ニ於テハ各ノ實際有スヘキ量ヲ關係國間ニ於テ協定スト改メ提出スルヲ此際最モ妥當ナル處置ナリト思考スル處至急

御同訓ヲ得度シ
英、米、佛、伊へ轉電シ獨、白へ暗送セリ

編 注 本件仏国提案（いわゆる「ボンクール案」）の内容などについては、既刊の『日本外交文書 國際連盟一般軍縮會議報告書』第二卷、九頁―十八頁参照。

61 昭和7年12月3日 在ジュネーヴ軍縮全權より
内田外務大臣宛（電報）

海軍軍縮問題に関する我が方提案の提出方法などについて

ジュネーヴ 12月3日前発
本 省 12月3日後着

軍第二九〇號（極秘）
海軍問題ニ關スル我方提議ハ成可ク早目ニ之ヲ行フヲ適當ト存シ居ルモ量の制限即チ保有量ニ關スル具体案ハ既ニ御承知ノ如キ道程ニ達シ居ル滿洲問題ニモ自然機微ナル影響ヲ及ホスヘキニ付臨時總會代表ノ意見ヲ求メタル處右情勢ニ顧ミ本件提議ハ時機ヲ逸セサル範圍内ニ於テ成可ク之ヲ

海軍軍縮問題に関する我が方提案を英・米・仏・伊の各国へ内示について

ジュネーヴ 12月5日前発
本 省 12月5日前着

軍第二九三號

往電軍第二九〇號ニ關シ

五日中午ニ英米佛伊ニ提案ノ趣旨及質的縮減具体案ヲ内報シ六日ニ我方専門家ヨリ前記四國専門家ニ量の縮減具体案ヲ説明スル豫定ナリ尙其際日本側發表迄提案ノ内容ヲ外部ニ洩ラサル様申込ミ置ク筈ニテ尙又新聞記者へハ多分明日中ニ英米佛伊ニ日本提案ノ概要ヲ内示スルコトナルヘシト話シ置ケルニ付右御含ミ置相成度シ

英、米、佛、伊、獨、白へ轉電セリ

63 昭和7年12月7日 在ジュネーヴ軍縮全權より
内田外務大臣宛（電報）

海軍軍縮問題に関する我が方提案を各国へ内示した際の各国専門家の所見について

延期セラレ度キ旨ノ希望アリ旁々此ノ際先ツ以テ
(一)英、米、佛、伊ニ提案及質的制限ニ關スル具体案ヲ内報シ其後一兩日中ニ保有量ニ關スル具体案ヲ専門家ヨリ説明スルコト

(二)⁽²⁾前記内報及説明ニ引續キ不取敢提案及質的制限ニ關スル具体案ノミヲ軍縮會議ニ提出スルモ一方法ト思考スルモ差當リ前記(一)四國へノ通報及説明ヨリ生スル反響ヲ見テ其ノ後ノ提出方策ヲ定ムル事

ノ二段ニ別チ行フヲ適當ト認メ(一)ノ内報及説明ハ近日中之ヲ行ヒ度キ心組ナルニ依リ右御承知相成度シ
我方提案ノ内容ハ殆ト全部貴訓令ニ依ルハ勿論ナルモ提出ノ時機及方法等ヲ考慮シ若干文句ノ訂正ヲ加フヘク又之カ發表ハ會議提出ノ際ニ於テ貴地及當地ニ於テ行フ事ト致シ度キニ付右豫メ御承知相成度ク右提案ノ時機及内容ハ豫メ電報スヘシ
獨、白へ暗送セリ

62 昭和7年12月5日 在ジュネーヴ軍縮全權より
内田外務大臣宛（電報）

ジュネーヴ 12月7日後発
本 省 12月8日前着

軍第二九八號

往電軍第二九七號ニ關シ

長谷川中將ヨリ

四國専門家ニ對シ量の具体案ヲ説明ノ際各國共懇談的ニ個人ノ意見ナリトテ左ノ如キ所見ヲ述ヘタリ
米ハ單一協定ヲ以テ凡テ法律スルヲ困難ナリトスル說ニ贊意ヲ表シタルノミニテ内容ニ關シ何等觸ルコト無ク會議ハ「クリスマス」前ニハ何事モ爲シ得サルヘク凡テハ其後トナルヘシ「デヴィス」ト相談ノ上明七日貴方ヲ訪問スト述ヘ

英ハ協定ノ方式ニ關シ質問シタル後潛水艦ヲ乙巡以下ノ組ニ入レ且總噸數ヲ條約量以上ニ増加セルコトニ不同意ナリトシ航空母艦ニ關シテハ陸上航空兵力ノ制限問題ニ關聯スヘキヲ說キ最後ニ主力艦ヲ十二吋砲ト爲スコトニ日本ハ同意シ得サルヤト質問シ
佛ハ日本案ハ實際的ニシテ巧妙ナル案ナリト稱シ佛、伊均勢主義ヲ認ムルコトニ對シ華府條約量ヲ以テ佛海軍ノ將來

ヲ拘束スルコトハ絕對ニ同意シ得サルコトヲ說キ一般協定ノミニテハ佛、伊均勢ナル惧有ルヲ以テ一般協定ニ對スル特別協定ハ必ス同時ニ效力ヲ發生セシムルコト肝要ナリト述ヘ英、米ノ兵力量ヲ大ニ縮減センコトニ對シ贊意ヲ表セリ

伊ハ佛、伊均勢主義ヲ強調シ右ヲ前提トスル如何ナル軍縮ニモ應スヘキヲ說キ日本案ノ質的縮減ハ過大ナリトシ主力艦ニ對シテハ十四吋ニ對シ二万五千噸ハ過少ナルヘク甲巡ハ一万噸、乙級ハ七千五百噸トスル必要アリト述ヘタリ英、米、佛、伊ヘ轉電シ獨、白ヘ暗送セリ

64 昭和7年12月7日 在ジュネーヴ軍縮全權より
内田外務大臣宛(電報)

海軍軍縮問題に關する我が方提案の提出は暫く見合わせるべきとの米國専門家の談話について

ジュネーヴ 12月7日前發
本 省 12月8日前着

軍第三〇〇號

七日午前米「ヘプバーン」少將長谷川ヲ來訪シ目下獨逸引

六、大海軍國カ大ナル犠牲ヲ拂フノ主義ニハ不贊成ナリ英、米、佛、伊ヘ轉電シ獨、白ヘ暗送セリ

65 昭和7年12月9日 在ジュネーヴ軍縮全權より
内田外務大臣宛(電報)

海軍軍縮問題に關する我が方提案會議議長ヘ提出について

付記 右我が方軍縮提案

ジュネーヴ 12月9日後發
本 省 12月9日後着

軍第三〇五號

往電軍第三〇一號ニ關シ
九日午前我提案ヲ提出セリ
英米ヘ轉電シ獨白ヘ暗送セリ

(付記)

帝⁺國提案

帝國政府ハ、國際平和ヲ確保スベキ軍縮事業ノ實現ニ對シテハ、最モ大ナル關心ヲ有シ、今次一般軍縮會議ニ於テ

入レノ爲五國會議進捗中ニテ米全權ハ非常ニ多忙ニテ未タ日本案ヲ讀ム暇ナキ次第ナルニ付日本案ハ此ノ際聯盟ニ提出スル事ヲ暫ク見合セ一段落付キタル時提出セラルルヲ可トセント述ヘ内容ニ關シ個人ノ意見ナリトシテ左ノ如キ談話ヲナセリ

一、主力艦ヲ「オヘンシブ」トシ潛水艦ヲ「デヘンシブ」トスル事ニ異議アリ
二、一般協定ト特別協定トニ分離スル事ハ可ナリト思フ
三、戰艦二五〇〇噸十四「インチ」砲ハ建造困難ニシテ速力、防禦力等ノ關係上十二「インチ」ニテモ二八〇〇噸ヲ必要ナリト思フ

四、日本案ハ現有艦船ヲ處分スルニアラスシテ將來ノ問題ナリ現在艦ト代艦トノ威力差ノ爲各國ノ勢力決定ヲ非常ニ複雑ナラシム

甲巡ノ如キハ代艦建造カ十數年後ノ問題トナル故ニ今日ハ問題トセサル方可ナラン

五、航空母艦問題ハ爆撃機廢止ト陸上航空兵力トニ關聯シ研究ノ餘地アランモ巡洋艦ノ着甲板裝備禁止ハ技術ノ進歩及救命等ノ問題ニ鑑ミ不同意ナリ

モ、關係各國ト協力シテ、軍縮事業ノ成功ニ寄與センガ爲、最善ノ努力ヲ致シ來レリ。今次會議ニ於ケル各國ノ提案、就中米國大統領「フーバー」氏及英國樞相「ボールドウィン」氏ノ提案ニ付テハ、其ノ發意ニ對シ、帝國政府ハ衷心敬意ヲ表シ慎重考慮ヲ加ヘタルモ其ノ内容ニ於テ帝國政府ノ受諾シ得ザル點アルヲ以テ海軍軍縮問題ニ關スル其見解ヲ開示セント欲ス。

帝國政府ハ海軍軍備ノ質的及量的縮減ニ關スル討議ヲ行フニ當リテハ曩ニ一般委員會ニ於テ決議シタル軍縮ノ原則、軍縮ノ基準及質的軍縮ノ原則ノ三大決議ニ立脚シ、進攻的ニシテ攻撃威力大ナル兵力ノ縮減ヲ圖ルト共ニ、各國ノ地理的地位及特殊事情ヲ充分ニ考慮シ、各國ノ安全感ヲ害セザル様、現實ノ情況ニ即セル、公正ニシテ合理的ナル解決ヲ期スルヲ以テ今後會議指導ノ原則タラシムベキコトヲ要求ス。

次ニ協定方法ハ、會議ヲ成功セシムル上ニ於テ、最モ考慮ヲ要スルモノナル處、今次會議ノ如ク全世界各國ノ參加セル大會議ニ於テ、相互ニ自國ニハ關係ナキ問題又ハ微細ナル問題迄モ、一々全參加國間ニ於テ討議シ、一舉ニ全般ニ

巨ル協定ヲ遂ゲントスルガ如キハ、實際上不可能事ニシテ、會議ノ成功ヲ期スル所以ニアラズ、故ニ帝國政府ハ、今後ノ海軍問題ノ討議ニ於テ、前記會議指導ノ原則ノ實現ニ適合シ、會議ノ進捗ヲ容易ナラシメ、其ノ目的達成ヲ確保スル爲、有效ニシテ實際のナル順序方法トシテ、協定ノ大綱ハ七月二十三日ノ一般委員會決議ニ於テ考慮セラレタルガ如ク日、英、米、佛、伊間ニ豫メ商議スルコトトシ、次ニ協定ヲ一般協定及特別協定ノ二階段ニ區分シ、以テ一般的事項ヨリ局部的、細微的事項ニ移ルノ形式ヲ執リ、又海軍兵力ヲ強力ニシテ相對的性質濃厚ナル兵力、即チ主力艦、航空母艦及甲級巡洋艦ト、地理的地位及特殊事情ニ至大ノ關係ヲ有シ、防禦上竝ニ警備上必要ナル兵力、即チ主トシテ乙級巡洋艦、驅逐艦及潛水艦トニ區別シ、一般協定ニ於テハ、各種艦船ノ質の縮減竝ニ五大海軍國ノ主力艦、航空母艦及甲級巡洋艦ノ量の縮減ヲ行ヒ、以テ極力攻撃威力ノ削減ヲ圖リ、尙五大海軍國ニ通ズル乙級巡洋艦以下ノ最大限度保有量ヲ定ムルコトトシ、特別協定ニ於テハ、利害關係密接ナル國家間毎ニ、乙級巡洋艦、驅逐艦及潛水艦ノ量の縮減ヲ行ヒ以テ各國ノ地理的地位、特殊事情等ヲ充

縮少スルコトヲ協定ス。

(四)日、英、米、佛、伊ノ五國以外ノ各國ノ保有量ハ各國ノ現實保有兵力量ヲ標準トシ其ノ地理的地位特殊事情等ヲ考慮シ特別協定ニ於テ制限縮少スベキコトヲ協定ス。

(B)特別協定

特別協定ハ全世界ノ各國ヲ概ネ太平洋組、大西洋組、歐洲組、南米組ニ區分シ、一般協定ニ於テ定メタル所ヲ基礎トシ、主トシテ各國ノ實際保有スベキ兵力量(日、英、米、佛、伊ハ乙級巡洋艦以下ノ保有量)ニ關シ各組毎ニ制限縮少ヲ協定ス。而シテ二組以上ニ跨リ密接ナル關係ヲ有スル國ハ、其ノ關係組ノ協定ニ參加ス。抑今次會議過去六箇月間ノ討議ヲ通ジ、全世界各國ノ一般の一致ヲ見タル最重要ナル點ハ攻撃力ヲ弱メ防禦力ヲ増サシメントノ基礎原則ニ基キ採擇セラレタル質の軍縮ニ關スル原則ナリトス、故ニ帝國政府ハ、先ヅ專門委員會ニ於テ壓倒の大多數國ガ、進攻のニシテ、國防破壞ニ有效ナルノミナラズ、非戰鬥員ニ脅威ヲ與フルモノナルコトヲ認メタル航空母艦ノ全廢ヲ主張シ、且各艦種ヲ通ジ艦

分考慮ニ入レ、協定ノ公正ヲ期シ得ベカラシムルコトナスハ、此ノ際實施スベキ最モ實際のナル方法ナリト信ズ。帝國政府ハ、以上ノ見地ニ基キ、全世界各國間ノ協定ノ基礎タラシムルニ、最モ合理的ニシテ且實際のナル方法トシテ、左ノ提議ヲナサントスルモノナリ。

(A)一般協定

一般協定ハ艦船ノ質の縮減及日、英、米、佛、伊ノ五國ノ攻撃威力大ナル艦船ノ量の縮減ヲ協定シ、尙右各國ニ通ズル乙級巡洋艦以下ノ最大限度保有量ヲ協定スルヲ目的トス。

(一)各艦種ノ艦型及備砲ノ制限縮小ヲ協定ス。

(二)日、英、米、佛、伊ノ五國ノ主力艦、航空母艦及甲級巡洋艦保有量ノ制限縮少ヲ協定ス。

(三)日、英、米、佛、伊ノ五國ノ乙級巡洋艦、驅逐艦及潛水艦保有量ハ右各國ニ通ズル最大限度ノ保有量ヲ本一般協定ニ於テ定メ右各國ガ實際ニ保有スベキ量ハ特別協定ノ分類ニ從ヒ各國ノ屬スル組ニ於テ夫々ノ關係國間ニ現實保有量ヲ標準トシ其ノ地理的地位、特殊事情等ヲ考慮シ前記最大限度ノ範圍内ニ於テ出來得ル限り

型ノ縮小、就中威力大ナル主力艦及甲級巡洋艦ノ艦型縮小ヲ要求セントス。

次ニ攻撃力ヲ減少シ防禦力ヲ増大セシムベシトノ基礎の原則ハ、必然的ニ優勢海軍國ニ對シ、劣勢海軍國ニ比シ、一層大ナル犠牲ヲ提供セシムベキモノナルコトヲ要求スルモノニシテ、眞ニ軍縮ノ實行ヲ期セントセバ、前者ハ自ラ率先シテ、他國ニ比シ一層大ナル削減ヲ行フノ覺悟ヲ有セザルベカラズ、殊ニ兩者ヲ通ジ同一率ノ縮減ヲ行ハントスルガ如キハ、其ノ縮減ノ大ナルニツレ、劣勢海軍國ノ安全感ヲ害スルノ程度愈大ナルベシ、故ニ主力艦及甲級巡洋艦ノ如キ、相對的性質濃厚ナル艦種ノ縮減ニ當リテハ、特ニ此ノ點ヲ考慮シ、劣勢海軍國ノ安全感ヲ傷ケザルヲ要ス。

乙級巡洋艦及驅逐艦ハ、他國ノ兵力ト相對的關係比較的薄ク、大ナル進攻の威力ヲ有セズ、戰時ニ於テハ沿岸防禦及交通線保護上、又平時ニ於テハ警備上地理的狀況ニ依リ、其ノ所要量ハ主トシテ各國自主的ニ決セラルベキモノナリ。又潛水艦ハ、海軍委員會ニ於テ大多數ノ代表ガ認メタルガ如ク、防禦のニシテ進攻の性質ヲ有セ

66

昭和7年12月10日 内田外務大臣より
在ジュネーヴ軍縮全権宛(電報)

海軍軍縮問題に関する我が方提案提出に際し
ての外務大臣談話発表について

(三)日、英、米、佛、伊ノ五國ノ各國ニ通ズル乙級巡洋艦、驅逐艦及潜水艦ノ最大限度ノ保有量ヲ左ノ通定ム

乙級巡洋艦 一五〇、〇〇〇噸

驅逐艦 一五〇、〇〇〇噸

潜水艦 七五、〇〇〇噸

之ヲ要スルニ、帝國政府ノ提案ハ、全世界輿論ノ是認セル軍縮ニ關スル原則ヲ基調トシ、軍縮事業ノ目的ヲ達成スルニ、最モ公正合理的ニシテ實際的ナル解決方法ヲ提出シ、會議ノ成功ニ寄與セントスル誠意ヲ披瀝セルモノニシテ、他海軍國ニ於テ之ヲ受諾スルニ困難ナカルベキヲ信ズルノミナラズ、之ニヨリ關係各國民ノ軍事費負擔ヲ輕減セシムルコト莫大ナルモノアルベク、眞ニ恒久的世界平和ノ確立ニ寄與スルノ道ナリト確信スルモノナリ。

~~~~~

ズ、且他國ノ同種兵力ト相對關係ヲ有スルコト極メテ薄ク、劣勢海軍國ノ防禦上必須ノ兵力ニシテ、其ノ所要量ハ専ラ各國ノ防禦的立場及地理的地位ニ依リ、自主的ニ決定セラルベキモノナリ。即チ乙級巡洋艦以下ノ艦船ノ保有量ハ、主トシテ各國ノ地理的地位及特殊事情ヲ重視シ決定スベキモノナルヲ以テ、各國ノ實際保有スベキ量ハ、特別協定ニ於テ之ヲ決定シ、一般協定ニ於テハ、各國ノ容認シ得ル共通ノ最大限度ヲ以テ協定センコトヲ要求セントスルモノナリ。

右ノ考慮ニ基キ帝國政府ハ、左ニ一般協定ノ具体案ヲ提示セントス。

具 体 案

(一)將來建造ノ各艦種ノ艦型及備砲ノ最大限ヲ左ノ通制限縮小ス

主力艦 二五、〇〇〇噸 十四吋(三五・五糧)砲

甲級巡洋艦 八、〇〇〇噸 八吋(二〇・三糧)砲

乙級巡洋艦 六、〇〇〇噸 六・二吋(一五・五糧)砲

驅逐艦(嚮導驅逐艦ヲ含ム) 一、五〇〇噸 五・一吋(一三糧)砲

潜水艦 一、八〇〇噸 五・一吋(一三糧)砲

航空母艦ヲ全廢シ且艦船ニ飛行機着艦用ノ臺若ハ甲板ヲ裝備スルコトヲ禁ズ

(二)日、英、米、佛、伊ノ五國ノ主力艦及甲級巡洋艦ノ保有量ヲ左ノ通縮少ス

主力艦

日本 二〇〇、〇〇〇噸 八隻

英國 二七五、〇〇〇噸 十一隻

米國 二七五、〇〇〇噸 十一隻

佛伊兩國ハ一五〇、〇〇〇噸(隻數任意)ヲ最大限度トシ其ノ範圍内ニ於テハ各ノ實際有スベキ量ヲ關係國間ニ於テ協定ス

甲級巡洋艦

日本 八〇、〇〇〇噸 一〇隻

英國 九六、〇〇〇噸 一二隻

米國 九六、〇〇〇噸 一二隻

佛伊兩國ハ五六、〇〇〇噸(七隻)ヲ最大限度トシ其ノ範圍内ニ於テハ各ノ實際有スベキ量ヲ關係國間ニ於テ協定ス

別電 十二月十日發内田外務大臣より在ジュネーヴ

軍縮全権宛軍第八二號

右外務大臣談話

暗軍第八一號

本省 12月10日發

貴電軍第三〇三號ニ關シ

當方ニ於テハ十一日午前三時ヲ期シ別電第八二號本大臣ノ談話ヲ附シ發表ノ予定ナリ尙本件ニ關シ海軍大臣ノ談話モ發表セラル、處右ハ貴地海軍全権宛聯本軍縮官房機密第四十四番電ニテ御承知相成度シ

(別電)

本省 12月10日發

軍第八二號

今般壽府テ發表ニナツタ海軍問題ニ關スル帝國提案ノ内容ハ別項ノ通テアリマスカ右提案ハ今次一般軍縮會議開催以來發表セラレタル關係各國ノ要求ヲ能フ限リ考量ニ入ルルト共ニ攻撃的勢力ヲ弱メ防禦的勢力ヲ強メントスル軍縮會議ニ於テ一般ニ認メラレタル原則並世界輿論ノ趨勢ニ基キ

ナサレタルモノテアリマス。我軍縮提案ハ他國ノ同種提案ニ比シ實現可能性ニ付最モ攻究ヲ遂ケタルモノテアルト共ニ他國ノミヨリ大ナル犠牲ヲ要求セルモノテハアリマセン。從テ各國カ我提案ヲ充分研究スルニ於テハ我方要求ノ公正ナルモノテアルコトヲ善ク了解シ得ヘキモノテアルコトヲ確信スルモノテアリマス。我方提案ハ航空母艦ノ全廢ヲ始メ世界ノ海軍軍備ニ對シ重大ナル縮減ヲ加ヘントスルモノテアリマシテ之カ採用ヲ見ルニ於テハ各國財政ノ上ニ及ホスヘキ負擔輕減ハ實ニ莫大ナルモノカアルノミナラス今後世界各國間相互信頼ハ一層促進セラルルコトナルヘシ。從テ關係國ニ依ル吾カ提案ノ受諾ハ今次ノ國際聯盟主催ノ一般軍縮會議ニ最モ意義アル成果ヲ齎シ以テ世界恒久平和ヲ確立セシムルノ所以ナルヲ信シテ疑ハナイ次第デアリマス

編 注 「別項」見当らず。

67 昭和7年12月12日

在ジュネーヴ軍縮全權より  
内田外務大臣宛(電報)

三、英佛獨伊ノ四國政府ハ一切ノ歐洲諸國ト共ニ如何ナル場合ニ於テモ紛争ノ武力解決ヲ試ミサルヘキコトヲ嚴肅ニ確認スルノ用意アリ  
右宣言ハ安全保障問題ノ討議ヲ妨クルモノニアラス  
四、英米佛獨伊五國政府ハ軍備ノ大縮減ヲ實現シ且將來ノ新ナル縮減ニ關スル改訂條項ヲ含ム條約ノ作成ニ遲滯無ク努力スルノ決意ヲ有ス  
英、米、佛、獨、伊ヘ轉電シ、白ヘ郵送セリ

68 昭和7年12月12日

在ジュネーヴ軍縮全權より  
内田外務大臣宛(電報)

日本が海軍軍縮に関する提案において保有比率の変更を提議したことは極めて遺憾との米  
國全權発言について

ジュネーヴ 12月12日後発  
本 省 12月13日後着

軍第三一〇號  
往電軍第三〇九號會談ヲ終リ辭去セントセル際「デヴィス」ハ松平ヲ止メ一言シタシトテ日本海軍提案中比率ノ變

独国の軍備平等權問題に関する英・米・仏・  
獨・伊五國間妥協案成立と独国の會議復帰に  
ついて

ジュネーヴ 12月12日後発  
本 省 12月13日前着

軍第三〇八號

獨逸ノ軍備平等權ヲ中心問題トスル五國內交渉ノ經過ハ隨時報告ノ通ナルカ十日左記要旨ノ妥協案成立シ「マクドナルド」ヨリ「ヘンダーソン」議長宛通告セリ

一、英佛伊三國政府ハ軍縮會議ノ指針タルヘキ一原則ハ一切ノ國ニ安全保障ヲ齎スヘキ制度ノ下ニ獨逸其ノ他平和條約ニ依リ軍縮ヲ行ヒタル諸國ニ權利ノ平等ヲ付與スヘキコト及右原則ハ軍縮條約中ニ表明セラルヘキコトヲ宣言セリ

右宣言ハ一切ノ國ノ軍備制限ヲ右軍縮條約中ニ記載スヘシトノ意味ヲ包含ス尙右平等權適用ノ様式ハ今後會議ニテ討議セラルヘキモノトス

二、右宣言ニ基キ獨逸ハ軍縮會議ニ復歸スヘキコトヲ通告セリ

更ヲ提議セラレタル事ハ甚タ遺憾ナリ實ハ米國側ニ於テハ今日迄成ルヘク條約上ノ不利ヲ考慮セスシテ造艦ヲ差控ヘ居リタル處今日迄鳴リヲ潛メ居タル海軍擴張論者ハ更ニ又今頃日本提案ニ依リ刺戟セラレテ驟キ出ス事トナル俱アリ米國ノ大ナル面積ト大ナル人口及其ノ防禦スヘキ海岸線カ兩洋ニ別レ居ル點ヨリ觀テ比率ノ變更ハ到底困難ト信スト述ヘタルニ付松平ハ保有量ノ減縮ニ伴フテ劣勢海軍國保有量ノ比率カ當然増加スヘキ必要アルハ過日來累次御話セル通りナリ人口ニ於テハ日本モ最近ノ統計ニ依レハ九千萬以上ニ達シ米國ノ一億ニ對シ大ナル差異無キニ至レル一方米國ハ其ノ地形カ大ナル一團ヲ爲シ國土内ニ凡ユル天然資源ヲ有シ工場等ノ能力充分ニ發達シ居ルニ反シ我國ハ食糧品軍需品其ノ他ノ材料ヲ總テ海外ニ仰カサル可カラス海岸線ノ如キモ南北ニ頗ル長ク朝鮮臺灣南洋諸島迄防護セサル可カラス加之工場ノ能力ニ付テモ米國ニ比較スルヲ得サルヲ以テ平常ヨリ此ノ點ニ留意スルノ必要アリ

(2) 又倫敦會議ニ於テモ屢説明セル如ク假令米國海岸カ兩洋ニ別レ居レリト雖モ何時ニテモ一方ニ集中シ得ヘク現ニ米國ハ目下全艦隊ヲ太平洋ニ集中シ居ルニ非スヤ從テ日本ノ國

防観念ヨリ觀レハ米國海軍ヲ二箇ニ分割シテ考フルヲ得ス  
加之今回ノ米國及英國提案又華盛頓及倫敦條約ニ對シ一種  
ノ變更ヲ意味ス日本ハ倫敦會議ノ終ニ若槻代表カ明カニ聲  
明セル通り一九三五年ノ會議ニ於テハ何等拘束セラルル處  
無ク自由ノ立場ヲ採ルヘキ事ヲ明カニセリ今回ノ會議ハ各  
種軍縮ニ關係ヲ及ホシ出來得レハ長期ニ亘リ確乎タル基礎  
ノ下ニ新ナル條約ヲ作ル事ニ努力スヘキモノナルカ此ノ意

#### \*事項編注

- 一 本件會議については、同會議我が方全權団作成の會議報告書が『日本外交文書 國際連盟一般軍縮會議報告書』（全三冊）として復刻・刊行されているので、本件會議の各委員会や分科会の討議内容など、會議經過の詳細については、同書参照。
- 二 本事項収録文書の冒頭に十印のあるものは、外交史料館所蔵の条約局第三課作成調書「一般軍縮會議 帝國全權宛電報」および「同 訓令集」より採録した。

味ニ於テ今回ノ日本案ノ提出ヲ見タル次第ナリト説明シ置  
ケリ尙「デ」ハ英國側ニ於テ又米國側ト同様保有量ノ減縮  
ト同時ニ比率ノ變更ヲ來タスヘキモノニ非スト考ルカ如シ  
ト述ヘタルニ付松平ハ自分モ左様ノ事ヲ聞ケル事有ルモ此  
ノ點ニ付我方ノ意見ハ英米ト相違スト述ヘ置ケリ  
英、米、佛ヘ轉電シ獨、伊、白ヘ暗送セリ

## 二 ローザンヌ會議\*

昭和7年1月3日

在スイス矢田（七太郎）公使より  
犬養（毅）外務大臣宛（電報）

賠償會議をローザンヌにて開催したき旨招請  
国よりスイス政府へ申入れについて

付記一 昭和六年十二月三十日付在本邦リンドレー英

国大使より犬養外務大臣宛公信第二四一号

賠償會議の開催地および開催日に関する英国  
案に対する我が方意向を照会

二 昭和六年十二月三十日付在本邦リンドレー英

国大使より犬養外務大臣宛公信第二四二号

賠償會議は大国主導でゆくべきとの英国側意  
向について

三 昭和六年十二月三十一日付犬養外務大臣より

在本邦リンドレー英国大使宛公信条三機密第

二四四号

賠償會議の時期および開催地に関し英国提案

に同意について

四 昭和六年十二月三十一日付犬養外務大臣より

在スイス矢田公使宛電報第九号

賠償會議開催に関する英国案に同意について

ベルン 1月3日後発

本省 1月4日前着

第一號

客年貴電第九號ニ關シ

日本、英國、佛蘭西、伊太利、白耳義、獨逸各國政府ハ  
「ローザンヌ」ニ於テ賠償會議ヲ開催シ度キニ付右ニ對シ  
瑞西政府ノ同意ヲ得度ク且會議ニ必要ナル一切ノ便ヲ與ヘ  
ラレン事ヲ希望シ期日ハ一月後半ナルモ確定次第改メテ通  
報スヘキ旨右六ヶ國大公使ヨリ明四日附同文書簡ヲ以テ當  
國政府ニ申入ルル事トナリタリ  
英、佛ヘ暗送セリ